

諏訪湖とその集水域における陸水学, 生物学および地質学の文献目録 (1891~1980) と研究小史

倉沢秀夫*・田中邦雄**・沖野外輝夫*・林 秀剛* 編

Bibliographies and Short Historicals of Limnology, Biology and Geology Pertaining to Lake Suwa and its Watershed for the Years 1891—1980

Compiled by Hideo KURASAWA, Kunio TANAKA, Tokio OKINO and Hidetake HAYASHI

1. ま え が き

諏訪湖集水域生態系の総合的研究を開始するに当り, 各種の研究項目の分担研究員から, それぞれ収集した文献や, 現在の仕事の成果の報文を整理して, 研究推進の能率を上げるに便ならしめると共に簡単な研究史を作るよう要望された。それで遅まきながらその要求に応えるべく仕事にかかったが, 諏訪湖とその集水域に関係する文献は, 1890年代にはじまり今日に至る約90年間に亘り存在し, その報文数は夥しい数にのぼる。それらを, 単に年代順に並べたり, おおまかな分類項目に分けるだけでは, 研究利用には役に立たず, いたづらに混乱した不満足な文献目録になりかねないし, まして報文内容の大略に基づいた研究史の記述さえ困難となる。

それで, まず報文を一件毎にカードに記載するカード整理方法を採用した。それは, 一定の方式の分類法にしたがってカードを整理配列し, 研究者の必要に応じて容易に見出し利用出来る様専門分野毎に見出しカードを挿入したり, 新たに発表された報文の追加増補も可能な有利な文献整理法である。こうしたカード方式による分類配列をすれば, 分類項目内のカードをみれば, それぞれ研究分野の歴史的経過が容易に判明するし, また, 全般的な研究史も各分類項目内のカードの枚数を数えれば, 年代別の各学門分野の研究の盛衰も明らかにすることが可能である。

著者らは, 収集した報文カード約1,200枚を, 後述す

るような作業により分類配列し, 諏訪湖とその集水域における研究略史をまとめ, 文献目録を作成したので報告する。

本文献目録の作成には, 植物学関係の研究史作成は信州大学教養部の清水建美教授の御援助をうけ, また坂本圭司氏には植物関係の文献目録について御教示をうけた。さらに, 諏訪湖集水域生態系研究班の班員各位からは数々の御支援をいただいた。以上記して感謝の意を表する。

2. 報文の収集とその分類配列の方法

本来ならば, まず, 原著報文を収集して後文献カードを作ることから開始するのであるが, 今回は著者や班内研究員の所持するものは別として, その大部分は既に発刊された文献目録や引用文献よりカードを作製した。

すなわち, 全国的な陸水学関係のものは吉村編(1944)の日本湖沼学文献目録I(1883~1942)および資源科学研究所編(1950)の同名II(1943~1949)があるが, これらは報文を年度別に集めて著者のABC順に配列したものである。また, 諏訪湖とその集水域の陸水学ならびに陸水生物学関係の文献目録は, 小泉・大谷(1966)の諏訪湖湖沼学文献リスト(1890~1966)があるが, 分類内容は単行本, 地学, 物理, 化学, 生物(水産を含む), 雑件の6項目を設け, 項目内の報文は年代順に配列したものである。最近のものでは, 諏訪臨湖実験所業績目録のNo.1~3(1972

* 信州大学理学部 Fac. Sci. Shinshu Univ.

** 信州大学教養部 Fac. Lib. Art. Shinshu Univ.

～1980)の1962～1977年間の諏訪湖に関する陸水学関係の文献リストがある。

集水域の陸上関係の文献目録は、地質関係では諏訪教育会(1975)の諏訪の自然誌、地質編の文献目録、植物編(1981)および動物編(1978)の各節の末尾に掲載された引用文献があり、桜井(1973)の霧ヶ峰高層湿原と陸水に関する文献目録もある。

以上の資料から、報文1件毎にカードを作成し、報文題名や著者名およびその報文の内容に基づいてUDC国際十進分類法(1974年版)とその索引(1945)により、各カードに分類番号を振り、定められた配列法にしたがって整理した。見出しカードは必要項目毎に作成し、また、各項目内のカード枚数が50枚を越えるときは、細分分類番号の見出しカードを挿入した。分類番号は諏訪湖の集水域生態系研究に主体をおき、使用に便ならしめるように振って配列順序を定めた。また、学問分野の項目が重なるような場合は、分類番号の若い方を優先させた。

報文を陸水関係と陸上関係の二つの群に大別し、それぞれの分類項目の番号順に配列したが、前者は陸水学と陸水生物学であり、後者は地質学と陸上生物学に関する報文で構成した。

報文の選別は、自然科学関係の原著論文や総合報告を主とし、人文関係のものは必要なもの以外は除外した。また通俗記事は単行本の他は原則として載せてない。

目録の書き方は、著者名、年号(西歴)、報文題名、巻、号、頁の順であるが、学術雑誌の巻数や報告書の号数はゴチック体で印刷し、輯や集の下に巻、号のあるものは、輯や集をローマ字(例えばII、IVなど)巻はゴチック体、号は()で囲んで表わし、頁は起頁と終頁を示すようにした。単行本は頁数の後に発行所名を誌した。

なお、この文献目録から文献カードを作成可能なように記載の巾を狭めて印刷してあるので、ゼロックスなどでコピーをとり、1報文毎に切断して図書館用カード(75×125 mm)に貼付ければ容易にカードとして保存利用できる。

3. 結果と考察

3-1. 分類項目と年代別の報文数からみた研究小史

3-1-1. 諏訪湖とその集水域の陸水関係報文数

上記の手順により分類項目毎に整理配列された報文カードのうち、陸水学および陸水生物学に関するものは、1891～1980年の間において、5年間隔の年代に発

表された報文数を数え、分類項目別と年代別との関係を表わす報文数の分布表を作成すると表1のようであり、年代順の報文数の変化は図1に示すとおりである。

報文総数は608篇におよび、集水域に関するもの140篇、諏訪湖は468篇を数えた。表1と図1によれば、年代の進むにつれて増える傾向が顕著であるが、昭和初期(1920年代)の経済不況のときと、第二次大戦中(1941～1945)には著しく減っている。最大数は102篇で1966～1970年間にえられ、報文総数の1/6強を占める。

吉村(1944)は日本湖沼学文献目録I(1883～1942)で収集した総論文数は587篇で、5年毎に集計して我が国の湖沼学発達史を述べているが、本報告の結果と同様に1920年代および1940年代には論文数は少ない。

分類項目(報文内容)別の報文数と年代との関連では1910年代までは集水域の研究はほとんど見られないが、諏訪湖では主として地質や物理に関するものが大部分である。1920年代と1930年代には、集水域では温泉や霧ヶ峰の池沼生物の研究が、諏訪湖では化学的水質、生物では底生動物、魚類および水産業の報文が多くなる。一方1910年代に多かった地質学や物理学的な研究は一様に少なくなっている。

戦後には、集水域では温泉関係の仕事が1950～1970年の間に多くなされ、また、河川水質からはじめられた研究は近年は河川生物群の研究へと移りつつある。また、霧ヶ峰の池沼の研究は1910年代から引きつづき近年まで継続され、その報文数は少なくない。

諏訪湖では、湖沼生産力研究にはじまって、プランクトン、底生動物の報文が急速に増え、大型水草がそれらに次いでいる。また、生物生産力研究と関連の深い化学的な水質の研究が1960年代より目立って多くなり、1960年代後半からは湖の汚濁と富栄養化の現状やその対策の報文が集中的に増えている。水産関係のものは、戦前、戦後を通じて各年代に分散し、報文数の総計は多い。このように諏訪湖において、戦後報文数が急増したのは内水面生産力研究(1948～1951)、JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力に関する研究(1968～1973)(特定研究)および諏訪湖集水域生態系研究(1977～継続中)(特別研究)などの総合研究が行われてきたことや、諏訪湖浄化対策研究委員会(1965～1968)の調査活動の成果が発表されてきたことによる。そして、これらの研究作業に刺激されて、地元の教育関係者や中学、高校の研究クラブに研究熱が高まり、一層報文数の増大を招来したことは確かである。

3-1-2. 集水域の陸上関係報文数

報文を地質学関係と生物学関係の二つに分けて分類配列し、陸水関係と同様な方法で報文数の分布表と図

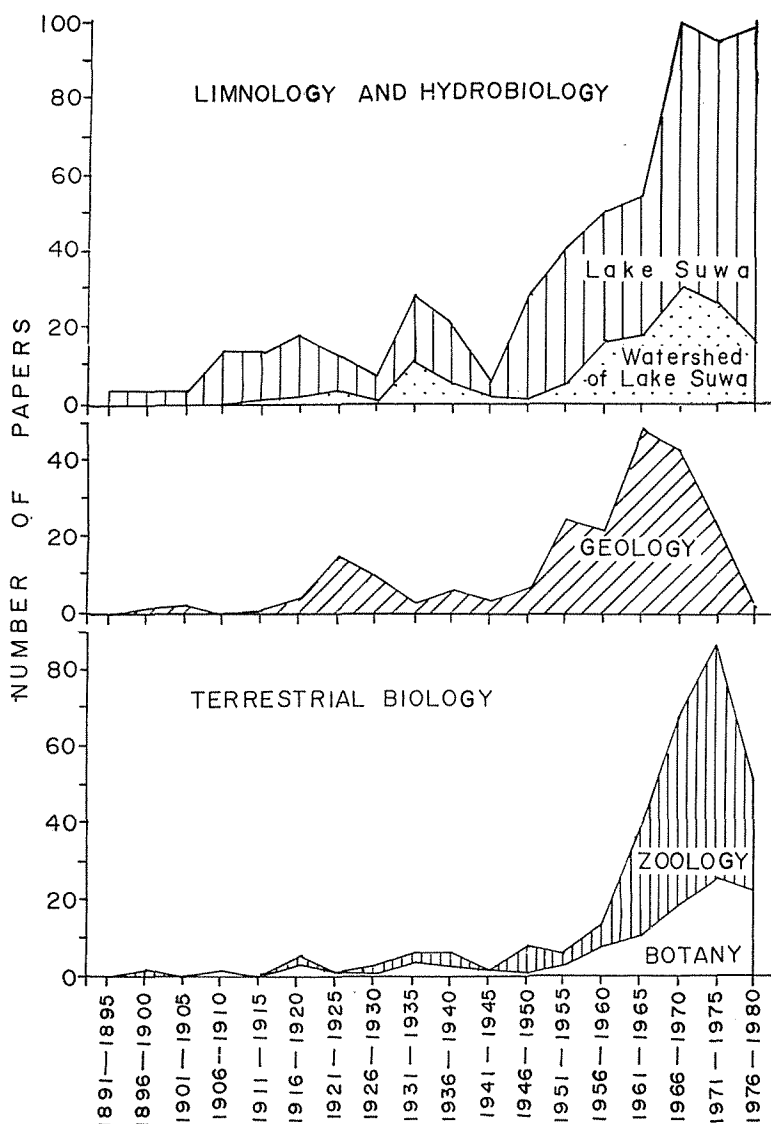


Fig. 1. Chronological changes in number of limnological biological and geological papers published pertaining to Lake Suwa and its watershed from 1891 to 1980.

図1. 諏訪湖とその集水域に関する陸水学的、生物学的及び地質学的発表報文数の年代的变化。

を作り、表2と図1に示した。

3-1-2-1. 地質関係の報文数

地質学関係の報文の収集年の範囲は、1896～1980年の間であるが、最近の6年間すなわち1975～1980は急に少なくなっている。これは、諏訪の自然誌、地質編の発行年が1975年で、著者らの大部分の報文収集源がこの書の文献目録であったことにもよる。以上の事情

を考慮に入れても年代の進行に伴う報文の発表数は、陸水関係の報文数の増減傾向とはほぼ同様で、第二次大戦中の大きな落ち込みはあっても、一般的にいて増加している。特に1950年以後の増加は著しく、収集総報文数219篇のうち約2/5が1960年代に集中しており、1970年代前半からやや減少傾向がみられる。

分類項目のうち報文数の多いのは、一般地質学で

Table 1. Frequency table of number of papers published to each kind of UDC classification items of Limnology and hydrobiology pertaining to Lake Suwa and its watershed from 1891 to 1980.

表 1. 諏訪湖と集水域の陸水学, 陸水生物学に関する UDC 各分類項目別の研究報文数の年代別分布表 (1891~1980)

Items of Classification of Limnology and Hydrobiology	陸水学, 陸水生物学分類項目	UDC No.	1891—1895	1896—1900	1901—1905	1906—1910	1911—1915	1916—1920	1921—1925	1926—1930	1931—1935	1936—1940	1941—1945	1946—1950	1951—1955	1956—1960	1961—1965	1966—1970	1971—1975	1976—1980	Unknown	Total
Hot springs in watershed	集水域の温泉	556.51 : 553.7					1			1	4		1		3	10	9	4	2		35	
Hot spring organisms in watershed	集水域の温泉生物	556.51 : 553.7 : 582											1								1	
Water quality of hot springs in watershed	集水域の温泉水質	556.51 : 553.70/.79									4					1		4			9	
Tap and rain waters in watershed	集水域の降水と水管理 (水道)	556.51 : 556.12/.18															5	7	2	1	15	
Ground waters in watershed	集水域の地下水	556.51 : 556.3																4	1		5	
Rivers in watershed	集水域の河川	556.51 : 556.53										1							2		3	
River organisms in watershed	集水域の河川の生物	556.51 : 556.53 : 57/59										2						1	7	2	12	
Water quality of rivers in watershed	集水域の河川の水質	556.51 : 556.531/.535													2	3	3	5	5	13	31	
Lakes and ponds in watershed	集水域の湖沼	556.51 : 556.55					1	1	1			1						4	5		13	
Lake organisms and water quality in watershed	集水域の湖沼の生物と水質	556.51 : 556.551/.555+57							2		3	3		1		1	1	2	3		16	
Limnology of Lake Suwa	諏訪湖の湖沼学	556.55			1		2	1	1				1	1					2		9	
Bibliographies of studies on Lake Suwa	諏訪湖の研究の文献目録	556.55 : 002									1		2	1				1	1	2	8	
Natural history of Lake Suwa	諏訪湖の博物学	556.55 : 502						2		1								2	1		7	
Formation origin of Lake Suwa	諏訪湖の成因	556.55 : 551.24	2	2	1			1													6	
Rainbows on Lake Suwa	諏訪湖の虹	556.55 : 551.593.61				1		2							4		3	1			11	
Natural gases in Lake Suwa	諏訪湖の天然ガス	556.55 : 553.981	1	1																	2	
Vestiges in Lake Suwa	諏訪湖の中の遺跡	556.55 : 571.9				4	2	1											2		9	
Bacteriology and decomposition in Lake Suwa	諏訪湖の細菌と分解	556.55 : 576.8																5	2	2	9	
Material metabolism in Lake Suwa	諏訪湖の物質循環	556.55 : 577.11																			6	
Biology of Lake Suwa	諏訪湖の生物	556.55 : 577.472(28)						1			1						1		2		5	
List of organisms in Lake Suwa	諏訪湖の生物目録	556.55 : 577.472(28) (083.1)																	1	3	5	
Macrophytes in Lake Suwa	諏訪湖の大型水草	556.55 : 577.473(28) : 582.4					1	1							1		6	3	1	4	17	
Zoobenthos in Lake Suwa	諏訪湖の底生動物	554.55 : 577.474(28)								1	3			1	4	4		3	3	1	20	
Plankton in Lake Suwa	諏訪湖のプランクトン	556.55 : 577.475(28)							1								8	6	6	2	23	
Phytoplankton in Lake Suwa	諏訪湖の植物プランクトン	556.55 : 577.475(28) : 58				1		1							3		1	6	7	1	20	
Phytoplanton productivities in Lake Suwa	諏訪湖のプランクトン光合成	556.55 : 577.475(28) : 581.132													1	1	5	6	2	3	18	
Zooplankton in Lake Suwa	諏訪湖の動物プランクトン	556.55 : 577.475(28) : 59							1						2					4	7	
Biological production of Lake Suwa	諏訪湖の湖沼生産力	556.55 : 581.132+591.134												3	1		1		3	2	10	
Large animals in Lake Suwa	諏訪湖の大型動物	556.55 : 59															1		2	1	4	
Molluscs in Lake Suwa	諏訪湖の貝類	556.55 : 594										2		1		1					4	
Shrimps in Lake Suwa	諏訪湖のえび類	556.55 : 595.38							2	2											4	
Insects in Lake Suwa	諏訪湖の昆虫類	556.55 : 595.7			1			1							1		1	1	2	1	8	
Fishes in Lake Suwa	諏訪湖の魚類	556.55 : 597				1	2				3	2			1	2	1	2	5		19	
Birds in Lake Suwa	諏訪湖の鳥類	556.55 : 598.4														1	1		2		4	
Fishery of Lake Suwa	諏訪湖の漁業	556.55 : 639.2/.6				1		1	4					5		8	1	1		3	24	
Landing amounts of fishes and capture methods	諏訪湖の漁獲と方法	556.55 : 639.21.05									1	1		5	2	3		2	6	3	23	
Fish culture and liberation in Lake Suwa	諏訪湖の養魚と放流	556.55 : 639.31					1	2	1		2			2	2	4	3	1		2	20	
General Water quality in Lake Suwa	諏訪湖の水質一般	556.551								1	1	1				1		1	2	3	10	
Physical water quality in Lake Suwa	諏訪湖の物理的水質	556.551.113																2		4	6	
Water temperature in Lake Suwa	諏訪湖の水温	556.551.113 : 536.5	1		1		1		1					3		1				1	9	
Ice cover in Lake Suwa	諏訪湖の結氷	556.551.113 : 551.324.43	1			4	2	1				2		2	3	1	1				18	
Inorganic chemical water quality in Lake Suwa	諏訪湖の無機化学的水質	556.551.114 : 546								7	1			1				2	4	11	26	
Organic chemical water quality in Lake Suwa	諏訪湖の有機化学的水質	556.551.114 : 547																	4	3	10	
Nutritive salts in Lake Suwa	諏訪湖の栄養塩	556.551.114 : 581.113.8																2	3	4	9	
Water level and Seiche in Lake Suwa	諏訪湖の水位, セイシ	556.555 : 532.5					1	3				1				2	1	1			7	
Bottom mud and sedimentation in Lake Suwa	諏訪湖の底泥, 堆積物	556.555 : 551.312													2	1	1	9	4	6	23	
Eutrophication, water pollution in Lake Suwa	諏訪湖の汚濁, 富栄養化	556.555 : 628.19																7	9	10	26	
Public nuisance of water quality in Lake Suwa	諏訪湖の水質公害	556.555 : 628.54															1		2		3	
Artificial changes of littoral regions of Lake Suwa	諏訪湖の沿岸変化 (土木)	556.557 : 624/628											1	1	2	5	4				13	
Sewerage system and Lake Suwa	諏訪湖と下水道	556.557 : 628.2																		1	1	
Sewer treatment and Lake Suwa	諏訪湖と下水処理	556.557 : 628.3															1				3	
Watershed total	集水域計						1	2	3	1	11	7	2	1	5	17	18	31	27	16	140	
Lake Suwa total	諏訪湖計		4	4	3	14	13	16	10	6	17	14	4	27	32	34	38	71	70	83	9	468
Sum total	総計		4	4	3	14	14	18	13	7	28	21	6	28	37	51	56	102	97	99	9	608

Table 2. Frequency table of number of papers published to each kind of UDC classification items of geology and terrestrial biology pertaining to Lake Suwa and its watershed from 1891 to 1980.

表2. 諏訪湖集水域の地質学, 陸上生物学に関するUDC各分類項目別の研究報文数の年代別分布表(1891~1980)

Items of Classification of Geology	地質学分類項目	UDC No.	1891—1895	1896—1900	1901—1905	1906—1910	1911—1915	1916—1920	1921—1925	1926—1930	1931—1935	1936—1940	1941—1945	1946—1950	1951—1955	1956—1960	1961—1965	1966—1970	1971—1975	1976—1980	Unknown	Total
Geology of watershed	集水域の地質	556.51 : 551.1/.4		2			1			1		1	1	1	6	1	1	2	1	2		20
Palaeozoic and Mesozoic in watershed	集水域の古, 中生代層	556.51 : 551.73/.76									2				1	2	4	2				11
Tertiary Period in watershed	集水域の第三紀	556.51 : 551.78							1	4		1			3	2	8	5	1			25
Fossils of Tertiary Period in watershed	集水域の第三紀の化石	556.51 : 551.78 : 564														1	7	1	1			10
Quaternary Period in watershed	集水域の第四紀	556.51 : 551.79												1	2	2	4	8				17
Volcanos of Quaternary Period in watershed	集水域の第四紀火山	556.51 : 551.79 : 551.21	1						2		1				2	4	7	8	5		1	31
Structural geology of Quaternary Period in watershed	集水域の第四紀構造地質	556.51 : 551.79 : 551.24										1		1		1	1	3	1			9
Topography in watershed	集水域の地形	556.51 : 551.79 : 551.4					1		3	2			1		1	1		2				11
Petrology of Quaternary Period in watershed	集水域の第四紀岩石	556.51 : 551.79 : 552.2													1	3						4
Igneous rock in watershed	集水域の火成岩	556.51 : 551.79 : 552.3						1	2							1	1					5
Sedimentary rock Quaternary Period in watershed	集水域の第四紀堆積岩	556.51 : 551.79 : 552.5													1							1
Loam in watershed	集水域のローム層	556.51 : 551.79 : 552.524														5	6	5				16
Hot spring geology of Quaternary Period in watershed	集水域の第四紀温泉地質	556.51 : 551.79 : 553.7									1				1	2	2	2				8
Fossils of Quaternary Period in watershed	集水域の第四紀の化石	556.51 : 551.79 : 56						2	1						1		2					6
Vestiges of Quaternary Period in watershed	集水域の第四紀遺跡	556.51 : 551.79 : 571.1/.9							2								2	4				8
Plants of Quaternary period in watershed	集水域の第四紀の生物	556.51 : 551.79 : 577.472																1	1			2
Soils in watershed	集水域の土壌	556.51 : 551.79 : 631.4						1								3						4
Diluvium, glacial age and deposit in watershed	集水域の洪積期, 氷期, 堆積物	556.51 : 551.791/.795						1	1	1	1				2	2	1	1				11
Petrology in watershed	集水域の岩石学	556.51 : 552						2							1							3
Ore deposit in watershed	集水域の鉱床学	556.51 : 553						2				1	1	4	4				1			13
Natural gases in watershed	集水域の天然ガス	556.51 : 553.981					1								1	2						4
Total	地質学計			1	2		1	4	16	10	3	7	3	7	25	22	47	43	23	1	3	219

Items of Classification Biology	生物学分類項目	UDC No.	1891—1895	1896—1900	1901—1905	1906—1910	1911—1915	1916—1920	1921—1925	1926—1930	1931—1935	1936—1940	1941—1945	1946—1950	1951—1955	1956—1960	1961—1965	1966—1970	1971—1975	1976—1980	Unknown	Total
Moor plants in watershed	集水域の湿原植物	556.51 : 551.312.2+58			1		4		1	2	4	2	1	1	1	4	3	5				28
Terrestrial botany in watershed	集水域の陸上植物	556.51 : 58						1									1	1	5			8
Plant ecology in watershed	集水域の植物生態	556.51 : 581.5						1		2						1		3	4			11
Dead tree strips in watershed	集水域の枯樹現象	556.51 : 581.526.42 : 581.149								1					2	7	1	5	5			21
Grassland and forest ecology in watershed	集水域の草原, 森林の生態	556.51 : 581.526.42 : 581.51							1						1	1	1		3			7
Vegetation, distribution in watershed	集水域の植生, 分布	556.51 : 581.9															3	9	6			18
Plant taxonomy in watershed	集水域の植物分類	556.51 : 582					1								1	4	8	10	10			34
Terrestrial zoology in watershed	集水域の陸上動物	556.51 : 59														1			4			5
Animal taxonomy and ecology in watershed	集水域の動物の分類と生態	556.51 : 592+591.5															1	2	1			7
Molluscs in watershed	集水域の貝類	556.51 : 594											1		1	3	1	4				10
Flat worms in watershed	集水域の扁形動物	556.51 : 595.12																1				1
Spiders and their ecology in watershed	集水域のクモ類と生態	556.51 : 595.4+591.5									1				1	1	3		2			9
Insects and their ecology in watershed	集水域の昆虫類と生態	556.51 : 595.7+591.5		1			1									7	13	4	4			30
Butterflies and their ecology in watershed	集水域の蝶類と生態	556.51 : 595.789+591.5								2	1		2	2	1	3	1	10	2			25
Amphibia in watershed	集水域の両生類	556.51 : 597.8	1									1		1		1	1	5	1			11
Bird taxonomy in watershed	集水域の鳥類分類	556.51 : 598.2														2		7	5	1		15
Bird ecology in watershed	集水域の鳥の生態	556.51 : 598.2+591.5															1	3	2	2		8
Ecology of each species of birds	集水域の各種鳥類の生態	556.51 : 598.2/.8+591.5							1						1	3	8	4				17
Mammal taxonomy in watershed	集水域の哺乳類の分類	556.51 : 599												2		2		4	8	5		21
Ecology of each species of mammals	集水域の各種哺乳類の生態	556.51 : 599.32/.82+591.5												1		2	8	6	9	1		27
Botany total	植物学計					2		4	2	2	5	4	2	1	4	8	11	21	33	28		127
Zoology total	動物学計		1	1				2		1	2	3		7	2	11	28	48	54	23		183
Sum total	総計		1	1	2			6	2	3	7	7	2	8	6	19	39	69	87	51		310

1900年代から今日まで各年代で分散発表されている。第三紀と第四紀関係の報文は1950年以後に集まり、特に第三紀とその化石、そして第四紀とその火山およびローム層の研究は、1960年代に入って急増しているのが目立つ。以上の項目にみる報文発表数の年代推移に対し、鉱床学関係のものは1940年代の後半より1950年代の前半にのみ集中しているのが特徴的である。

こうした地質学的な報文の内容は、いずれも純地質学的なものが多く、水質と結びつく物理的および化学的な研究や、生物学に関連させて報ぜられたものは未だ少ないが、そのようになって行く気配は充分にうかがえる。

3-1-2-2. 陸上生物関係の報文数

収集報文総数は310篇で、そのうち127篇が植物関係であり、動物に比べ著しく少ない。報文数の年代による推移は、上述の陸水学や地質学の場合と同様に、第二次大戦中は減っているが、戦後は急に多くなり、動物関係の研究活動は1950年代から、植物は1970年代に入って著しくなる。

分類項目中で報文数の多いのは高層湿原（霧ヶ峰）の植物の研究で、これは1900年代にはじまり今日までの年代に分散してみられる。また草原や森林の生態関係のものは1950年代より、植物分類に関しては1960年代以降に急増している。一般動物と一般昆虫に関するものは1960年代以後に増えて来るが、蝶類は研究歴が古く、すでに1930年代から今日に至るまで各年代に分散して多くみられる。また、鳥類、哺乳類も1960年代以降で増えて来る。しかし以上の陸上生物の報文の大部分は分類、分布、習性などで、本研究に必要な生産生態学的な研究報文は極めて稀であり、昨今漸くそれに該当する研究が開始されたばかりである。

3-2. 諏訪湖とその集水域の自然科学研究経過

3-2-1. 陸水学と陸水生物学

3-2-1-1. 集水域関係

温泉：諏訪湖周辺の温泉群の報文は多く、低川沿いの酸性泉、下諏訪、上諏訪、盆地中部（福島、下金子、神宮寺）、上原、塩壺、蓼科など研究されているが、その科学的調査が最も多くなされているのは上諏訪温泉群である。最初の報文は三沢勝衛（1924）の「上諏訪温泉の泉脈について」であり、ついで三沢・吉村信吉・他（1931）が「上諏訪温泉研究」を報告した。戦後の1950年代と1960年代には、小林国夫・稲垣益二・南英一などが地質学的地球化学的な面からの調査報告書を出した。温泉の水質は吉村（1931）、野口喜三雄、千野光芳はそれぞれ1960年代と1970年代に化学成分について報告している。

気象と水管理：矢沢大二（1976）は諏訪地方の古気候と近年のそれとの比較考察を発表し、また、渡辺義人（1979）は降雨中の窒素とリンの陸水域の負荷量を算出し、その重要性を明らかにした。西沢節二ら県衛生公害研究所の研究グループは1960年代から1970年代に亘り諏訪地方の水道資源や水質の調査に意欲的に取っている。

地下水：報文は比較的少なく、斎藤保人（1968～1970）の諏訪湖周辺の地質と地下水の関係の研究がある。

流入河川：生物相の研究は、河西（白石）芳一は既に1930年代の後半に八ヶ岳水系や角間川において調査を開始しており、戦後では井出嘉雄（1972）、茅野靖夫（1974）は各河川における水生昆虫相を調べた。また、倉沢秀夫・他（1975）は諏訪湖への主要流入河川全部の河口部の、森川和子（1980）は一部河川の上流から河口部までの流下水域の、付着藻類と細菌類の組成や数量の調査を行ない、底生動物については倉沢・他（1974）の報文がある。また、流入河川からの栄養塩の流入に関しては、渡辺義人・他（1979）が富栄養化対策調査報告書において宮川水系を中心にまとめている。生物学的水質判定による流入河川の汚濁の経年変化は倉沢・他（1973）が、農村地域や山地溪流の底生動物による判定結果は、沖野外輝夫・他（1980）や吉田利男（1978）が明らかにした。さらに、流出河川の新井川の生物群集については、付着藻類、プランクトン（倉沢・他1962, 1973, 1974）および底生動物（小松典1974, 吉田1980）の流下に伴う群集構造と現存量の変化が調べられた。また、新井川と人工河川の西新井川との水質や生物群集の流下過程における変動の比較研究（倉沢・他1973, 1974, 1981）もしばしば行われて来た。

河川の水質底質：水質汚濁に集中して研究しているのは県衛生公害研究所の研究者達で、1950年後半から1970年まで長野県全域を調査し諏訪湖関係河川の結果も多く発表されている。就中岡谷市の工場排水については1960年半ばより1970年代にかけて詳細な報告がある。

池沼と湖：霧ヶ峰の池沼は、戦前は湖盆形態や水質、プランクトンの一部（武田久吉1917, 牛山伝造1922, 1923）の研究が早くもはじめられ、微小藻類の分類学的研究報文が多く研究者によって出されている。戦後には陸水学的総合研究（白石, 倉沢, 青山, 桜井善雄, 渡辺1973）の成果が報告され、桜井は「霧ヶ峰の陸水」（1973）の中で池沼の水質保全に関し警告をしている。白樺湖（人造湖）の水質と生物群集の研究（小

泉清明・他1970, 1971)が行楽地の湖の富栄養化の一例としてなされ、その汚濁の実状が明確にされた。

3-2-1-2. 諏訪湖関係

湖沼学一般：田中阿歌麿(1981)は我が国の陸水学の最初の大著「湖沼学上よりみたる諏訪湖の研究」は、古典的なものとはいえ現今に至るものなお高い評価をうけている。内容は物理、化学、地質、生物、漁業、人文地理などの広範なもので、当時の諏訪湖の実状を克明に記録している。その後、湖全体ではないが、渋のエコ調査委員会(1973)による生物を中心とした湖沼学のまとまった報告がある。これは護岸・埋立・浚渫の土木工事で、消滅直前に追い込まれた諏訪湖の天然状態を残す大型水草の生育地帯を調査した報告書で、後世に伝えるべく現状を詳しく記録した貴重な資料である。

湖の地質学的研究：湖の成因は明治末期より大正初期に研究され(山崎直方1986, 山下伝吉1898, 田中阿歌麿1902, 小林房太郎1917)、一部火口湖説もあったが、やがて八ヶ岳噴出物による堰止湖であることが判明した。

湖内天然ガスは明治末期に岩崎重三(1897)が、戦後では木島公司・他(1952, 1953)が鉱床調査をしている。

また湖内の「ソネ遺跡」の研究(橋本福松1909, 鳥居竜蔵1918)は早くから開始されたが、以後中断し戦後は藤森栄一(1964)により再開され、その成果は「諏訪湖のソネ研究」となって発刊された。

生物目録：生物界全般にわたる最初の諏訪湖の目録は、白石・倉沢(1948)の戦争直後のものである。その約30年後に倉沢・沖野(1975, 1976)によって大中に追加種が補充され発表されている。

大型水草：中野治房(1914)の植物生態研究により、種属や分布範囲が最初に明らかにされ、その後宝月欣二(1953)、小泉・他(1967)、桜井・渡辺(1973)および倉沢・他(1977)により分布と現存量が観察測定され、倉沢・他(1979)によって湖の富栄養化や沿岸部の土木工事(浚渫、埋立、護岸工事)に伴う水草の種属と分布帯の縮小や現存量の減少についての経年の推移が明確にされた。その他には、ある湖内水域に限っての種属や分布帯の調査は、地元の中学校や高校の生物クラブによって数多くなされている。

底生動物：底生動物群集の種属、分布、現存量などの生態学的研究は、宮地伝三郎(1928, 1931)によって開始され、戦後間もなく諏訪湖生物生産研究の一環として北沢石三・倉沢(1951, 1952)によりその分布と現存量の季節変化が明らかにされた。また、最近に

至って IBP-PF 研究(倉沢・他1976)や福原晴夫・他(1980)によって、その後の状況が継続的に研究されてきている。特にユスリカの生態については、関要(1935)以来数多くの報文が出されているが、IBP 研究期間中には山岸宏・福原(1969~1971)によりその種属と羽化期の一層詳細な生態研究がなされた。

プランクトン：服部広太郎(1908)により植物プランクトンの組成とその季節変動の研究が最初になされたが、その後戦後に至るまで年間の観察は途絶えていた。終戦後に倉沢・白石(1954, 1955)の植物プランクトン、倉沢・他(1952)の動物プランクトンの現存量の季節変動が、生物生産研究の一環として報告されている。1960年代には倉沢らや地元の中学校や高校の生物クラブにより継続され、IBP 研究では採集間隔を短くした年間の季節変動の現存量(倉沢・他1970~1973)が、動・植プランクトンについて測定された。最近では、きめ細かい現存量の季節変動は勿論動・植プランクトンの増減関係(青山莞爾・磯部吉章・諏訪湖定期観測グループ1978, 1979, 1980)や動物プランクトンの食性研究(青山1980)が積極的に行われている。

植物プランクトンの生産力：1950年代は宝月・市村俊英(1954)により、1960年代には市村(1961)および坂本充(1962~1966)により、1970年に入ってから沖野(1970)によって研究がつづけられ、Bag 実験による基礎生産の共同研究(倉沢・他研究グループ)により多くの成果をえた。最近では沖野・他(1978, 1980)によって基礎生産に関する観察や実験の測定が、年間を通じてなされつつある。

晩春から初秋までの長期間繁殖する *Microcystis* については、その生態、生理に関する仕事(小泉1972, 沖野1968, 1973, 益子計夫1974)は多数あり“水の華”の実状が漸くはっきりして来つつあり、その化学分析の研究(矢木博・他1964, 半田暢彦・他1969)もなされた。山岸・他(1973)による“水の華”現象が網イケス養鯉に及ぼす影響の原因追求の仕事も意欲的になされて来た。

細菌と分解作用：IBP 研究以後、漸く生物生産にとって重要であることが認知された浮游細菌の現存量や生産力は、桜井・他(1970, 1971)や、また近年では林秀剛・左山幹雄(1978)が細菌群の季節変化を明らかにした。また、手塚泰彦(1969)、小山忠四郎・他(1970)は分解過程や速度についてもふれており、佐藤泰哲(1979)は尿素分解菌を材料にして、分解機能の解明に取り組んでいる。

湖沼生産力：諏訪湖生態系の生物生産研究の最初の試みは、1947~1950年間の5年にわたるもので、その

成果は宝月・他（1952）の「内水面の生産および物質循環に関する基礎的研究」となって発表された。この仕事は、各専攻分野の研究者が緊密な連携の基に共同して調査を行った生態学的総合研究の日本では最初のもので、その成果は今も広く活用されている。この伝統は JIBP - PF の「諏訪湖の生物群集の生産力に関する研究」（特定研究、小泉・倉沢編1969—1973）へと引き継がれ、さらに現在続行中の「諏訪湖集水域生態系研究」（環境科学、特別研究 倉沢編1978—1981現在）へとへと研究域が拡大されてきた。

物質循環：以上の湖沼生産力の総合研究の骨組みとなる物質循環の研究は、各分野の成果を足場として研究され、有機物を中心としたものでは半田（1971）、小山（1971, 1978）、林秀剛・他（1972）の仕事があり、物質循環のモデル化や動態に関しては前者は田中哲次郎・沖野（1978）が、後者は坂本（1978）が研究に取り組んでいる。

動物：諏訪湖の動物の分類や生態の研究業績は多く、北沢・倉沢（1952）は諏訪湖の生産力調査の動物編の中で、生態系内の食物連鎖図を画いている。また渋のエゴの報告書（1973）中の動物の項目には、最近の多くの種属やその生態が比較的詳しく掲載されている。

エビ類のうち発光エビの報文が1925—1926年に牛山伝造や矢崎芳夫・他によって出されているが、その後この種の研究は見当たらない。昆虫相は古くは千野光茂（1918）が担当して「諏訪湖の研究」に載せており、戦後では前述の渋のエゴの報告に詳しい。トンボ類は朝比奈正二郎（1955）、倉田稔・両角徹郎（1969）により種属が精査されている。

貝類は移植種であるセタシジミを研究した黒田徳米・他（1936）の報文の他に、戦後はタニシ、カワナナの沿岸部の季節移動と生産力を測定した倉沢（1950, 1957）の仕事がある。魚類相については、魚類分類の専門家が何回か調べており、戦前には田中茂穂（1909, 1912, 1931）、宮地（1935）および岩倉親（1937）の報告があり、戦後では黒田長礼（1960）が最も多い種類を記載している。諏訪湖で最も多く獲れる魚類は昭和年代に入ってからワカサギであるが、これに注目して研究を進めたのは白石で、ワカサギの成長と分布状況（1954）や一般生態および漁業との関連を平易に解説した「湖の魚」（1972）の好著がある。一般魚類の食性や分布に関しては山岸宏・他（1970, 1972）があり、ワカサギの稚魚の生態（山岸1971, 1974）も明らかにされた。

水鳥の調査は金井汲治の永年の研究成果が「諏訪湖

の研究」（1918）に掲載され貴重な記録となっている。羽田健三（1949—1951）はガン・カモ科鳥類の群集生態について発表し、林俊夫・他（1975）は渋のエゴにおける鳥類の生態観察を行った。

漁業一般：諏訪湖の漁業全般について書かれたのは、「諏訪湖の研究」（1918）である。その後の経過は太田知度（1928）が雑誌「水産界」に何回かにわたり紹介している。昭和15年（1940）に下諏訪町に長野県水産指導所諏訪支所が開設されるに及び、毎年の事業報告や水産振興のための方策が発表され今日に至っている。小林正人（1959）はまた「近世諏訪湖の漁業」の中で当時の水産業の実状を明らかにしている。

魚類の生産：中野宗治・他（1951—1953）や水産指導所では、湖沿岸部の一区画を区切って魚を放養する試験をしたり、また、諏訪湖漁業協同組合では組合結成（大正6年1917）以来の湖全体の漁獲量の集計資料を備えている。倉沢・他（1980）はそれらの資料を整理して過去から現在に至る毎年の漁獲量の魚介種別の変遷を明らかにした。名東実（1978）は漁獲量と放流事業との関連を主要魚種について報告し、諏訪湖漁業の現状に至る所以を説明した。

養殖、放流：これらの増殖事業については、戦前では八木貞助（1913）、日暮忠（1916）、川上宗治（1917）、田内森三郎・他（1936）の報告があるが、戦後は水産指導所が中心となって行った魚介類の放流、養殖の結果が主となっている。この湖の最重要な漁獲物であるワカサギの研究は多いが、白石（1961）の「ワカサギの生物学的並びに資源学的研究」は精力的な研究である。

物理的現象と物理的水質：湖面に現われる水平虹について橋本福松（1918）と茅野慶次（1962, 1968）の研究があり、また湖の静振は田中（1911, 1915）および日高孝次（1940）により測定されている。水位の変動は岡谷釜口水門監理事務所（1965）において観察測定がつづけられている。稲垣・他（1958）は水位と温泉湧出量の関係を調べ、堀江三五郎（1933）は「諏訪湖氾濫三百年史」を刊行した。

水温の研究は田中（1899）が分布や其の他の発表したのがはじまりで、戦後では増沢譲太郎（1949, 1950）が結氷下と夏季の成層を観察し、牛山正雄（1965）はこれらの研究を引きついで研究をしている。

結氷に関する研究は早くからなされ、小林房太郎（1906, 1911）、藤原咲平（1920, 1936, 1954）、船津康二（1958, 1960）増沢（1948）、荒川秀俊（1954）などによる、結氷日、氷厚、御渡現象などの永年の記録を基に多くの成果を挙げている。

化学的水質：吉村（1931, 1937）は早くから諏訪湖を含めた全国各地の湖沼で無機塩の測定をしている。戦後の諏訪湖では宝月・他（1952）の生産力研究と併行して、湖および流入河川で大がかりの無機塩を測定したのが菅原健・他（1949）であり、湖沼生物生産との関連づけを試みた。IBP では小山・他（1972）は、pH と CO_2 の関係図式に基づいて炭素の循環から生産力の推算を行ない、また、中本信忠（1978, 1980）と渡辺・山本満寿夫（1980）は、それぞれリンの季節変化と有機物分解におけるその挙動を調査した。窒素化合物については、吉村（1935）が最初に手がけ、その後渡辺・山本（1978）はその季節変動を明らかにした。溶存酸素は戦前では吉村（1931, 1933, 1938）が何回か観測し、戦後では沖野（1978, 1980）が溶存酸素と全炭酸の同時観測を行ないその季節変動を追っている。水の華発生時の酸素の水平垂直分布については、吉村（1931）が最初に調べ表層における異常な高値を明らかにしている。また山岸・他（1972）は網イケス養魚被害のある“スス水”現象の実態をつきとめ、最近の研究では中島光敏・他（1979）が継続研究を行っている。

沖野・他（1978, 1980）は電気伝導度および各種イオン、 $\text{NH}_4\text{-N}$ 、COD の定期観測を3年間にわたりつけ、その季節変動のデータを提供した。溶存および懸濁有機物の研究は IBP 研究以来盛んに行われるようになり、半田・他（1972）、半谷高久・他（1970）が報告を出し、林（1978）は POC、DOC を、渡辺（1970）はセストン中の炭素化合物を、佐藤（1978, 1980）は尿素を、富野孝生（1971）はアミノ酸を測定した。坂本・神谷和子（1973）は植物生産と錯体有機物のリンの関係を報じている。

栄養塩の生物利用は中本（1979, 1980）、湖全体の栄養塩の流入流出の収支関係は矢木・他（1970）と窪田衛二・他（1971）が明らかにし、富栄養化と栄養塩の収支関係は坂本・他（1971）、半田・他（1973）、日比野（1976）および田中（哲）（1978）が算定し論述した。

湖底堆積物と沈澱物：堀江正治（1969, 1972）は湖底の堆積層から湖の陸水学よりみた年代を報告した。小泉・桜井（1968）や林（1970, 1973）により新生沈澱物量が測定され、西条八束・他（1956）、小山・他（1968）、八木・他（1972）によって底泥中の無機成分が調査報告された。また、西条・半谷（1953）、杉村行男（1960）、前田修（1969）および安部喜也（1972）、西村貢（1978）により種々の有機成分が検出測定されてきた。さらに、林（1970）、高野（1970）、福原・田中（哲）（1978）および西村貢・中島（1978, 1979）に

より底泥から水塊への物質移動の機構が報じられた。

富栄養化と水質汚濁：諏訪湖の汚れに関しては、1960年代半ばよりその研究が急遽着手され、諏訪湖浄化対策委員会（1966, 1968）によりその憂慮すべき実態が明らかにされた。小泉（1973）、日比野（1974）、福原（1978）、沖野・他（1979）、桜井（1979）はその汚濁原因や防止対策に言及した報告を出している。倉沢・他（1969, 1971）は過去60年間の湖の水質と生物群集の変遷の経過を明らかにし、小泉・他（1968）は沿岸部の生物群集構造から汚染水域を判定し、倉沢・他（1979）は大型水草の優占種の経年変化から、三浦泰蔵・鷹森英信（1972）と倉沢（1980）は魚相と漁獲量の変遷から、富栄養化への経年の進捗状況を明らかにした。

水質公害：湖の周辺の工場や各種産業廃水について、小泉・青木舜（1956）、桜井（1969）、山本（満）・他（1969）、河野哲郎・他（1980）がそれぞれの立場から湖の水質への影響を報告し、また、農地耕水の寄与率は沖野・他（1978）が宮川からの窒素、リンについて明らかにしている。

湖沿岸部の改変：昔から洪水対策として護岸工事や埋立浚渫が盛んになされ、これら土木事業の経過は長野県土木課（1940～1959）の事業報告に掲載されている。橘仙之助（1941）と水産庁調査研究部（1950）にも同様な報告がある。しかし、最近大規模に実施されてきた湖沿岸部の改変は、富栄養化の阻止の対策としてなされたもので、その作業経過は倉沢・他（1979）の「諏訪湖大型水生植物の分布と現存量の経年変化」に詳しい。

下水道計画と下水処理：広域下水道の供用計画によりその工事は進められているが、その進捗状況は沖野（1979）により著しく遅延していることが報ぜられ、また下水処理方法については小泉・他（1970）の工場からの下水道投入前処理が、河野・保坂（1980）は活性汚泥法の機能が検討されている。

3-2-2. 諏訪湖集水域の地質学

諏訪地域の地質の研究は、明治30年代（1900年代）頃山下伝吉が上田図幅の地質を調査して、その説明書を出したのが最初であるという。なお、伊沢次義（1890）の「諏訪湖について」、岩崎重三（1897）「諏訪湖の天然ガス」、小林房太郎（1912）「諏訪湖の成因」、田中阿歌麿（1918）「諏訪湖の研究」、佐藤伝蔵（1928）「諏訪温泉」をはじめ多くの諏訪の陸水に関係する地質学の報文は、すべて陸水学の項で説明したので、ここではこれらはすべて除外した。

地質学一般：山崎直方（1904）は諏訪全体のついて

体系的な説明を試み、本間不二男（1931）は多くの研究を集大成し「信濃中部地質誌」をあらわしたが、これによって信濃中部の地質学の基本的体系が完成したといわれる。戦後は諏訪地方の地質図幅とその説明書を、沢村孝之助・大和栄次郎（1953）が発表している。

中・古生代：中央構造線は杉山隆二（1939）の好著や、渡辺貫・石本己四雄（1937）、山田哲雄（1967）および端山好和・他の研究があり、また、糸魚川一静岡構造線については藤本丑雄・他（1965）の報文がある。入笠地域の戸台層の研究は前田二郎・川辺鉄哉（1967）などの、川岸地区の地質については諏訪地学委員会（1970）や斎藤保人（1971）の報文がある。また「長野県の中生代層」は小林国夫・田中邦雄（1953）により詳細に研究されている。

第三紀：本間不二男（1926～1928）は長野県中部第三紀層の地質構造や分類を詳しく述べ、戦後では鹿間時夫（1951）、田中（邦）（1968）も長野県中部全般の研究を試みている。細部にわたるものとしては、小林国夫（1955）が諏訪の西方地域の、諏訪地学委員会（1968～1971）は砥川付近や下諏訪北部の調査を行い多数の報文を出している。守屋山付近の第三系地質については、小池春夫（1959）、両角昭二（1960, 1961）、田中（邦）・他（1961, 1962）、守屋層団研究グループ（1962, 1963）による約10篇に及ぶ膨大な研究成果がある。

第三紀の化石：田中（邦）は単独または共著者と共に、1959～1973年の間に軟体動物の化石に基づいて、信濃中北部を中心に採集観察し、フォサ・マグナ地域の漸新世と中新世境界問題と取組んだ。また、守屋累層産の化石にもふれ、約10篇の報文をものにしていく。

第四紀：矢野和男（1964）、郷原保真（1967）、甲府盆地第四紀研究グループ（1969）は八ヶ岳南麓の、河内晋平（1965, 1974）は八ヶ岳ゼノリスや蓼科山の地質報告をしている。北沢和夫・小林賢一（1973）や稲垣（1953）は八ヶ岳西麓や富士見の第四紀層の研究を、斎藤保夫（1972～1973）は岡谷市川岸地区について調査をした。金井孝夫（1973）はR Iや電気探査によって諏訪盆地の浅層地質を明らかにし、百瀬寛一（1955）およびその共著者（1966）や野村哲は古地磁気変動の立場からの地質調査を進め、成果をおさめた。飯田祥子（1973）は更新統上部の花粉分析を八ヶ岳西麓について行っている。

第四紀の火山：古くは山崎（1898）の八ヶ岳火山象地質調査報文や、本間（1924）の諏訪地方についての火山地質記録がある。また、八ヶ岳の火山地形については河内（1961～1972）の連続的な調査や佐藤久

（1957）、北沢（1969）の報文があり、また、霧ヶ峰火山に関しては牛山伝造（1924）、北沢（1973）の調査報告がある。火山の岩石に関する研究では、八ヶ岳では三沢勝衛（1934）、河内（1957～1961）、霧ヶ峰についての研究は矢野（1958）、河内・他（1963）などの成果がみられる。中部地方全般の火山灰層は小林（1963, 1968, 1969）によって研究され、また、八ヶ岳の軽石層は吉田俊夫や中谷進（1970）によって調査され、火砕流堆積物は北沢・他（1972）によって調べられた。

第四紀の構造地質：河内・他（1965～1967）は八ヶ岳の火山列、円頂丘、火砕流堆積物について構造地質学的研究を行ない、 ^{14}C による年代推定をした。三沢（1930）は諏訪盆地の、酒匂純俊・他（1958）はトムラウシ山の、諏訪地学研究委員会（1966, 1969）および小池春夫・他（1972）は霧ヶ峰の構造土について、淡路正三（1938）はその断層地形についての研究報告をしている。

第四紀の地形：柳平千彦（1959）は諏訪市浜崎の地形の、川崎逸郎・村田正敏（1969, 1970）には八ヶ岳赤岳稜線西側にある凹地地形の調査報告がある。

第四紀の岩石：霧ヶ峰の岩石学研究は山崎（1965）や鈴木正男（1969）のフィッシュトランク法を用いての研究がある。火山岩の研究は佐藤（伝）（1927）は諏訪盆地西側について、牛山（伝）（1925）は和田峠の、百瀬・他（1959）は諏訪湖周辺の火山岩の磁気と地質に関する研究を行った。

ローム層：全般的にみた信州ローム層の研究報文をみると、小林と其の他の共著者（1958～1969）によるものが大多数を占める。諏訪地方に限ったものには小林（1958）、八ヶ岳周辺のものには北沢（1965, 1967）と矢野（1962～1964）の研究がある。

第四紀の化石と自然木炭：植物化石群については、埋木、自然木炭は小林彦四郎（1919）が諏訪糸萱で、芳沢喜久（1920）は八ヶ岳山麓で発見し、また、市川渡（1954）は諏訪湖堆積中の珪藻化石を観察している。亀井節夫（1970）は八ヶ岳山麓で象化石を発掘した。

第四紀の遺跡：鳥井竜蔵（1924）は「諏訪市誌」の中で、有史以前の湖畔住民の遺跡を述べ、八ヶ岳周辺のものでは小松虔（1967）と松崎一（1968）が、尖石遺跡については、宮坂英武・宮坂虎次（1964, 1966）が調査し、金井典美・岩田英経（1968）と岩塚守公・守屋以智雄（1965）は、それぞれ霧ヶ峰高原の旧文化遺跡に関し、環境と ^{14}C 年代と古気候地形学との問題を論述している。また、児玉司農武（1960）は諏訪沢川遺跡のローム層中の炭末について報告した。

第四紀の温泉地質：三沢（1924）の「上諏訪温泉の

泉脈について」の報文が最も古く、中村久由・他(1952)が下諏訪温泉の、小林(1960)や長野県衛生部(1964)は上諏訪温泉の地質研究を行っている。長野県全般については村井勇(1967)や飯島南海夫(1970)が温泉地質の概要を明らかにした。

第四紀の生物：那須孝悌(1972)は日本列島における第四紀の生物相を著わしているが、鈴木敬治(1970)は八ヶ岳とその周辺に孤立分布する針葉樹種と第四紀との関連づけを行った。

土壌：岩佐安(1962)は諏訪湖平野部の、菅野一郎(1962)は霧ヶ峰の土壌型の、山口啓造(1962)は諏訪湖周辺の水田土壌の調査結果を報告している。

洪積世、氷期：八木貞助(1928)と小林(1953)はそれぞれ信州の洪積層の分布とフォッサマグナ西部における侵食面積を記録しており、また氷期については小林(1963)は日本アルプス周辺の、郷原・他(1970)は八ヶ岳西麓の、田淵洋(1973)は霧ヶ峰における氷河地形と卓越風の方角推定などの研究報文を出した。小林・他(1959)は諏訪湖周辺の鮮新世火山岩類を岩石磁気法によって調査した。

岩石学：佐藤(伝)(1924~1929)は諏訪の鳴鉢石、六万石、杏仁状空隙中の角閃石について岩石学的研究を行っている。

鉱床学：八木(1923)は「信濃鉱物誌」と「信濃の地下資源」(1946)を著わし、また、鹿間(1951)と武藤雄方(1953)は、それぞれ南信と諏訪の鉱物についてその研究成果をまとめた。有名な和田峠の石榴石については神津俣祐・他(1940, 1941)が調査結果を発表している。諏訪地方の鉄鉱は古くは佐藤(1924)にはじまる研究があり、その後、北原順一(1949)や菊池徹(1948)らによって引きつがれている。

天然ガス：木島公司は1955~1958年の間に諏訪湖付近の天然ガスの試掘井報告やガス田の調査研究を進めると共に、湖内の天然ガスについても多くの報文を出している。

その他：氷河堆積物について、中島盛男(1938)は立科山亀甲池においてその礫を観察報告している。

3-2-3. 諏訪湖集水域の陸上生物学

湿原の植物：集水域の湿原としては霧ヶ峰高層湿原があるが、湿原の池沼については前述のとおりである。湿原の植物については、中野治房(1911)が明治44年に調査して、霧ヶ峰の湿原は、生態学および生理学にみて実に貴重なものであり、また、分類学や生物地理学上の面からも多くの研究資源をもつことを明確にした。その後、矢沢米三郎や河野齡蔵(1934)および本田正次・飛田広(1941)に研究が引きつがれ、フロラ

の全域的調査が実施された。

終戦後には、五味新平(1953)、牛山正雄(1968)により継続的に調査されているが、矢野悟道・他(1971)は1939年の国の天然記念物の指定の後に、改めて湿原の調査が詳細になされ、その植生と植物目録が刊行された(諏訪教育委員会)。近年、特に観光面から有名になるにつれて、湿原の荒廃が目立ちはじめたため、林一六(1970)や桜井善雄(1973)により、その保護の方策の指針が発表されている。

湿原の年代指定のための花粉分析は堀正一(1938, 1940)によってなされ、中野(1919)は八島が池の浮島の生態学的研究発表し、また、湿原を取巻く草原にも注目し多くの成果を挙げている(1939, 1944)。ミズゴケ属の植生と分布に関しては松田行雄(1961~1973)が明らかにしている。

植物と生態：諏訪地方全般の植物研究の概要は、最近発刊された諏訪教育会(1981)の「諏訪の自然誌、植物編」に詳しい。すなわち矢沢三郎・他(1890)の明治23年頃から研究がはじめられ、戦争末期と戦後一時途絶えたが、1950年代から再開されている。諏訪盆地の植物群落研究には飛田広(1934)による「諏訪神社上社の社叢」の天然植生の記録があり、八ヶ岳の天然生林は左治秀太郎(1930)により、南アルプス山系の森林生態は栗田勲(1963)により観察されている。また、諏訪湖集水域生態系研究の一環として調査されたものに、只木良也(1980)の集水域の葉量とその分布に関する生産生態学的研究の成果がある。

縞枯現象：八ヶ岳縞枯山についての研究は、戦前は砂原英治・大久保寛一(1932)により早くもはじまったが、その後は途絶え1950年代に至って急に研究活動が盛んになった。すなわち、五味新平・他(1954, 1956)、吉田邦男・他(1975)の観察調査記録にはじまり、その成因については大島康行・他(1958)、岩城英夫・他(1959)、黒岩澄雄・他(1959, 1960)、木村允・他(1968, 1969)の東京都立大学グループによる植生の生態学、生理学的な研究が約10年間にわたり実施され、群落構造、保水力、土壌などの関係が明らかにされた。また、その縞枯の他の成因については、島津昭(1959)、中原孫吉・岡田悠一(1967)、上下茂春(1970)、吉野みどり(1970)、甲斐啓子(1971)などによって、地形や局地風などの観点から検討された。

森林草原の生態：八ヶ岳における風と森林との関係では、吉野正敏(1960)と甲斐(1977)が山地の偏形樹から風向、気候景観を推定し、三沢勝衛(1930)と諏訪教育会(1965)は防風林についての記録観察をしている。また、八ヶ岳亜高帯の森林や草原の一部の生

産量は、それぞれ浅田節夫・赤井竜男(1963)と柴田治(1980)によって明らかにされ、諏訪湖集水域生態系の物質循環における草原の役割の研究を推進した。

植生、分布：諏訪地方の植生と分布は、信州植生研究グループ(1971, 1972)による「長野県の植生」に詳しい。また、分布の由来は横内斎(1976)が明らかにしている。長野県植生図作成調査団(1973, 1974, 1975, 1976, 1979)による植生図には第1～4集のうちには、諏訪地方のそれも載せられている。三沢(1929)は八ヶ岳火山山麓の景観型を発表した。清水建美(1971)は地質と植生に注目し石灰岩地方と植物との密接な関係を明らかにした。

植物分類：横内斎(1955)は八ヶ岳火山帯の植物や蓼科山の植物について報じ、また、上条行雄(1961)は、長年にわたり釜無山を調査し「釜無山の植物」を発刊した。飛田(1934)は上記の如く諏訪上社の社叢を調査したが、当時諏訪盆地周辺の自然林は、東俣御料林と車山の一部のみでこれらも漸次二次林に変わりつつあったが、上社のみは樹種も林床植物も豊富で自然林の様相を保持していたことを指摘し貴重なデータを残した。

動物と生態：諏訪地方の一般動物に関しては、諏訪教育会(1978)の諏訪の自然誌、動物編に詳細に述べられている。集水域の各種の森林の林床大型土壌動物の生態学的研究が、斉藤晋・他(1980)によって進められ、諏訪湖集水域生態系の研究という新しいテーマの解明に役立つことが期待される。

動物の分類と生態：諏訪教育会動物委員会(1970)により、諏訪地方の無脊椎動物相が発表されたが、それ以前霧ヶ峰の無脊椎動物相が発表されている(1966)。全動物目録は諏訪教育会(1978)の上記動物編に掲載されている。

陸上産貝類：諏訪地方に限ったものではないが、丸山英(1964)と飯島国昭(1980)が長野県の陸産貝類の採集報告をしている。

クモ類：長野県産クモ類の分類は最初は金子光司(1918)が、次は小松敏宏(1936)によりなされ、八ヶ岳産のものとしては野戸章(1966)や新海栄一(1967)によって分類発表された。

昆虫類：小林正明(1964～1975)は直翅目の生態やその分布とヤブキリについて多くの発表をした。両角徹郎(1962)や曾根原今人(1966)はトンボ類の分布や生活史などを明らかにしている。倉田稔(1971)はセミの生活を調べ、今福伸一・他(1963)は甲虫の分類を、鈴木邦雄(1965)は霧ヶ峰のハムシを調べた。また、千野光茂(1918)はテントウムシの変異の研究

を、内川公人(1967)は八ヶ岳のノミの生態学的研究を小哺乳類について行った。蛾の分類・分布と生態は、小池充(1963～1976)の長年の研究があり、ドクガについての詳しい報告もあり、諏訪清陵高生物クラブ(1966)の諏訪郡下の分布報告も出されている。

蝶類：チョウ類の研究家には、古くは矢沢米三郎(1895)があり、千野光茂(1901)は八ヶ岳において新種ミヤマシロチョウを発見している。1930年代には北沢右三、新村太郎、小松敏宏らによる「諏訪地方のチョウ研究」があり、新村(1940)は「信濃の蝶」を集大成した。また、諏訪蝶類同好会における三輪充武、浜栄一らの研究活動も、1950年代から1960年代にかけて貴重な成果を挙げている。三石暉弥、武居幸重・他や清陵高校のクラブは、1970年代に入ってミヤマシロチョウの生態とその保護に関し研究活動をつづけている。さらに、チョウに寄生する昆虫についても調査している。

鳥類の分類：金井汲治は明治末期には鳥類の標本採集をおこない、その成果を田中阿歌麿(1918)の諏訪湖の研究に載せ、未発表ではあるが「諏訪湖産鳥類目録」を作っている。戦後の研究活動は目ざましく、諏訪教育会動物委員会(1967, 1970, 1973)が多年にわたり諏訪地方の鳥類相全般の各種林相別の鳥類相や北八ヶ岳森林帯にまで及ぶ、広範な研究活動がなされている。中村登流(1967, 1975)も北八ヶ岳や、針葉樹林帯から広葉樹林帯に至る鳥相の変動を明らかにしている。

鳥類の群集生態：群集生態は諏訪教育会動物委員会(1970, 1973)の観察研究があり、信州鳥類生態研究グループ(1977)や中村(1963)は繁殖期の群集構造の観察を詳細に記録している。各種鳥類の生態は、諏訪教育会動物委員会(1969)による上社社叢のサギの生態研究、矢沢米三郎(1929)と平林国男・三石紘(1964)の八ヶ岳のライチョウの生態研究、羽田健三・堀内俊子(1970)のヒガラの雛の食性調査がある。コヨシキリについては長野県野鳥研究グループ(1965)と中川孝雄・他(1965)のテリトリーや生活史の報文がある。羽田・他(1968, 1972, 1973)はオオヨシキリやキクイタダキの生活史を明らかにした。平林浩(1959)はカラスの集団生活の、ホオジロは、中村(1968)と牛山英彦(1972)が一般生態観察を報告している。牛山(1968)はホオアカの行動圏とテリトリーを、諏訪教育委員会(1970)は霧ヶ峰高原草地で同鳥やビンスイの生息状況を調査した。中村(1962)は霧ヶ峰でコジュリンの繁殖を、佐野昌男(1974)は茅野市北山周辺のスズメの生活、習性、行動の詳しい調査

を行ない「雪国のスズメ」を出版した。

哺乳類の分類と生態：諏訪地方の哺乳類の調査は諏訪教育会動物委員会（1973, 1975）が行っており、両角源美・両角徹郎（1966）は小哺乳類の分布と変異についての研究報告をしている。宮尾嶽雄（1969）は天然林の変更と小哺乳類のファウナの関係を、両角（源）（1976）は食物関係の生態学的研究を実施している。

各種の哺乳類の研究では、徳田御稔（1950）が八ヶ岳のネズミや食虫類の“すみわけ”現象を観察記録し、宮尾、両角（徹）、両角（源）・他の信州哺乳類研究グループ（1961～1972）は長年にわたり八ヶ岳のネズミおよび食虫類の研究活動を行ない、多大の成果をおさめている。宮尾・他（1972）はハタネズミの食物嗜好性や、ネズミ類の腸の長さ（1960）、ノウサギの地方変異および八ヶ岳でのミズラモグラなどの生態研究もある。八ヶ岳一帯の中型と大型の哺乳類の研究は1970年代になされた上述の諏訪教育会動物委員会が主流となって行われ、ツキノワグマやテン、イタチ類などの生態調査がなされている。

あ と が き

本文献目録は、諏訪湖集水域生態系研究の総合編の作成に際し、諏訪湖とその集水域における自然科学研究史を知る必要に迫られ、準備不足のまま各種の報文を収集渉覧したので、誠に不十分なものである。今後利用された各位からの御援助を得て準次不足分を補ない、できるだけ完全な目録にして行きたい。

4. 諏訪湖と集水域の陸水学, 生物学, 地質学の文献目録

4-1. 諏訪湖と集水域の陸水学, 陸水生物学

集水域の温泉 556.51 : 553.7

不明（1918）

信濃上諏訪町附近温泉及瓦斯。
地質学雑誌, 25, 594～595.

河野 密（1958）

信濃上諏訪町附近温泉及び瓦斯調査。
地質調査所報告, 9, 48.

中村久由（1952）

日本の温泉, 126～129.

中村久由・村下敏夫・室住正義・山田隆基・太田 洋（1967）

温泉源調査報告書, 1～46. 長野県企画部。

稲垣益治・牧 真一・中村久由（1958）
（温泉科学第9巻第1号別冊）。

通産省地質調査所, 9, (1), 12～25.

久保田昌利・田中定昭（1970）

長野県の温泉(3). 南信地方の温泉.

長野衛研報, 85, 1～30.

佐藤伝蔵（1928）

諏訪温泉.

地質学雑誌, 35, 86～102.

三沢勝衛（1933）

諏訪地方の温泉.

信濃衛生, 325.

伊藤富雄（1959）

洲羽古湯物語.

南信日日新聞, 17426～17442.

西沢節二・長田実雄（1959）

諏訪市内の温泉.

長野衛研報, 21, 1.

三沢勝衛（1931）

上諏訪温泉研究（其の1）.

地理学評論, 7, (3), 12～21.

吉村信吉・三沢勝衛（1931）

上諏訪温泉研究（其の2）.

地理学評論, 7, (4), 239～262.

吉村信吉・三沢勝衛・藤森俊夫（1931）

上諏訪温泉研究（其の3）.

地理学評論, 7, (5), 406～426.

中村久由・牧 真一（1953）

長野県上諏訪温泉調査報告書, 1～20.

長野県諏訪湖総合開発.

河野 密（1958）

信濃上諏訪町附近温泉及び瓦斯調査.

地質調査所報告, 9, 48～51.

小林国夫・南 英一・野口喜三雄・他（1960）

上諏訪温泉調査報告書, 1～53. 長野県諏訪市役所.

小林国夫・南 英一・野口喜三雄・上野精一・一國雅巳・高橋保夫・綿拔邦彦・稲垣益次・千野光芳（1960）

上諏訪温泉調査報告書, 1～53. 長野県諏訪市.

佐藤伝蔵（不明）

長野県諏訪温泉調査報文.

地質調査所報告, 18, 1～24.

小林国夫・千野光芳・稲垣益次（1960）

長野県温泉地質調査報告書, 2, 1～57. 長野県衛生部.

竹ノ内省三（1964）

- 上諏訪温泉メモ. 諏訪市水道温泉部.
 岩本節治 (1964)
 上諏訪温泉メモ. 1~35. 諏訪市水道温泉部.
 小林国夫・千野光秀・稲垣益次 (1964)
 上諏訪温泉調査報告書 (その1)
 長野県温泉報. 2, 1~7.
 稲垣益次 (1964)
 上諏訪温泉調査報告書 (その2).
 長野県温泉報. 2, 8~15.
 安斉 徹・他6名 (1964)
 上諏訪温泉調査報告書 (その3)
 長野県温泉報. 2, 16~56.
 佐藤伝蔵 (1965)
 長野県上諏訪温泉.
 地質調査所報告. 16, 42~48.
 小林国夫・稲垣益次 (1965)
 神宮寺温泉調査報告書 (ガリ).
 山田隆基・加藤 完・中村久由 (1967)
 長野県諏訪市神宮寺地区温泉調査報告書.
 長野県企画部.
 大和栄次郎 (1971)
 長野県岡谷市温泉調査報告書. 1~11. 長野県企画部.
 山田隆基・加藤 完 (1971)
 長野県諏訪市神宮寺地域温泉調査報告書.
 長野県企画部.
 坂本峻雄 (1966)
 長野県茅野市塩沢温泉第2次視察報告.
 野口喜三雄 (1942)
 長野県諏訪郡蓼科山麓の温泉並に天然瓦斯に就て.
 地震. 14, (1), 26~31.
 南 英一・吉野諭吉・垣花秀武 (1953)
 諏訪鉄山付近の鉱泉, 陸水及び鉱泉沈澱物に関する地球科学的研究, 褐鉄鉱泉にともなうカリ, 燐及び砒素.
 上諏訪温泉報. 108~129.
 南 英一・野口喜三雄・上野精一・一国雅巳・高橋保夫・綿拔邦彦・稲垣益次・千野光芳 (1960)
 上諏訪温泉の地球科学的研究.
 上諏訪温泉報. 9~53.
- 集水域の温泉生物 556.51:553.7:582
- 江本義数・広瀬弘幸 (1949)
 日本産温泉植物の研究 (27). 長野県下諸温泉の温泉植物 I. 諏訪湖畔温泉の藻類.
- 温泉科学. 4, 1~8.
- 集水域の温泉水質 556.51:553.70/.79
- 吉村信吉 (1932)
 上諏訪温泉の泉質分布. 第2報(1). (其の3).
 地理学評論. 8, (4), 19~21.
 吉村信吉 (1932)
 上諏訪温泉の泉質分布. 第2報(2). (其の4).
 地理学評論. 8, (5), 22~44.
 吉村信吉 (1932)
 上諏訪温泉の泉質分布. 第2報(3). (其の5).
 地理学評論. 8, (6), 45~73.
 吉村信吉 (1931)
 上諏訪温泉の泉質と温泉地域の地下温泉の分布.
 地質学雑誌. 38, (453), 289~291.
 野口喜三雄 (1960)
 諏訪地方の温泉の化学的研究.
 温泉科学. 11, (1), 1~11.
 野口喜三雄 (1967)
 長野県の温泉の化学成分.
 温泉科学. 18, (2), 47~64.
 千野光芳 (1966)
 上諏訪温泉の化学成分.
 愛知学院大学論叢「一般教育研究」. 13, 271~293.
 千野光芳 (1966)
 上諏訪温泉のフッ素について.
 愛知学院大学論叢「一般教育研究」. 14, 207~222.
 千野光芳 (1967)
 上諏訪温泉における化学成分間の相関係数について.
 愛知学院大学論叢「一般教育研究」. 15, 272~285.
 千野光芳 (1967)
 上諏訪温泉のリチウム含量.
 愛知学院大学論叢「一般教育研究」. 15, 189~207.
 千野光芳 (1968)
 上諏訪温泉のホウ素含量.
 愛知学院大学論叢「一般教育研究」. 16, 313~323.
- 集水域の降水と水管理 556.51:556.12+.18
- Yazawa, Daiji (1976)
 Betrachtung über der Klimawechsel in historischer Zeit sowie in der Letzten Jahren in Suwa-gebiet (zentral-Japan), Hauptoächlich auf grund Religionsgeographisch Aufzuerchungsreichen.

- Der Staat und sein Territorium. (Franz Steiner Verlag GMBH, Wiesbaden), 175~188.
- 渡辺義人 (1979)
降雨の窒素, りん濃度と陸水域への負荷.
環境創造. 9, (6), 21~27.
- 西沢節二・久保田三郎・金井 清 (1961)
長野県下における水道源水並びに給水直前の水質について (その1)
長野県衛公研調研報. 33, 1~45.
- 西沢節二・久保田三郎・金井 清 (1961)
長野県下における水道源水並びに給水直前の水質について (その2).
長野県衛公研調研報. 34, 1~38.
- 西沢節二・久保田三郎・金井 清 (1962)
長野県下における水道源水並びに給水直前の水質について (その3).
長野県衛公研調研報. 43, 1~27.
- 西沢節二・松本頼樹・牧 幸男 (1963)
長野県下における水道源水並びに給水直前の水質について (その4).
長野県衛公研調研報. 50, 1~51.
- 西沢節二・牧 幸男・松田嗣夫 (1967)
長野県下における水道源水並びに給水直前の水質について (その5).
長野県衛公研調研報. 67, 1~39.
- 西沢節二・牧 幸男・宮島 勲・松本頼樹 (1967)
長野県下における水道源水並びに給水直前の水質について (その6).
長野県衛公研調研報. 68, 1~40.
- 西沢節二・牧 幸男・宮島 勲・松田嗣夫 (1967)
長野県下における水道源水並びに給水直前の水質について (その7).
長野県衛公研調研報. 69, 1~32.
- 牧 幸男・宮島 勲・村松紘一 (1972)
長野県下水道源水の水質 (昭和40~44年).
長野県衛公研調研報. 105, 1~98.
- 西沢節二・牧 幸男・宮島 勲・松本頼樹 (1967)
夏期長野県の山の飲料水調査.
長野県衛公研調研報. 66, 1~10.
- 関 久人・牧 幸男・宮島 勲・西沢節二 (1973)
岡谷市上水道水源汚染事故.
長野県衛公研調研報. 108, 1~30.
- 栗田秀実 (1968)
降じん量と降水量の関係.
長野県衛公研調研報. 82, 1~20.
- 栗田秀実 (1968)
降じん量と降水量の関係.
産業公害. 4, (6), 336~341.
- 西沢節二・牧 幸男・宮島 勲・松本頼樹 (1966)
長野県下スキー, スケート場の雪成分試験.
長野県衛公研調研報. 61, 1~23.
- 大槻政俊 (1965)
長野県の水資源. 水利用の現状と将来.
水. 1965(12), 58~64.
- 集水域の地下水 556:51:556.3
- 長野県企画部 (1968)
八ヶ岳山麓諏訪地域地下水源調査報告書. 長野県.
- 斎藤保人 (1968)
諏訪湖周辺の地下水と地質の関係についての考察 (第1報). 茅野市上川及び宮川流域の調査とその考察.
信大教養科教報. 3, 43~55.
- 斎藤保人 (1969)
諏訪湖周辺の地下水と地質の関係についての考察 (第2報). 岡谷市地域の調査とその考察 (その1).
信大教養科教報. 4, 8~19.
- 斎藤保人 (1970)
諏訪湖周辺の地下水と地質の関係についての考察 (第3報). 岡谷市地域の調査とその考察 (そのII).
信大教養科教報. 5, 15~24.
- 岡部 静 (1971)
長峰付近における表層地下水の地質学的考察.
諏訪研究紀要. 8, 132~148.
- 集水域の河川 556.51:556.53
- 桜井善雄・渡辺義人 (1974)
信州の陸水. 1, 1~193. 環境科学研究会 (上田).
Tanakadate, H. (1939)
Present condition of limnology in Japan.
Jap. J. Limnol. 9, 55~73.
- 市川健夫・山本耕二 (1974)
天竜川.
信濃の川旅(3). 1~180. 信濃路.
- 集水域の河川の生物 556.51:556.53:57/59
- 河西芳一 (1940)
八ヶ岳西斜面水系の動物相.
陸水学雑誌. 10, (3・4), 150~162.

- 井出嘉雄 (1972)
八ヶ岳西斜面上川水系の水生昆虫相。
用水と廃水. 14, 1 ~ .
- 茅野靖夫 (1974)
角間川の水生昆虫群集について
信州大学科学教育研究室生物研究報告. 23, 1 ~ 10.
- 河西芳一 (1938)
長野県角間川の襍翅目、蜉蝣目及び毛翅目について
陸生物学雑誌. 8, (3・4), 417~427.
- 曾根原今人 (1967)
トラフトンボ属蜻蛉の生活史. 特に八ヶ岳水系におけるオオトラフトンボについて。
TOMBO. 10, 2 ~ 13.
- 倉沢秀夫・青山莞爾・磯部吉章・他 (1975)
諏訪湖周辺河川の付着藻類と浮游細菌の季節変化。
陸水富栄養化とその対策. 2, 22~30.
- 森川和子 (1980)
諏訪湖に流入する2河川, 4地点における表流水と底質付着層の微生物群集について——細菌を主として。
諏訪湖集水域生態系研究. 5, 41~48.
- 茅野靖夫 (1974)
長野県入笠山南斜面流水中でトワダカワゲラ(幼虫)を採集。
New Entomologist. 23, 16 ~ .
- 吉田利男 (1980)
諏訪湖流出河川, 天竜川の底生動物群集の特性。
諏訪湖集水域生態系研究. 5, 38~40.
- 集水域の河川の水質 556.51 : 556.531/.535**
- 倉沢秀夫・青山莞爾・磯部吉章・他 (1974)
諏訪湖流入流出河川の水質と底生動物群集の季節変化。
陸水富栄養化の基礎的研究. 3, 42~53.
- 水野信彦・御勢久右衛門 (1973)
河川の生態学. 1~245. 築地書館。
- 松田嗣夫・久保田三郎・長田実雄・壇原忠夫 (1958)
長野県下の河川, 湖の水質について。
長野県衛公研調研報. 15, 1 ~ 9.
- 西沢節二・牧 幸男・松本穎樹 (1965)
長野県主要河川, 湖の水質。
長野県衛公研調研報. 53, 1 ~ 57.
- 宮島 勲 (1973)
長野県河川, 湖沼の水質と底質, ——有機汚染について——。
- 長野県衛公研調研報. 107, 1 ~ 21.
- 矢木 博・丸山泰男・林 昶子・山本満寿夫 (1969)
諏訪湖の無機環境. IV. 諏訪湖の水質, ならびに流入河川のクロム, 亜鉛, マンガムの含有量。
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 1, 113 ~ 115.
- 建設省中部地建小沢ダム調査事務所 (1963)
天竜川上流部計画高水流量の検討. 3, 新解析篇. 4, 新計画篇。
- 武田洋一・川村 実 (1979)
長野県河川の底質の重金属。
長野県衛公研調研報. 1, 27~36.
- 鹿内孝男・赤岡 輝 (1979)
重金属による中河川底質の評価。
長野県衛公研調研報. 1, 36~41.
- 村松純一 (1969)
河川, 湖, 下水などから検出した *Salmonella* について (第1報)。
日本公衛誌. 16, (7), 665~668.
- 村松純一 (1972)
河川, 湖, 下水などから検出した *Salmonella* について (第2報). 104, 1 ~ 5。
長野県衛公研調研報。
- 牧 幸男 (1970)
長野県下主要河川, 湖水における水質汚濁の将来予測。
水処理技術. 11, (5), 37~45.
- 倉沢秀夫・沖野外輝夫・林 秀剛 (1978)
人間活動による山岳河川の水質汚濁. 山岳地帯の自然。
山岳地帯の自然環境と人間活動の影響. 14~24. (文部省特定研究)。
- 高橋正輝 (1979)
富栄養化対策調査報告書諏訪湖地区. 1~164. 関東農政局計画部資源課。
- 渡辺義人・沖野外輝夫・倉沢秀夫 (1979)
諏訪湖の富栄養化対策調査の背景と概要。
富栄養化対策調査報告書諏訪湖地区. 1~9. 関東農政局計画部資源課。
- 古畑和五郎・豊川 泰・高橋正輝 (1979)
調査地域の特性。
富栄養化対策調査報告書諏訪湖地区. 10~19. 関東農政局計画部資源課。
- 丸山正人・赤岡 輝・柳町幸孝 (1979)
産業廃棄物に含まれる有害物質について。——長野県の実態調査——。

- 長野県衛公研研報. 1, 42~47.
- 西沢節二・牧 幸男・丸山正人・宮島 勲 (1967)
岡谷市各水系並びに各種工場排水の水質調査.
長野県衛公研調研報. 74, 1~44.
- 西沢節二・牧 幸男・丸山正人・宮島 勲 (1968)
岡谷市各種工場排水の水質調査.
長野県衛公研調研報. 77, 1~31.
- 長瀬叶彦・山浦源太郎・牧 幸男・丸山正人・関 久人 (1972)
岡谷市内工場排水調査 (第3報) (昭和45年).
長野県衛公研調研報. 106, 1~39.
- 関 久人・丸山正人・山崎 輝・月岡 忠・牧 幸男・長瀬叶彦 (1976)
長野県下工場排水による底質等の汚染調査.
長野県衛公研調研報. 134, 1~103.
- 渡辺義人・沖野外輝夫・倉沢秀夫 (1979)
宮川上流域における窒素, リンの流出負荷調査.
富栄養化対策調査報告書諏訪湖地区. 20~38. 関東農政局計画部資源課.
- 古畑和五郎・豊川 泰・高橋正輝 (1979)
単位水田 (細密調査試験田) における窒素, リンの動向と流出調査.
富栄養化対策調査報告書諏訪湖地区. 39~56. 関東農政局計画部資源課.
- 古畑和五郎・豊川 泰・高橋正輝 (1979)
水田群における全窒素, 全リンの動向と流出調査.
富栄養化対策調査報告書諏訪湖地区. 57~64. 関東農政局計画部資源課.
- 渡辺義人・沖野外輝夫・倉沢秀夫・古畑和五郎・豊川泰・高橋正輝 (1979)
畑地における窒素, リンの動向と流出調査.
富栄養化対策調査報告書諏訪湖地区. 66~81. 関東農政局計画部資源課.
- 渡辺義人・沖野外輝夫・倉沢秀夫 (1979)
降雨, 森林地域及び農村集落排水からの窒素, リンの負荷量調査.
富栄養化対策調査報告書諏訪湖地区. 82~90. 関東農政局計画部資源課.
- 渡辺義人・沖野外輝夫・倉沢秀夫 (1979)
耕地からの窒素流出量と諏訪湖への影響.
富栄養化対策調査報告書諏訪湖地区. 91~95. 関東農政局計画部資源課.
- 倉沢秀夫・青山莞爾・磯部吉章 (1973)
生物学的水質判定による諏訪湖流入河川の汚濁の経年変化.
陸水富栄養化の基礎的研究. 2, 63~70.
- 倉沢秀夫・青山莞爾・磯部吉章・福原晴夫 (1973)
諏訪湖流入, 流出河川の生物群集の季節変化と生物学的水質判定.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 5, 55~66.
- 沖野外輝夫・杉本剛士・渡辺雄二・倉沢秀夫 (1980)
農村地域の水管理と指標生物.
信州の自然環境モニタリングと環境科学の総合化に関する研究. 2, 22~26.
- 吉田利男 (1978)
山地溪流の底生動物に与える人為的影響.
山岳地帯の自然環境と人間活動の影響. 19~24. (文部省特定研究).
- 勝野重美・白田迪夫 (1964)
工場廃水, 都市下水が天竜川上流の水質に及ぼす影響. 長野県.
- 井出嘉雄 (1953)
寒天工場廃水地区附近の河川動物相の調査.
信大教育学部動物教室. 1~5.
- 長野県水産指導所諏訪支所 (1954~1956)
寒天工場廃液が諏訪湖産の公魚産卵溯上に及ぼす影響について.
- 集水域の湖沼 556.51:556.55**
- 椿 山 (1913)
信濃天竜開三川流域山地の湖沼.
地質学雑誌. 20, 56~57.
- 白樺湖編集委員会 (1973)
白樺湖. 1~202. 甲陽書房.
- 桜井善雄 (1973)
霧ヶ峰の高層湿原および陸水に関する文献目録.
霧ヶ峰の陸水. 93~96. 長野県.
- 桜井善雄 (1973)
霧ヶ峰の高層湿原および池沼の保護の方策について.
霧ヶ峰の陸水. 39~44. 長野県.
- 牛山伝造 (1925)
霧ヶ峰沼沢地.
地学雑誌. 37, 135~.
- 武田久吉 (1917)
霧ヶ峰と鎌ヶ池及八島ヶ池.
山岳. 11, (3), 31~.
- 長野県 (1973)
霧ヶ峰の陸水. 1~96.
- 諏訪教育会自然研究部陸水委員会 (1967)
霧ヶ峰高層湿原における陸水学的研究 (第1報) 八

- 島池の形態について.
諏訪研究紀要(諏訪教育会) 4, 97~.
- 白石芳一・倉沢秀夫(1973)
霧ヶ峰高層湿原池沼の陸水学的研究: 第1報. 八島ヶ池.
霧ヶ峰の陸水. 55~46. 長野県.
- 白石芳一・倉沢秀夫(1973)
霧ヶ峰高層湿原池沼の陸水学的研究. 第3報. 鬼ヶ泉水の湖盆形態.
霧ヶ峰の陸水. 75~78. 長野県.
- 白石芳一・倉沢秀夫(1973)
霧ヶ峰高層湿原池沼の陸水学的研究. 第4報. 鎌ヶ池.
霧ヶ峰の陸水. 79~92. 長野県.
- 集水域の湖沼の生物と水質 556.51:556.551/.555+57
- 上野益三(1934)
信濃霧ヶ峰八島ヶ原に於ける渚水とその生物.
植物及動物. 2, (1), 39~.
- 落合照雄(1970)
霧ヶ峰湿原のプランクトン.
長野県自然保護の会ニュース. 2, 1~2.
- 倉沢秀夫・青山莞爾(1973)
近年における霧ヶ峰湿原池沼のプランクトンの推移.
霧ヶ峰の陸水. 25~38. 長野県.
- 根来健一郎(1937)
長野県八島ヶ原鎌ヶ池の藻類.
陸水学雑誌. 7, (3), 121~126.
- 岡西良治(1947)
霧ヶ峰八島ヶ原における池水と接合植物.
信濃教育. 731, 5.
- 山岸高旺(1965)
霧ヶ峰湿原産のサヤミドロ科の藻類.
日本大学獣医学部一般教養研究紀要. 1, 26~.
- 牛山伝造(1922)
諏訪湖の Rotifers と八島ヶ池の Desmids.
博物学会誌. 30, 33~.
- 東道太郎(1923)
藻類雑誌(2). 「つづみも」湖としての八島ヶ池.
水産研究誌. 18, (5), 43~.
- 藤沢六馬(1934)
信州伊那地方及び八島池の鼓藻類.
植物研究雑誌. 10, (7), 438~.
- Hirano, M. (1960)
Flora Desmidiarum Japonicarum.
Contr. Biol. Lab. Kyoto Univ. 11.
- Skvortzov, B. V. (1938)
Diatoms collected by Mr. Toshikazu Okada in Nippon. I. Mountain bog diatoms flora from Prov. Sinano.
植物研究雑誌. 14, (3).
- 上野益三(1933)
日本稀産枝角類二種.
植物及動物. 1, (9). 1039~.
- 曾根原今人(1966)
白樺湖の蜻蛉記録.
TOMBO. 9, (1~4), 1~10.
- 小泉清明・他(1970)
行楽地の湖水, 白樺湖の水質と生物群集. 第1報.
水質と底質.
陸水学雑誌. 31, 153~165.
- 小泉清明・他(1971)
行楽地の湖水, 白樺湖の水質と生物群集. 第2報.
生物群集.
陸水学雑誌. 32, 15~25.
- 根来健一郎・牛山正雄(1937)
霧ヶ峰高層湿原における水の反応について(1).
陸水学雑誌. 7, (4), 135~143.
- 根来健一郎・牛山正雄(1938)
霧ヶ峰高層湿原に於ける水の反応に就いて(2).
陸水学雑誌. 8, (1), 37~43.
- 桜井善雄(1970)
霧ヶ峰湿原内の池沼の水質の現状.
長野県自然保護の会ニュース. 2.
- 桜井善雄・渡辺義人(1973)
霧ヶ峰高層湿原の池沼の水質.
霧ヶ峰の陸水. 3~24. 長野県.
- 白石芳一・倉沢秀夫(1973)
霧ヶ峰高層湿原池沼の陸水学的研究. 第2報. 八島ヶ池の水温及び溶存酸素の日周変化.
霧ヶ峰の陸水. 67~74. 長野県.
- 諏訪湖の湖沼学 556.55
- 吉村信吉(1937)
湖沼学. 1~426. 三省堂.
- 吉村信吉(1941)
湖沼学の科学. 1~286. 地人書館.

吉村信吉 (1946)

長野県の湖沼とその研究.
上伊那郷土地理同好会. 1～8.

田中阿歌麿 (1918)

湖沼学より見たる諏訪湖の研究(上) 1～936, (下)
937～1682.

岩波書店.

山上万次郎 (1923)

湖沼学より観たる諏訪湖の研究上巻を読む.
地質学雑誌. 30, 101～110.

神保小虎 (1914)

子爵田中阿歌麿氏の諏訪湖第一巻.
地質学雑誌, 21, 309～310.

田中館秀三 (1918)

田中阿歌麿著湖沼学上より見たる諏訪湖の研究.
地質学雑誌. 25, 82～85.

小林房太郎 (1903)

諏訪湖.
教育学術界. 12, (6), 643～651.

田中阿歌麿 (1914)

諏訪湖. 1～185, 目黒書店

桜井善雄・渡辺義人 (1974)

信州の陸水. 第1号.
環境科学研究会. 1～35.

渋のエゴ調査委員会 (1973)

渋のエゴ調査報告書. 1～130. 諏訪市教育委員会.

諏訪湖を含む文献目録 556.55 : 002

吉村信吉 編 (1932)

(明治16年～昭和7年) 日本の湖沼学関係文献集.
地人書館.

吉村信吉 編 (1942)

日本湖沼学文献目録 I.
地人書館.

小泉清明・大谷隼人 編 (1966)

諏訪湖々沼学文献リスト
諏訪湖浄化対策委員会出版物. 1～14.

吉村信吉 編 (1944)

日本湖沼学文献目録. (1885～1942).
陸水学雑誌. 別巻第1輯. 1～131. 日本陸水学会.

資源科学研究所 編 (1950)

日本湖沼学文献目録. 1943～1979年. 1～20.

諏訪臨湖実験所 編 (1972)

信州大学理学部諏訪臨湖実験所業績目録. (1962
～1971). No. 1. 1～5. 諏訪臨湖実験所.

諏訪臨湖実験所 編 (1976)

信州大学理学部諏訪臨湖実験所業績目録. (1972
～1975) No. 2.

諏訪臨湖実験所報告. 1, 60～62.

諏訪臨湖実験所 編 (1980)

信州大学理学部諏訪臨湖実験所業績目録. (1975
～1979) No. 3.

諏訪臨湖実験所報告. 3, 117～119.

諏訪湖に関する博物学 556.55 : 502

田中阿歌麿 (1918)

湖沼めぐり. 1～475. 博文館.

田中阿歌麿 (1927)

趣味と伝説湖沼巡礼. 1～316. 日本学術普及会.

堀江正治 (1964)

日本の湖—その自然と科学. 日本経済新聞社.

信濃毎日新聞社 (1973)

信濃の湖沼. 1～230. 信濃毎日新聞社.

不明 (1918)

諏訪湖.
教育画報. 5, (8), 209～215.

信濃毎日新聞社 (1965)

諏訪湖(特輯) 1～17. 信濃毎日新聞社. 昭和40年
8月16日～9月17日号.

内容: 1. おいたち 2. 流入河川 3. 変わる漁
業 4. 温泉 5. 災害の歴史 6. 釜口水門 7.
諏訪の産業 8. お神渡し 9. スケート 10. ス
ケート(上) 11. スケート(下) 12. 観光資源 13.
夢のかけ橋 14. 広域上水道 15. 特産都市と湖周
都市(上) 16. 特産都市と湖周都市(中) 17. 特産
都市と湖周都市(下)

岡谷南中学校科学クラブ (1970)

諏訪湖の自然の研究. 1～128.

諏訪湖の成因 556.55 : 551.24

伊沢次義 (1890)

諏訪湖に就て.
地学雑誌. 2, (23), 573～574.

伊沢次義 (1895)

諏訪湖について.
地質学雑誌. 2, 573～574.

不明 (1895)

諏訪湖は火口湖にあらず.
地質学雑誌. 2, 463.

山崎直方 (1896)
諏訪湖に就て.
地質学雑誌. 3, (29), 381~386.

田中阿歌麿 (1902)
諏訪湖生成の原因.
信濃博物学雑誌, 1, (1), 38~40.

小林房太郎 (1912)
諏訪湖の成因.
地学雑誌. 24, (288), 858~.

小林房太郎 (1917)
諏訪湖の成因.
地質学雑誌. 24, 857~858.

諏訪湖の虹 556.55 : 551. 593.61

平沢福松 (1907)
諏訪湖に於て観測せし暖水面のしん気楼について.
地学雑誌. 19, (225), 653~665.

不明 (1917)
諏訪湖面の水平虹.
地質学雑誌. 24, 858~.

橋本福松 (1918)
諏訪湖に於ける水平虹観測記事概要.
諏訪湖の研究(上). 540~543.

茅野慶次 (1962)
諏訪湖の水平虹(1).
諏訪教育.

茅野慶次 (1962)
諏訪湖の水平虹(2)
諏訪教育. 23, 62~68.

茅野慶次 (1962)
諏訪湖の水平虹.
天気. 9, (7).

茅野慶次 (1968)
諏訪湖の水平虹.
研究紀要. 諏訪教育会. 5, 179~191.

諏訪湖内の天然ガス 556.55 : 553.981

岩崎重三 (1897)
諏訪湖の天然瓦斯
地質学雑誌. 4, 92~93.

岩崎重三 (1892)
諏訪湖の天然瓦斯.
地学雑誌, 4, (38), 92~93.

本島公司・石和田靖章・牧野登喜男 (1952)

諏訪湖天然ガス予察速報.
地理調査所月報. 3, (12).

本島公司・品川芳二郎・牧 真一 (1953)
諏訪湖天然ガス鉱床調査報告.
地調月報, 4, (9).

本島公司・品川芳郎・牧 真一 (1952)
諏訪湖天然ガス鉱床調査報告.
地理調査所報. 4, (9).

本島公司・品川芳二郎・牧 真一 (1953)
諏訪湖天然ガス鉱床調査報告書.
地理調査所月報. 6, (5).

諏訪湖内の遺跡 556.55 : 571.9

鳥居龍蔵 (1918)
有史以前諏訪湖畔の住民.
諏訪湖の研究(下), 1013~1024.

神保小虎 (1909)
諏訪湖底の石器と湖上生活論と土地の陥没.
人類学会雑誌, 24, (282) 479~481.

橋本福松 (1909)
諏訪湖のソネについて.
信濃博物学雑誌, 34, 1231~1235.

坪井正五郎 (1909)
諏訪湖底石器時代の遺跡の調査.
人類学会雑誌, 24, 279~.

橋本福松 (1909)
諏訪湖底より石器を発見す.
人類学会雑誌, 24, 278~285.

不 明 (1910)
諏訪湖石器時代遺跡の調査.
人類学会雑誌, 25 (283), 9~14.

不 明 (1910)
諏訪湖石器時代遺跡の調査.
人類学会雑誌, 25, (285), 100~103.

不 明 (1914)
諏訪湖底の石器時代遺物.
地質学雑誌, 21, 443~.

藤森栄一 (1964)
諏訪湖ソネの研究.
地学雑誌(別冊).

諏訪湖の細菌, 分解作用 556.55 : 576.8

林 秀剛・左山幹雄 (1978)
諏訪湖における細菌群の季節変化.

- 諏訪湖集水域生態系研究 (資料1), 2, 57~61.
- 桜井善雄・奥田 稔・林 文俊 (1970)
諏訪湖における浮遊細菌の現存量ならびに生産力
——1969年5月~1970年1月の測定結果.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究, 2, 115
~132.
- 桜井善雄・橋爪 淳 (1971)
諏訪湖における浮遊細菌の現存量ならびに生産力.
1970年度の測定結果.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究, 3, 91
~100.
- 桜井善雄 (1975)
湖沼における細菌と藻類の量的関係.
微生物の生態, 2, 35~51. 東大出版.
- Tezuka, Yasuhiko (1968)
A method of estimating bacteriel respiration in
natural water.
Jap. J. Ecol. (日生態会誌), 18, 60~65.
- 手塚泰彦 (1969)
諏訪湖の有機栄養細菌ならびに植物プランクトンの
分解過程.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究, 1, 85~88.
- 坂本 充 (1974)
植物プランクトン群集の生産と分解の相互関係——
とくに湖沼生態学における栄養塩回帰との関連——
微生物の生態, 1, 51~70. 東大出版.
- 佐藤泰哲 (1979)
諏訪湖の湖心における尿素分解菌の計数.
諏訪湖集水域生態系研究, 3, 41~46.
- 小山忠四郎・佐藤 修・富野孝生・松永孝司 (1970)
諏訪湖における生物と分解速度の推定.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究, 2, 141
~152.
- Otsuki, Akira・Takahisa Hanya・Hiroshi Yama-
gishi, (1969)
Residue from bacterial decomposition of green
algal cells as food for *Daphnia*.
Nature. 222(5199), 1182.
- 諏訪湖の物質循環 556.55 : 577.11
- 田中哲治郎・沖野外輝夫 (1978)
諏訪湖における物質循環のモデル化. I.
諏訪湖集水域生態系研究, 1, 73~90.
- 半田暢彦 (1971)
諏訪湖における懸濁物—有機物の現存量とその
Turnover rate について.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究, 3, 101
~106.
- 小山忠四郎 (1971)
諏訪湖における有機物の純生産速度と純分解速度の
推定.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究, 3, 35~40.
- 林 秀剛・沖野外輝夫・青山莞爾 (1972)
水柱内での有機物収支について. I. ビニール膜に
よる水柱の人為的隔離 (水中円筒) による検討.
陸水雑, 33, (3), 51~59.
- 小山忠四郎 (1978)
諏訪湖における有機物の代謝, 水汚染の機構と解析.
日本地球化学会 編 (産業図書).
- 坂本 充 (1978)
諏訪湖水域生態系における物質動態の研究.
諏訪湖集水域生態系研究, 1, 1~12.
- 諏訪湖の陸水生物 556.55 : 577.472 (28)
- 川村多実二 (1918)
日本淡水生物学 上 (1~362), 下 (363~579). 裳
華房.
- 川村多実二 (1918)
淡水生物学上より見たる信州.
信濃教育, 380, 6.
- 上野益三 (1935)
「陸水生物学概論」, 1~276. 養賢堂.
- 両角徹郎 (1970)
池と湖の生物.
長野県生物談話会, 22~25.
- 山岸 宏・古田能久・福原晴夫 (1976)
水界生物生態研究法, 1~191. 共立出版.
- 沖野外輝夫 (1979)
水界の生態遷移.
生態遷移研究法 (共立出版), 77~121.
- 岡谷南部中学校生物クラブ (1964)
諏訪湖における生物の生態的研究. 長野県学校科学
教育奨励基金, 第4回奨励研究レポート, 昭和39年
度, 69~72.
- 諏訪湖の生物目録 556.55 : 577.472 (28) (083.1)
- 白石芳一・倉沢秀夫 (1948)
諏訪湖生物目録
水産研究会報, 1, 57~64.

- Kurasawa, Hideo・Tokio Okino (1975) List of animal and plant species of Lake Suwa.
J. Fac. Sci. Shinshu Univ. 10, (2), 85~104.
- Kurasawa, Hideo・Tokio Okino (1976)
Addition to the list of plant species of Lake Suwa.
Report of Suwa Hydrobiol. St., Shinshu Univ. 1, 54~59.
- 倉沢秀夫・沖野外輝夫・林 秀剛 (1978)
諏訪湖の生物目録と主要実験生物について.
総合研究(A), 臨海・臨湖実験所周辺の生物相および主要実験生物に関する研究. 3, 57~72.
(昭和50年~52年度まとめ).
- 倉沢秀夫・沖野外輝夫 (1976)
諏訪湖産植物及動物の種類と優占種.
臨海・臨湖実験所周辺の生物相及び主要実験生物に関する研究. 1, 35~37. (昭和50年度報告).
- 諏訪湖の大型水草 556.55 : 577.473 (28) : 582.4
- 東道太郎 (1916)
岡村著「日本藻類名彙」
成美堂.
- 桜井善雄 (1980)
1979年の諏訪湖における水生植物フロラ.
諏訪湖集水域生態系研究, 5, 65~69.
- 中野治房 (1914)
諏訪湖植物生態について.
植物学雑誌. 28, 65~74, 127~132.
- 山下清吉・津金良吉・他5名 (1962~1965)
水生植物の分布研究.
諏訪清陵高校.
- 岡谷南部中学校生物クラブ (1963)
諏訪湖における水生植物の分布.
岡谷南部中学校生徒会誌. 5, 1~5.
- 諏訪清陵高校生物クラブ (1965)
諏訪湖の水生植物の研究.
- 諏訪清陵高校生物研究クラブ (1966)
諏訪湖の水生植物. 諏訪湖の概況. 水生植物の分布.
諏訪湖の PH. 諏訪湖の水温. 諏訪湖の透明度.
諏訪湖のプランクトン一日周活動. 季節変化.
生物研究. 7.
- Hogetsu, Kinji(1953)
Studies on the biological production of Lake Suwa. V. The standing crop of rooted aquatic plants.
Misc. Rept. Res. Inst. Nat. Resources(資源研彙). 30, 4~9.
- 小泉清明・桜井善雄・川島信二 (1967)
諏訪湖の高等水生植物の現存量 (諏訪湖陸水学資料 I).
陸水学雑誌. 28, (2), 57~63.
- 桜井善雄・渡辺義人 (1973)
諏訪湖の水生植物.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 5, 1~4.
- 倉沢秀夫・沖野外輝夫・林 秀剛 (1977)
諏訪湖における水生植物の分布と現存量.
臨海・臨湖実験所周辺の生物相及び主要実験生物に関する研究. 2, 20~23 (昭和51年度報告).
- 沖野外輝夫・林 秀剛 (1978)
諏訪湖の水生植物と浚渫. 埋立.
水温の研究. 22, (1), 2~6.
- 倉沢秀夫・沖野外輝夫・林 秀剛 (1979)
諏訪湖大型水生植物の分布と現存量の経年変化.
諏訪湖集水域生態系研究. 3, 7~26.
- 生嶋 功 (1970)
諏訪湖の水生植物群落の生産に関する二, 三の知見.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 2, 33~40.
- 諏訪湖の底生動物 556.55 : 577.474 (28)
- 宮地伝三郎 (1928)
湖底生物研究予報. 3. 仁科三湖. 野尻湖. 諏訪湖.
水産研究誌. 23, (9), 1~7.
- 宮地伝三郎 (1931)
湖底生物について.
全国湖沼河川養殖研究会要録. 12, 34~40.
- Miyaji, D. (1931)
Studies on the bottom fauna of Japanese lakes. 1. Lakes of Shinano Province.
Jap. J. Zool. 3, (5), 201~257.
- 山口正雄 (1946)
湖沼, 諏訪湖の底棲群集.
中央気象台陸水報告. 3, 11~.
- Kitazawa, Yuzo・Hideo Kurasawa (1951)
Studies on the biological production of Lake Suwa. I. Standing crop of herbivorous zoobenthos.
Misc. Rept. Res. Inst. Nat. Resources (資源研彙) 24, 1~15.
- Kitazawa, Yuzo・Hideo Kurasawa (1952)
Studies on the biological production of Lake

- Suwa. II. An ecological study of microstratification of zoobenthos in the mud.
Misc. Rept. Res. Inst. Nat. Resources (資源研彙) 25, 1~13.
- Kitazawa, Yuzo・Hideo Kurasawa (1952)
Studies on the biological production of Lake Suwa. III. The horizontal stratification of zoobenthos.
Misc. Rept. Res. Inst. Nat. Resources (資源研彙) 27, 1~6,
関 要 (1935)
上諏訪産ウミカの生態.
信濃教育. 590, 17~24.
- 藤森英樹・他 (1959~1963)
諏訪湖のユスリカの研究.
諏訪清陵高校.
- 福原晴夫・大高明史・磯部吉章 (1980)
諏訪湖湖心部における底生動物現存量の季節変化について.
諏訪湖集水域生態系研究 (資料2). 4, 30~33.
- 山岸 宏・福原晴夫 (1969)
諏訪湖のユスリカについて.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 1, 45~56.
- 山岸 宏・福原晴夫 (1970)
諏訪湖のユスリカについて II.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 2, 65~78.
- 山岸 宏・福原晴夫 (1971)
諏訪湖のユスリカについて III.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 3, 77~90.
- 山岸 宏・福原晴夫 (1970)
諏訪湖のアカムシユスリカ幼虫の夏季における底泥深部への掘潜現象について.
動物学雑誌. 79, (3), 89~91.
- 山岸 宏・福原晴夫 (1971)
諏訪湖のオオユスリカ幼虫の浮泳活動.
日本生態学会誌. 20, (6), 256~257.
- Yamagishi, Hiroshi・Haruo Fukuhara (1971)
Population dynamics in two large chironomids. *Chironomus plumosus* L. and *Spaniotoma akamusi* TOKUNAGA in Lake Suwa.
Oecologia. 7, 309~327.
- 諏訪湖のプランクトン 556.55 : 577.475 (28)
- 山下清吉・笠原太洋・他 8 名 (1961~1965)
諏訪湖におけるプランクトンの季節的变化.
諏訪清陵高校.
- 岡谷南部中学校生物クラブ (1962)
諏訪湖におけるプランクトンの研究—その季節変化について.
岡谷南部中学校生徒会誌. 2, 1~8.
- 倉沢秀夫・手塚泰彦・青山莞爾 (1962)
諏訪湖及び流入, 流水河川のプランクトン (予報).
水質汚濁研究. 2, 133~144.
- 諏訪実業高等学校生物班 (1964)
諏訪湖及びその周辺の貯水池に生息するプランクトンの比較.
長野県学校科学教育奨励基金. 第4回奨励研究レポート. (昭和39年度). 138~142.
- 青山莞爾・倉沢秀夫 (1964)
夏季における諏訪湖及び流入流出河川のプランクトンの比較.
水質汚濁研究. 3, 38~49.
- 笠原大洋 (1966)
諏訪湖のプランクトン.
水温の研究. 10, (1), 18~23.
- 笠原大洋 (1966)
諏訪湖のプランクトン—季節的並びに水平分布について.
特別出版. 1~30.
- 青山莞爾・倉沢秀夫 (1969)
諏訪湖におけるプランクトンの水平, 垂直分布と現存量の季節変化.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 1, 31~44.
- 倉沢秀夫・青山莞爾 (1967)
諏訪湖並びに流入河川の水質とプランクトンの経年変化.
JIBP-PF 陸水生物並びに陸水生物群集の保護の方法に関する研究. 1, 7~8.
- 倉沢秀夫・青山莞爾・山岸 宏・磯部吉章 (1970)
諏訪湖におけるプランクトンの季節的变化と水平分布.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 2, 41~64.
- JIBP-PF 諏訪湖研究グループ (1970)
諏訪湖の水質並びに浮遊微小生物群の水平分布昼夜変化の共同調査資料.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 2, 1~24.
- 倉沢秀夫・山岸 宏・吉川正武・為政園野 (1971)
諏訪湖のプランクトンの季節変化 (1970年) I. プランクトンの数と量との優占種の比較.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 3, 41~54.

- 倉沢秀夫・山岸 宏・吉川正武・為政園野 (1971)
諏訪湖のプランクトンの季節変化 (1970年) II. プランクトン現存量とその算出法.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 3, 55~64.
- 倉沢秀夫 (1972)
諏訪湖のプランクトンの季節変化. III. プランクトンの垂直分布.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 4, 75~89.
- 倉沢秀夫 (1972)
諏訪湖のプランクトンの季節変化. IV. プランクトンの垂直分布と水温, pH 及び溶存酸素との関係.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 4, 90~101.
- 倉沢秀夫・青山莞爾・磯部吉章 (1972)
最近10年間の諏訪湖プランクトンの遷移と水平・垂直分布.
陸水富栄養化の基礎的研究. 1, 5~10.
- 青山莞爾・磯部吉章・倉沢秀夫 (1973)
諏訪湖小坂沖定点における基礎生産, 二次生産, 分解, 栄養塩類量の季節変化に関する研究. III報. 植物プランクトン, 動物プランクトンの現存量の季節変化.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 5, 44~49.
- 青山莞爾 (1978)
諏訪湖における植物プランクトンと動物プランクトンの季節変化 (1977~1978).
諏訪湖集水域生態系研究 (資料1). 2, 62~180.
- 青山莞爾 (1980)
諏訪湖における植物プランクトンと動物プランクトンの季節変化.
諏訪湖集水域生態系研究 (資料2). 4, 34~50.
- 諏訪湖の植物プランクトン 556.55 : 577.475 (28) : 58
- Hattori, Hirotaro (1908)
Vorläufige Mitteilung über das Phytoplankton vom Suwa-see.
Bot. Mag. 22, (259), 121~126.
- 服部広太郎 (1918)
諏訪湖浮遊植物.
諏訪湖の研究. (下). 955~965.
- Kurasawa, Hideo・Yoshikazu Shiraishi (1954)
Studies on the biological production of Lake Suwa. VII. The stratification and the seasonal succession of phytoplankton(1).
Misc. Rept. Res. Inst. Nat. Resources (資源研彙) 33, 24~32.
- Kurasawa, Hideo・Yoshikazu Shiraishi (1955)
Studies on the biological production of Lake Suwa. VII. The stratification and the seasonal succession of phytoplankton(2).
Misc. Rept. Res. Inst. Nat. Resources (資源研彙) 37, 49~57.
- 安達六郎・福島 博・小林艶子 (1969)
諏訪湖の植物プランクトンの重要種属と現存量の季節的推移.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 1, 1~4.
- 青山莞爾 (1980)
諏訪湖における植物プランクトンの季節変化 (1977~1978).
諏訪湖集水域生態系研究. 5, 55~64.
- Nakamoto, Nobutada・Tokio Okino (1972)
Activity of phytoplankton excreted by fish.
Bull. Plankton Soc. Japan 19, (1), 1~4.
- 沖野外輝夫 (1973)
アセトン抽出液の E_{430}/E_{410} 及び E_{663} のFo/Fa からみた諏訪湖の植物プランクトンの活性度季節変化.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 5, 67~70.
- 安達六郎 (1970)
淡水産渦鞭毛虫類の形態観察.
プランクトン研究. 4, 1~8.
- 小泉清明 (1972)
Microcystis 水の華の生態.
陸水富栄養化の基礎的研究. 1, 11~15.
- Okino, Tokio (1973)
Studies on the blooming of *Microcystis aeruginosa* (1).
Jap. Jour. Botany, 20, (6) 381~402.
- Okino, Tokio (1973)
Studies on the blooming of *Microcystis aeruginosa* (II) Rapid accumulation of phosphate by *Microcystis aeruginosa*.
J. Fac. Sci. Shinshu Univ. 8(2), 135~145.
- 沖野外輝夫 (1968)
養魚池の表層水中における *Microcystis* の細胞及び活性の日変化.
資源科学研究所彙報. 70, 11~17.
- 益子計夫 (1974)
諏訪湖における水の華発生時の藍藻 *Microcystis aeruginosa* の2, 3の生物活性の日変化について.

- 日本生態学会誌. 25, (1), 24~31.
- Yamagishi, Hiroshi・Hidetake Hayashi・Tokio Okino・Haruo Fukuhara and Kanji Aoyama (1972)
Ecological Studies on dissolved Oxygen and bloom of *Microcystis* in Lake Suwa II. Carp culture in floating nets and its influence on the distribution of dissolved oxygen during the season of *Microcystis* bloom.
Bull. Jap. Soc. Sci. Fisheries. 38, (II), 1237~1245.
- 半田暢彦 (1970)
Skeletonema costatum における炭水化物の代謝.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 2, 133~140.
- 矢木 博・丸山泰男 (1969)
諏訪湖産 *Microcystis* の分析成績.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 1, 115~116.
- 半田暢彦・水野恭佑 (1969)
Microcystis —多糖類に関する研究.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 1, 71~84.
- 田島俊一・他 (1965)
長野県内河川湖沼の浮遊性珪藻類の分布について.
長野県警科学捜査研究報告. 1~17.
- Hirano, Hiroshi (1952)
Plankton Desmids from lakes of Shinano Province.
Acta Phytotax. Geobot. 14, (6), 165~167.
- 諏訪湖の植物プランクトンの生産力 556. 55: 577.
475(28): 581.132
- Hogetsu, Kinji・Shunei Ichimura (1954)
Studies on the biological production of Lake Suwa. VI. The ecological studies on the production of phytoplankton.
Jap. Jour. Bot. 14, (2), 280~303.
- Ichimura, Shunei (1958)
On the photosynthesis of natural phytoplankton under field conditions.
Bot. Mag. 71, (837), 110~116.
- Ichimura, Shunei (1961)
On the spatial difference of the primary production in the lake and its relation to environmental factors.
Bot. Mag. 74, (871), 6~13.
- 坂本 充 (1962)
湖沼における植物の生産と栄養度.
陸水学雑誌. 23, (3-4), 73~85.
- Sakamoto, Mitsuru・Kinji Hogetsu (1963)
Spectral change of light with depth in some lakes and its significance to the photosynthesis of phytoplankton.
Plant & Cell Physiol. 4, 187~198.
- Saijo, Yatsuka・Mitsuru Sakamoto (1964)
Photosynthetic production of phytoplankton in some ice covered lakes in the central Japan.
Recent Researches in the Fields of Hydrosphere. Atmosphere and Nuclear Geochemistry. 289~303.
- Ichimura, Shunei・Yusho Aruga (1964)
Photosynthetic natures of natural algal communities in Japanese waters.
Atmosphere and Nuclear Geochemistry. 13~37.
- Sakamoto, Mitsuru (1966)
The chlorophyll content in the euphotic zone in some Japanese lakes and its significance in the photosynthetic production of phytoplankton community.
Bot. Mag. Tokyo. 79, 77~78.
- 沖野外輝夫・倉沢秀夫・青山莞爾・林 秀剛・渡辺義人・山岸 宏 (1969)
諏訪湖の生物生産に関する研究 (ある水柱内での観測結果).
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 1, 5~30.
- Okino, Tokio (1969)
The diurnal variation of photosynthetic activity.
Misc. Rept. Res. Inst. Nat. Resources(資源研彙), 72, 1~5.
- 沖野外輝夫 (1970)
水柱内の有機物収支について (基礎生産量).
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 2, 25~32.
- 坂本 充 (1972)
湖沼の富栄養化と植物プランクトンの基礎生産.
陸水富栄養化の基礎的研究. 1, 37~40.
- 倉沢秀夫・他 8 名 (1972)
Bag 実験による諏訪湖における基礎生産と分解関係の研究.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 4, 36~74.
- 坂本 充・沖野外輝夫・磯部吉章・林 秀剛・福原晴夫・山本満寿夫・益子計夫 (1973)
諏訪湖小坂沖地点における基礎生産, 二次生産, 栄

- 養塩類量の季節変化に関する研究. I 報, 植物プランクトン基礎生産と栄養物質量的変化及びその相互関連について.
- JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 5, 20~39.
- 沖野外輝夫・山本雅道 (1978)
- 1977年~1978年の諏訪湖のセストン量, クロロフィル a 量及び基礎生産量, 微生物群集による呼吸量の季節変化.
- 諏訪湖集水域生態系研究 (資料 1). 2, 20~26.
- 坂本 充 (1979)
- 諏訪湖における植物プランクトンの生産と従属栄養生物間の相互関係についての研究. I. 研究の意義と予察的調査の結果.
- 諏訪湖集水域生態系研究. 3, 27~34.
- 沖野外輝夫・山本雅道・渡辺雄二・杉本剛士 (1980)
- 1978年~1979年の諏訪湖のセストン量, クロロフィル a 量及び基礎生産量, 微生物群集による呼吸量と1977年の新生沈でん物及び一次生産によるエネルギー効率.
- 諏訪湖集水域生態系研究 (資料 2). 4, 12~16.
- 諏訪湖の動物プランクトン 556. 55 : 577. 475 (28) : 59
- 牛山伝造 (1923)
- 諏訪湖の Rotifers と八島ヶ池の Desmids.
- 博物学会誌. 30, 33~35.
- 青山莞爾・山岸 宏 (1972)
- 動物プランクトン採集法の検討.
- JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 4, 9~11.
- Kurasawa, Hideo・Yuzo Kitazawa・Yoshikazu Shiraishi (1952)
- Studies on the biological production of Lake Suwa. IV. The stratification, the seasonal succession and the standing crop of zooplankton(1). Misc. Rept. Res. Inst. Nat. Resources (資源研彙) 27, 29~39.
- Kurasawa, Hideo・Yuzo, Kitazawa・Yoshikazu Shiraishi (1952)
- Studies on the biological production of Lake Suwa. IV. The stratification, the seasonal succession and the standing crop of zooplankton(2). Misc. Rept. Res. Inst. Nat. Resources (資源研彙) 28, 98~106.
- Bottrell, H. H.・A. Duncan・Z. M. Gliwiz・E. Grygierek・A. Herzig・A. Hillbricht-Ilkowska・H. Kurasawa・P. Larsson・T. Weglenska (1976)
- A review of some problems in zooplankton production studies.
- Norway J. Zool. 24, 419~456.
- 青山莞爾 (1978)
- 諏訪湖における動物プランクトン群集の構造について. I. 類似度指数及び単純度指数からみた動物プランクトン群集.
- 諏訪湖集水域生態系研究. 1, 23~28.
- 磯部吉章 (1980)
- 諏訪湖における動物プランクトンの季節変化.
- 諏訪湖集水域生態系研究 (資料 2). 4, 51~68.
- 青山莞爾 (1980)
- 諏訪湖における動物プランクトンの食性ならびに摂餌速度について.
- 諏訪湖集水域生態系研究. 5, 49~54.
- 諏訪湖の湖沼生産力 556. 55 : 581. 132+591. 134
- 岡田彌一郎・白石芳一・宝月欣二 (1948)
- 諏訪湖における生産力の研究.
- 水産研究会報, 1, 36~80.
- 宝月欣二・白石芳一・倉沢秀夫・北沢右三 (1949)
- 湖沼の物質循環及物象要因と生産力の関係.
- 水産研究会報, 2, 45~46.
- 宝月欣二・北沢右三・倉沢秀夫・白石芳一 (1950)
- 内水面の生産力と外周条件及び物質循環との関係.
- 水産研究会報, 3, 58~82.
- 宝月欣二・北沢右三・倉沢秀夫・白石芳一・市村俊英 (1952)
- 内水面の生産及び物質循環に関する基礎的研究 (I).
- 水産研究会報. 4, 41~127.
- 岡谷南高等学校生物クラブ (1968)
- 諏訪湖の生物生産の研究
- 倉沢秀夫・他 (JIBP-PF・諏訪湖研究グループ) (1974)
- 諏訪湖生物群集の生産力に関する研究.
- 日本陸水群集の生産力に関する研究. 107~157.
- JIBP-PF 分科委員会.
- Sakamoto, Mitsuru・Hideo Kurasawa・Tokio Okino (Review)(1975)
- Productivity and nutrient metabolism of communities in Lake Suwa.
- JIBP Synthesis, 10, (Productivity of communities in Japanese Inland water) 107~148.

Kurasawa, Hideo・et. al. (1975)

Concluding discussion on productivity of Japanese inland water communities.

JIBP Synthesis, V. 10, (Productivity of Communities in Japanese Inland Waters) 379~420.

倉沢秀夫・他 (JIBP-PF・諏訪湖研究グループ) (1976)

諏訪湖生物群集の生産力に関する研究.

諏訪臨湖実験所研究報告. 1, 1~53.

Mori, Shuichi・Hideo Kurasawa (1978)

Studies on the productivity of fresh water communities, Lake Suwa.

JIBP Synthesis 20, 119~120.

Summary Report on the Contribution of the Japanese National Committee for IBP, 1964~1974.

諏訪湖の大型動物 556.55:59

諏訪教育会動物委員会 (1972)

渋のエゴの動物.

自然研究紀要 9, 1~.

北沢右三・細川隆英・加藤奥陸雄・野村健一・田口亮平・鳥居酉蔵・八木誠政 (1974)

新編生態学汎論. 1~294. 養賢堂.

北沢右三・宮地伝三郎・加藤奥陸雄・森 主一・森下正明・渋谷寿夫 (1961)

動物生態学. 329~334. 朝倉書店.

諏訪市教育委員会渋のエゴ調査委員会 (1973)

渋のエゴの動物.

渋のエゴ調査報告書. 110~118.

信州魚貝類研究会 (1980)

長野県魚貝図鑑. 1~284. 信濃毎日新聞社.

諏訪湖の貝類 556.55:594

宮地伝三郎 (1937)

日本の湖沼における貝類の生産量.

ビーナス. 7, (2), 51~74.

黒田徳米・藤田 正 (1936)

諏訪湖で育ったセタンジミ.

ヴェキナス. 6, (1), 60~63.

倉沢秀夫 (1950)

諏訪湖六斗川河口附近における沿岸底棲動物の垂直分布周年変化について.

資源科学研究所彙報. 15, 28~40.

倉沢秀夫 (1957)

諏訪湖沿岸部における軟体動物の生産力.

日本生態学会誌. 7, (4), 160~165.

諏訪湖のエビ・昆虫 556.55:595.38+595.7

牛山伝造 (1925)

信濃諏訪湖産発光えび.

博物学会誌. 30, 32~34.

矢崎芳夫 (1926)

所謂信州諏訪湖産発光えびについて.

成医学雑誌. 45, (2), 143~165.

矢崎芳夫 (1926)

諏訪湖産発光えびの研究.

理学界. 24, (3), 220~224.

矢崎芳夫・西尾昌雄・市川 膜・馬島律司・石川 治 (1926)

所謂信州諏訪湖産発光えびについて (第2報告).

成医学雑誌. 45, (3), 102~131.

千野光茂 (1918)

諏訪湖の昆虫類.

諏訪湖の研究(下). 998~1007.

津田松苗 (1962)

水生昆虫学. 1~269, 北隆館.

茅野靖夫 (1974)

信州の湖及びそれらに流入する河川の水生昆虫.

日本水処理生物学会近畿支部会.

諏訪教育会動物委員会 (1973)

渋のエゴ調査報告.

諏訪教育会研究紀要. 9, 45~128.

朝比奈正二郎 (1955)

信濃蜻蛉誌. 1~103. 東筑摩教育会.

倉田 稔・両角徹郎 (1969)

諏訪湖のトンボ(1).

New Ent. 18, (5), 9~16.

信州昆虫学会 (1977)

長野県のトンボ. 信濃教育会出版部.

今福伸一・他 (1903)

長野県の鞘翅目(甲虫)目録(1)~(5).

信濃教育. 921.

諏訪湖の魚類 556.55:597

白石芳一 (1972)

湖の魚. 1~205. 岩波書店.

- 田中茂穂 (1912)
信濃地方の陸水魚に就いて.
信州博物学雑誌. 38, 1639~1617.
- 岩倉 親 (1937)
長野県の陸水魚.
信濃教育, 606, 13~18.
- 田中茂穂
信州産魚類目録.
動物学雑誌. 21, (39), 288~291.
- 宮地伝三郎 (1935)
信州産淡水魚目録.
信州の魚類, 236~238.
- 田中茂穂 (1931)
諏訪湖の魚類.
動物学雑誌. 43, 29~31.
- 黒田長礼 (1960)
諏訪湖産魚種新目録.
魚類学雑誌, 8, 35~46.
- 中村守純 (1974)
淡水魚類検索図鑑 1~260. 北隆館.
- 白石芳一・北森良之介・北森真栄 (1954)
諏訪湖産ワカサギの成長並びにその鱗に関する研究.
淡水区水産研究所報告. 4, (1), 17~32.
- 山岸 宏 (1972)
温泉排水に環境順化したグッピーの奇形発生率について.
動物学雑誌, 81, (2), 56~58.
- 水野信彦 (1963)
ヨシノボリとカワヨシノボリの分布 I. 湖と池の附近について.
日本生態学会誌, 13, 242~247.
- 山岸 宏 (1974)
諏訪湖におけるワカサギ稚魚の生態. 付. 諏訪湖の富栄養化の進行とワカサギ漁獲量の関係.
日本生態学会誌, 24, (1), 10~21.
- 山岸 宏・古田能久・田中秀幸 (1972)
諏訪湖の魚類の垂直分布について.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究, 4, 16~22.
- 宮内武雄 (1935)
ワカサギの天然餌料に関する研究.
日本水産学会誌, 3, (5), 281~283.
- 松井 魁 (1940)
諏訪湖産魚貝類の夏季食性調査.
水産研究誌. 35, (5), 131~133.
- Yamagishi, Hiroshi (1963)
Some observation on growth variation and feeding behaviour in the fry of two Japanese crucian carp, *Carassius carassius* LINNE. .
Jap. J. Ecol. 13, 156~160.
- Shiraishi, Yoshikazu (1957)
Feeding habit of pond-smelt, *Hypomesus olidus* and plankton succession in Lake Suwa.
Bull. Freshwater Fish. Res. Lab. (淡水研報). 7, (1), 33~55.
- 山岸 宏・倉沢秀夫・青山莞爾 (1970)
諏訪湖の魚類とその食性.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 2, 79~100.
- Yamagishi, Hiroshi (1966)
Ecological studies on the guppy, *Lebistes reticulatus* PETERS. II. Experiments on predation of mosquito larvae by guppies.
Jour. Fac. Sci. Shinshu Univ. 1, (2), 72~79.
- 山岸 宏 (1971)
諏訪湖のワカサギ稚魚について.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 3, 65~76.
- 諏訪湖の鳥類 556.55 : 598.4**
- 林 俊夫・笠原俊夫・林 正敏 (1975)
諏訪湖のエゴとその周辺の鳥類調査報告.
探鳥. 2, 3~21.
- 羽田健三 (1959)
内水面に棲息する雁鴨科鳥類の集団における群集生態学的研究. IV. 諏訪湖.
信大教育学部研究論文集. 10, 83~95.
- 羽田健三 (1962)
内水面に生活する雁鴨科鳥類の採食型と群集に関する研究. XIV. 雁鴨科鳥類の群集 (諏訪湖).
信大教育学部紀要. 10, 83~95.
- 林 俊夫・笠原俊夫・林 正敏 (1975)
諏訪湖洪のエゴとその周辺の鳥類調査報告.
探鳥. 2, 3~21.
- 諏訪湖の漁業 556.55 : 639.2/.6**
- 太田知度 (1924)
諏訪湖の漁業.
水産界. 499, 241~251.
- 太田知度 (1924)
諏訪湖の漁業.

- 水産界. 500, 269~271.
 太田知度 (1924)
 諏訪湖の漁業.
 水産界. 501, 304~307.
 太田知度 (1924)
 諏訪湖の漁業.
 水産界. 502, 330~333.
 小林正人 (1959)
 近世諏訪湖の漁業.
 信濃. 11, (2), 1~15.
 小林正人 (1959)
 近世諏訪湖の漁業.
 信濃. 11, (4), 37~47.
 小林正人 (1959)
 近世諏訪湖の漁業.
 信濃. 11, (5), 1~17.
 小林正人 (1959)
 近世諏訪湖の漁業.
 信濃. 11, (7), 40~49.
 長野県水産指導所諏訪支所 (不明)
 諏訪湖の漁業.
 長野県水産指導所諏訪支所 (不明)
 長野県水産指導所諏訪支所要覧.
 長野県水産指導所諏訪支所 (不明)
 長野県水産指導所諏訪支所の考え方資料.
 長野県水産指導所諏訪支所 (不明)
 長野県水産指導所諏訪支所業績集 1.
 長野県水産指導所諏訪支所 (1946)
 長野県諏訪水産指導所事業報告.
 長野県水産指導所諏訪支所 (1946)
 事業報告. 1. 2.
 長野県水産指導所諏訪支所 (1948)
 昭和23年度事業報告. 1, 2, 3.
 長野県水産指導所諏訪支所 (1949)
 昭和24年度事業報告. 1, 2, 3.
 長野県水産指導所諏訪支所 (1950)
 昭和25年度実験報告書.
 長野県水産指導所諏訪支所 (1951)
 昭和26年度事業報告.
 長野県水産指導所諏訪支所 (1957)
 昭和32年度業績集.
 田中阿歌麿 (1918)
 諏訪湖の水産業
 諏訪湖の研究 (下). 984~1012. 岩波書店
 松原新之助 (1910)
 諏訪湖の経営.
 水産研究誌. 5, (6), 137~138.
 松原新之助 (1910)
 諏訪湖の経営.
 水産学会誌. 335, 1~3.
 長野県水産指導所諏訪支所 (1960)
 諏訪湖総合開発計画の概要.
 長野県水産指導所諏訪支所 (1960)
 諏訪湖水産振興対策基本方針とその経過について.
 (1954~1960)
 相沢武雄・経済部特産課・水産指導所諏訪支所 (1955)
 諏訪湖漁業実態調査報告書.
 昭和29年国土総合開発調査.
 長野県水産指導所諏訪支所 (1960)
 諏訪湖漁業振興対策.
 長野県水産指導所諏訪支所 (1961)
 諏訪湖水産振興対策基本方針とその経過について.
 田中武雄 編 (1969)
 長野県水産史. 1~528. 長野県漁協組合連合会.
 諏訪湖の漁獲と方法 556.55:639.21.05
 長野県水産指導所諏訪支所 (不明)
 諏訪湖沿岸漁場図.
 長野県水産指導所諏訪支所 (不明)
 諏訪湖の漁業及環境.
 長野県水産指導所諏訪支所 (1931)
 諏訪湖魚貝類産額及金額. (1917~1931).
 伊藤忠好 (1939)
 諏訪湖における結氷期の漁獲の経済地理的管見.
 地理教育. 29, (5), 544~547.
 中野宗治・下川秀男・名東 実・内藤慎二 (1949)
 諏訪湖魚貝類生産力調査.
 第1部水産資源研究.
 昭和24年報告. 92~99.
 岡田彌一郎 (1949)
 魚類の生産に関する研究.
 水産研究会報. 2, 43~44.
 中野宗治・下川秀男・名東 実・内藤慎二 (1950)
 諏訪湖魚介類生産力調査.
 水産研究会報. 3, 92~99.
 中野宗治・松尾三男・名東 実 (1951)
 諏訪湖魚介類生産力調査. (ダムにより河川に出来た人工湖の生産増強方法の研究).
 第一部水産資源研究. 3, 1~78.
 中野宗治・内藤慎二・下川秀男・名東 実 (1952)
 諏訪湖魚介類生産力調査.

- 水産研究会報, 4, 128~164.
- 中野宗治・松尾三男・名東 実 (1953)
諏訪湖魚介類生産力調査.
水産研究会報, 5, 1~51.
- 長野県水産指導所諏訪支所 (1959)
昭和34年度諏訪湖の漁獲高調査表.
- 倉沢秀夫・山本 長・山本雅道 (1980)
諏訪湖における1932~1940年間で1950~1979年間の
月別漁獲量の経年変化の資料—諏訪湖漁業協同組合
の資料による—.
諏訪臨湖実験所研究報告, 3, 76~116
- 倉沢秀夫 (1980)
過去80余年間 (1895~1978) における諏訪湖年間漁
獲量及其の出荷金額高の経年変化—諏訪湖漁業組
合, その他の資料による—.
諏訪臨湖実験所研究報告, 3, 1~47.
- 倉沢秀夫・山本 長・沖野外輝夫・林 秀剛 (1980)
過去80余年間 (1895~1978) における諏訪湖の年間
漁獲高及びその金額高の推移. 諏訪湖漁業協同組合
の資料による
諏訪湖集水域生態系研究 (資料2), 4, 69~106.
- 名東 実 (1978)
諏訪湖の水産資源とその変遷.
諏訪湖集水域生態系研究. 1, 13~22.
- 長野県水産指導所諏訪支所 (1959)
諏訪湖における「ふな」漁獲高の推移, 1950~1959.
- 長野県水産指導所諏訪支所 (不明)
諏訪湖漁業者分布図,
阿部事務官 (1951)
内水面漁業従事者の一般的状況把握のための一例
(諏訪湖).
内水面漁業資料. 第15輯.
- 諏訪市教育委員会 (1971)
諏訪湖—その漁法と漁具. 10~13.
- 小林茂樹 (1974)
諏訪湖の漁具と漁法. 下諏訪町立博物館.
- 諏訪湖の養魚・放流 556.55: 639.31
- 八木貞助 (1913)
信州における淡水養殖.
魚学雑誌. 1, (2), 30~33.
- 川上宗治 (1917)
諏訪湖の養殖経営について.
水産界, 421, 801~805.
- 日暮 忠 (1919)
諏訪湖の養殖経営とその結果.
水産研究誌, 14, (1), 1~3.
- 田内森三郎・三善 清 (1936)
諏訪湖, 霞ヶ浦, 北浦及び琵琶湖の水産増殖につ
いて (I).
日本水産学会誌. 4, (2).
- 田内森三郎・三善 清 (1936)
諏訪湖, 霞ヶ浦, 北浦及び琵琶湖の水産増殖につ
いて (II).
日本水産学会誌. 4, (5).
- 長野県水産指導所諏訪支所 (1960)
諏訪湖増殖計画 (年間100ton).
- 長野県水産指導所諏訪支所 (不明)
養鯉の参考資料.
白石芳一・他 (1952)
諏訪湖産ワカサギの標識に産卵移殖調査並びに湖河
の生態について.
淡水区水産研究所報告: 1, (1), 26~40.
- 長野県水産指導所諏訪支所 (1961)
いさざ移殖研究会.
長野県水産指導所諏訪支所 (1961)
過去4年間における「ふな」の飼育成績について.
(1957~1961)
- 白石芳一 (1961)
ワカサギの水産生物学並びに資源学的研究.
淡水区水産研究所報告. 10, (3), 1~263.
- 長野県水産指導所諏訪支所 (1953)
諏訪湖魚貝類放流数量 (1917~1953).
- 日暮 忠 (1916)
諏訪湖の養魚経営と鯉魚及び公魚の移殖.
水産界, 403, 352~353.
- 長野県水産指導所諏訪支所 (不明)
マラカイトグリーンの公魚卵に対する薬害.
月江事務官・小関技官・本間昭郎 (1950)
長野県諏訪湖における放流事業調査報告書.
内水面漁業資料. 第12輯.
- 長野県水産指導所諏訪支所 (1961)
年度別わかさぎ卵移出一覧表 (1957~1961)
- 長野県水産指導所諏訪支所 (1959)
諏訪湖における「ふな」の産卵条件に関する調査に
ついて
白石芳一 (1952)
ワカサギの標識放流 (第二回試験).
淡水区水産研究所報告. 2, (1), 11~30.
- 長野県水産指導所諏訪支所 (1948)
わかさぎ人工採卵数算定書 (1946~1948)

長野県水産指導所諏訪支所 (1956)

長野県水産指導所諏訪支所業績表 I. (1946~1956)

(1)わかさぎの諸問題に関する試験調査.

(2)ふなの諸問題に関する試験調査.

(3)温泉利用あゆ池中卵浮化飼育試験.

長野県水産指導所諏訪支所 (1958)

わかさぎ人工採卵浮化率向上に関する試験. 第1報,
受精率の向上について.

諏訪教育会動物委員会 (1968)

六斗のワカサギの人工孵化.

研究紀要, 5, 49~75.

諏訪湖の水質一般 556.551

早乙女新一郎 (1929)

諏訪湖地方の水質調査成績.

長野県工業試験場彙報, 11, 1~98.

早乙女新一郎・大前 圭・山内義雄・大谷貞雄・小林

文夫・佐藤武男 (1937)

長野県の水質 (県内湖水の分析法).

長野県工業試験場報告, 12, 409.

早乙女新一郎・小林文男 (1930)

諏訪湖並に上下伊那地方の水質. (第二報).

長野県工業試験場彙報, 14, 1~78.

林 秀剛 (1980)

諏訪湖の水は何故緑色なのか.

信州の旅, 32, 14~15.

松日嗣夫・他 (1958)

長野県下の河川, 湖の水質.

長野県衛生研究所調査報告, 15, (1).

倉沢秀夫・山岸 宏・吉川正武・為政園野 (1971)

諏訪湖の水温, pH, 溶存酸素量, クロロフィル量及
びセストン量の垂直分布季節変化の調査資料 (1970
年)

JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究, 3, 1~10.

菅原由紀夫・早川清二郎 (1978)

リモートセンシング技術利用による水質調査実験
報告.

Assoc. Photogram. Appl. Technology, 5, 33~46.

諏訪臨湖実験所 (1978)

付表 (長野県農業気象月報より転載).

諏訪湖候所データ (1977年 (52年) 1月~1978年8月)

諏訪湖集水域生態系研究 (資料1), 2, 181~200.

沖野外輝夫 (1973)

Microcystis の発生と水質その他に与える影響.

人為に伴う水質及び水収支の変化に関する研究, 38

~41

Okino, Tokio・Hiroshi Yamagishi・Haruo Fuku-
hara・Hidetake Hayashi・Yoshito Watanabe・
Kanji Aoyama・Hideo Kurasawa (1969)Materials for ecological study on Lake Suwa
(Preliminary report).Misc. Rept. Res. Inst. Nat. Resources (資源研彙),
71, 40~60.

諏訪湖定期観測グループ (1978)

諏訪湖定期観測資料の取扱い. 各項目分析分担及び
前処理について.

諏訪湖集水域生態系研究 (資料1), 2, 1~2.

倉沢秀夫・編 (1979)

諏訪湖定期観測資料集 No.1

諏訪湖集水域生態系研究, 2, 1~200.

諏訪湖の物理的水質 556.551.113

小泉清明・桜井善雄・川島信二・長沢武夫 (1968)

諏訪湖の汚染とけん濁物質並びに溶存物質との関係
—現状と経年変化 (諏訪湖陸水学資料III)

日本生態学会誌, 18, (4), 167~171.

小泉清明・長沢武夫・川島信二 (1969)

けん濁物質と水への清濁度との関係—実験的研究と
諏訪湖への応用 (諏訪湖陸水学資料V).

陸水学雑誌, 30, (4), 125~138.

沖野外輝夫・山本雅道・塩野崎 寛 (1978)

1977年~1978年の定期観測による諏訪湖の日射量,
水温, 透明度, 水中相対照度及び pH.

諏訪湖集水域生態系研究 (資料1), 2, 3~15.

沖野外輝夫・山本雅道・塩野崎 寛・杉本剛士 (1980)

1978~1979年の定期観測による諏訪湖の日射量, 水
温, 透明度, 水中相対照度及び pH.

諏訪湖集水域生態系研究 (資料2), 4, 4~9.

沖野外輝夫 (1980)

諏訪地方の気象特性と諏訪湖釜口水門 (天竜流出口)
における放流量 (1977年)

諏訪湖集水域生態系研究 (資料2), 4, 1~4.

松田松二・星川和俊 (1979)

湖面の熱収支.

諏訪湖集水域生態系研究, 3, 75~80.

諏訪湖の水温 556.551.113:536.5

田中阿歌磨 (1899)

湖水の温度及分類.

- 地学雑誌. 11, (124), 275~291.
- 田中阿歌麿 (1899)
湖水の温度及分類.
地学雑誌. 11 (125), 378~387.
- 田中阿歌麿 (1906)
諏訪湖に於て観測せし春季水温門に就て.
地学雑誌. 18, 208, 265~267.
- 伊藤徳之助 (1918)
諏訪湖における水温と可視視界との相関.
気象集誌. 37, (3), 100~102.
- 浜 正太郎 (1929)
諏訪湖水温測定について.
諏訪中学校科学会誌. 2, 18~20.
- 牛山正雄 (1965)
諏訪湖における水温分布の研究.
長野県諏訪清陵高校出版物.
- 牛山正雄・他 (1965)
諏訪湖の水温分布の研究.
長野県諏訪清陵高校.
- 増沢譲太郎 (1949)
諏訪湖における結氷下の成層.
陸水学雑誌. 14, (1), 1~6.
- Masuzawa, Jotaro (1949)
Stratification in Lake Suwa under icecover.
Jap. Jour. Limnol. 14, 1~6.
- 増沢譲太郎 (1950)
諏訪湖における夏季の成層について.
資源科学研究所彙報. 15, 57~62.
- 諏訪湖の結氷 556.551.113 : 551.324.43**
- 不 明 (1908)
諏訪湖全水面の初氷.
地質学雑誌. 15, 195.
- 不 明 (1908)
諏訪湖第2回の結氷.
地質学雑誌. 15, 271.
- 小林房太郎 (1906)
諏訪湖の結氷.
地学雑誌. 18, (208), 267~272.
- 小林房太郎 (1911)
諏訪湖の結氷.
地質学雑誌. 18, 267~272.
- 藤原咲平 (1920)
諏訪湖結氷日調査第二報.
気象集誌. 39, (5), 131~134.
- 藤原咲平・関口 領 (1936)
諏訪湖結氷期日の遅速の解析.
気象集誌II輯. 14, (12), 587~591.
- 荒川秀俊 (1954)
五世紀に亘る諏訪湖御神渡の記録について
信濃史学会誌. III. 6, (7), 1~9.
- 船津康二 (1958)
諏訪湖結氷の予想について.
天気. 5 (8), 256~258.
- 藤原咲平・荒川秀俊 (1954)
諏訪湖結氷期日表.
研究時報. 6, (5), 127~137.
- 平沢福松 (1912)
明治42年2月26日諏訪に於て観測せし偽氷餅盤について.
地質学雑誌. 19, 192~195.
- 増沢譲太郎 (1948)
諏訪湖の氷の厚さについて.
応用気象. 2, (4), 111~112.
- 犀川漁史 (1895)
信州諏訪湖神渡りの事.
地質学雑誌. 2, 604.
- 藤原咲平 (1948)
諏訪湖の氷. 御神渡りの話. 天文と気象.
天文と気象. 15, (2), 42~46.
- 荒川秀俊 (1954)
藤原咲平博士遺稿. 諏訪湖結氷日並びに御神渡りの
期日表について.
研究時報. 6, (5), 138~146.
- 荒川秀俊 (1954)
5世紀に亘る諏訪湖お神渡の研究.
地学雑誌. 63, (4), 193~200.
- 表 俊一郎 (1965)
諏訪湖のお神渡について.
地震研究所.
- 船津康二 (1960)
湖水の結氷が湖水周辺に及ぼす影響について.
天気. 7, (5), 134~141.
- 岸上冬彦 (1940)
諏訪湖氷上の弾性波実験報告.
地震. 12, (4), 156~165.
- 岸上冬彦 (1940)
諏訪湖氷上の弾性波実験報告.
地震. 12, (7), 310~321.
- 諏訪湖の化学的水質 556.551 : 114**

諏訪湖の無機化学的水質 556.551.114:546

吉村信吉 (1931)

日本の湖水の化学成分. I. 総論.

陸水学雑誌. 1, 25~31.

菅原 健・小穴進也・小山忠四郎・半谷高久・森田良美・山田節夫 (1949)

諏訪湖及東京湾の生産力調査研究.

水産研究会報. 2, 3~28.

吉村信吉 (1934)

日本の湖水の化学成分. III. 塩化物.

陸水学雑誌, 3, (3), 71~82.

吉村信吉 (1934)

日本の湖水の化学成分. IV. 硫化水素.

陸水学雑誌. 4, (1), 11~27.

伊藤利一・西沢節二・赤尾秀雄・牧 幸男・丸山正人・栗田秀実・宮島 勲 (1967).

諏訪湖の水質並びに湖への流入水の水質調査.

長野県衛公研調研報. 76, 1~45.

Koyama, Tadahiro・Osamu Sato・Takao Tomino・Katsuji Matsunaga・Hideo Kurasawa (1972)
Chemical Studies on carbon cycle in Lake Suwa by determining pH and total carbon dioxide.

Jap. J. Limnology. 33, (4), 61~70.

中本信忠 (1978)

諏訪湖湖心における各態りんの季節変化.

諏訪湖集水域生態系研究 (資料1). 2, 40~44.

渡辺義人・山本満寿夫 (1980)

湖水中の懸濁性有機物の分解過程における炭素, 窒素, りんの挙動.

諏訪湖集水域生態系研究. 5, 100~104.

中本信忠 (1980)

諏訪湖湖心における各態りんの季節変化. (1978年10月~1979年9月)

諏訪湖集水域生態系研究 (資料2). 4, 28~29.

吉村信吉 (1931)

日本湖水の窒素化合物と磷酸塩.

水産物理談話会々報. 29, 431~438.

吉村信吉 (1935)

日本の調和型湖水中に溶存する窒素化合物の含有量.

日本水産学会誌. 4, (3), 183~189.

渡辺義人・山本満寿夫 (1978)

諏訪湖湖心定点におけるキエルダール窒素 (K-N) 濃度の季節変化 (1977年8月~1978年11月).

諏訪湖集水域生態系研究 (資料1). 2, 50~54.

渡辺義人・山本満寿夫 (1980)

諏訪湖湖心定点におけるキエルダール窒素 (KN) と溶存有機態窒素 (DON) 濃度の季節変化. (1978年12~1979年9月).

諏訪湖集水域生態系研究 (資料2). 4, 22~26.

渡辺義人・山本満寿夫・沖野外輝夫・田中哲次郎・林秀剛 (1980)

諏訪湖における窒素の季節変動.

諏訪湖臨湖実験所研究報告. 3, 47~52.

田中哲次郎 (1978)

諏訪湖湖心定点における亜硝酸態窒素及び硝酸態窒素濃度の季節変化について.

諏訪湖集水域生態系研究 (資料1). 2, 37~39.

沖野外輝夫 (1978)

1977~1978年の諏訪湖の溶存酸素量と全炭酸の季節変化.

諏訪湖集水域生態系研究 (資料1). 2, 16~19.

沖野外輝夫 (1980)

1978~1979年の諏訪湖の溶存酸素量と全炭酸の季節変化.

諏訪湖集水域生態系研究 (資料2). 4, 10~11.

吉村信吉 (1933)

日本の湖水の化学成分. II. 溶解性酸素(1).

陸水学雑誌. 2, 63~75.

Yoshimura, Shinkichi (1938)

Dissolved oxygen of the Lake waters of Japan.

Sci. Rep. Tokyo Bunryka Daigaku C. 28, 63~277.

吉村信吉 (1931)

諏訪湖の夏季における酸素含量と水の華.

陸水学雑誌. 1, (1), 48~50.

丸山泰男・矢木 博・山本満寿夫・寺島恒雄 (1969)

諏訪湖の無機環境. I. 夏季の24時間水質, とくにDO と pH の測定成績.

JIBP - PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 1, 103~104.

青山莞爾・沖野外輝夫・倉沢秀夫・林 秀剛・福原晴夫・山岸 宏 (1971)

Microcystis 発生時の溶存酸素について一特に網イケス養魚との関係.

JIBP - PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 3, 11~25.

Yamagishi, Hiroshi・Kanji Aoyama (1972)

Ecological studies on dissolved oxygen and bloom of *Microcystis* in Lake Suwa. I. Horizontal distribution of dissolved oxygen in relation to drifting of *Microcystis* by wind.

- Bull. Jap. Soc. Sci. Fisheries. 38, (11), 9~16.
- 中島光敏・熊谷善夫・西村 肇・田中哲治郎 (1979)
水の華発生時における酸素の鉛直移動.
諏訪湖集水域生態系研究. 3, 59~74.
- 小山忠四郎 (1973)
湖面と空気との間の二酸化炭素交換速度の測定法.
JIBP - PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 5, 5~9.
- 沖野外輝夫・山本雅道 (1978)
1977~1978年の諏訪湖の水質 (電気伝導度 SiO_2 , Cl^- , Ca^{++} , Mg^{++} , $\text{NH}_4\text{-N}$, COD)
諏訪湖集水域生態系研究 (資料1). 2, 27~36.
- 沖野外輝夫・山本雅道・渡辺雄二・杉本剛士 (1980)
1978~1979年の諏訪湖の水質 (電気伝導度, SiO_2 , Cl^- , Ca^{++} , Mg^{++} , $\text{NH}_4\text{-N}$, COD)
諏訪湖集水域生態系研究 (資料2), 4, 17~21.
- 諏訪湖の有機化学的水質 556.551.114 : 547
- 半田暢彦・松永捷司・小山忠四郎 (1972)
諏訪湖における溶存有機物の研究.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 4, 1~8.
- 半谷高久・安部喜也・小椋和子・落合良仁・落合正宏 (1970)
人類活動によって排出される水中微量有機物の都市水域における行動の研究.
都市研究調査報告, 4, 1~21.
- 丸山泰男・矢木 博 (1969)
Microcystis が BOD, COD, DO, の測定値に及ぼす影響について.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 1, 117~118.
- 林 秀剛 (1978)
諏訪湖における POC (懸濁態有機炭素), PON (懸濁態有機窒素) 及び DOC (溶存態有機炭素) の季節変動
諏訪湖集水域生態系研究 (資料1), 2, 45~49.
- 渡辺義人 (1970)
諏訪湖におけるセストン炭水化物の層別日変化及びその分解過程.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 2, 111~114.
- 佐藤泰哲 (1978)
諏訪湖における尿素的定期観測結果.
諏訪湖集水域生態系研究 (資料1), 2, 55~56.
- 佐藤泰哲 (1980)
諏訪湖における尿素的定期観測結果 2
諏訪湖集水域生態系研究 (資料2), 4, 27.
- 富野孝生 (1971)
諏訪湖における遊離アミノ酸の化学的研究.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究, 3, 107~110.
- 坂本 充・神谷知子 (1973)
植物プランクトンの生産を支配する錯体形成有機物の働き, 特に磷酸の利用度を支配する働きについて.
陸水富栄養化の基礎的研究. 2, 71~74.
- 安部喜也・半谷高久 (1968)
諏訪湖のメチレンブルー活性物質について.
陸水学雑誌, 29, (3), 111~118.
- 諏訪湖の栄養塩 556.551.114 : 581.133.8
- 中本信忠 (1979)
富栄養湖諏訪湖における生物利用可能栄養物質の季節変化 (MBOD 法による評価).
諏訪湖集水域生態系研究. 3, 35~40.
- 中本信忠・坂井 正 (1980)
諏訪湖における MBOD 法による生物利用可能栄養物質及び植物プランクトンの活性の評価の試み
諏訪湖集水域生態系研究, 5, 92~99.
- 矢木 博・山本満寿夫・丸山泰男・浅野裕三 (1970)
諏訪湖流入, 流出河川及び諏訪湖における栄養塩類の研究. 第一報, 流入, 流出河川による硝酸, アンモニア, 亜硝酸及び磷酸塩類の諏訪湖への供給量と流出量について.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 2, 163~170.
- 矢木 博・山本満寿夫・丸山泰男・浅野裕三 (1970)
諏訪湖流入, 流出河川及び諏訪湖における栄養塩類の研究. 第二報, 諏訪湖水の硝酸, アンモニア, 亜硝酸及び磷酸塩の含量について.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究, 2, 171~173.
- 窪田衛二・牛山 保・細野道太郎 (1971)
諏訪湖における流入流出河川による無機栄養塩類の収支と変化.
JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 3, 111~123.
- 坂本 充・福原晴夫・沖野外輝夫 (1971)
諏訪湖における栄養塩の回帰と, 植物プランクトンの基礎生産におけるその意義.

- JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 3, 26~34.
 半田暢彦・山本満寿夫・窪田衛二 (1973)
 諏訪湖における栄養塩及び有機物収支に関する研究.
 JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究, 5, 10~19.
 日比野雅俊 (1976)
 栄養塩収支にみる諏訪湖の富栄養化.
 人文地理, 28, (5), 532~249.
- 諏訪湖の水位, セイシ 556.555 : 532.5**
- 稲垣益次・中村久由・牧 真一 (1958)
 諏訪湖水位の変化と上諏訪温泉湧出量との関係について.
 温泉科学, 9, (1), 12~25.
 平沢福松 (1907)
 諏訪湖の深さ.
 信濃博物学雑誌, 24, 780~783.
 岡谷釜口水門監理事務所 (1965)
 諏訪湖の水位調査.
 長野県諏訪建設事務所. (1953~1965)
 田中阿歌磨 (1911)
 諏訪湖定常振動.
 地学雑誌, 22, (261), 701~702.
 田中阿歌磨 (1911)
 諏訪湖の定常振動.
 理学会, 8, (7), 518~522.
 田中阿歌磨 (1915)
 諏訪湖定常振動.
 地質学雑誌, 22, 70.
 日高孝次 (1940)
 諏訪湖の静振.
 海洋時報, 12, (3), 405~408.
 海と空, 20, (4), 85~89.
 堀江三五郎 (1933)
 諏訪湖氾濫三百年史.
 諏訪湖氾濫史刊行会. 1~674.
- 諏訪湖の底泥, 堆積物 556.555 : 551.312**
- 堀江正治 (1972)
 諏訪湖における堆積物の研究,
 JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 4, 23~35.
 林 秀剛 (1973)
 諏訪湖小坂沖定点における基礎生産, 二次生産, 分解栄養塩類量の季節変化に関する研究, II 報. 沈澱
 物量の推定 (1971~1972).
 JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 5, 40~43.
 小泉清明・桜井善雄 (1968)
 諏訪湖の水中沈降物.
 日本生態学会誌, 18, (5), 212~217.
 林 秀剛・沖野外輝夫・倉沢秀夫 (1979)
 諏訪湖の網いけす養魚が底質に及ぼす影響.
 諏訪湖集水域生態系研究, 3, 81~86.
 小山忠四郎・松永捷司・早川博信 (1968)
 諏訪湖々底堆積物の化学的研究.
 JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 1, 57~56.
 牧 幸男・関 久人 (1971)
 諏訪湖湖底堆積物中の重金属について.
 水処理技術, 12, (4), 31~40.
 西条八束・杉村行男・半谷高久 (1956)
 湖底堆積物の研究(第4報). 本邦湖底堆積物中の鉄,
 マンガン及び磷について.
 地学評論, 29, (8), 500~506.
 矢木 博・山本満寿夫・丸山泰男 (1969)
 諏訪湖の無機環境. II. 底泥の炭素率, 窒素乾土効果と温度上昇効果.
 JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 1, 105~106.
 丸山泰男・矢木 博・山本満寿夫 (1969)
 諏訪湖の無機環境. III. 底泥のクロム, 亜鉛, マンガン含量.
 JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究, 1, 107~108.
 林 昶子・矢木 博 (1969)
 諏訪湖の無機環境. IV. 底泥中の一般無機成分含量.
 JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 1, 109~110.
 西条八束・半谷高久 (1953)
 湖底堆積物の研究(第1報). 本邦湖底堆積物中の有機成分.
 地学評論, 26, (13), 595~601.
 杉村行男 (1960)
 現世堆積物の地球化学的研究(第二報). 本邦湖底堆積物のクロロフィル分解物含量.
 日本化学雑誌, 81, (12), 1827~1830.
 安部喜也 (1972)
 諏訪湖湖底泥中の ABS の分布.
 陸水学雑誌, 33, (3), 44~50.
 Nishimura, Mitsugu (1978)
 Origin of stanols in young lacustrine sediments.
 Nature 270,(5639), 711~712.

Nishimura, Mitsugu (1978)

Geochemical characteristics of the high reduction zone of stenols in Suwa sediments and the environmental factors controlling the conservation of stenols into stanols.

Geochim. Cosmochim. Acta, 42, 349~357.

Nishimura, Mitsugu (1978)

The geochemical significance in early sedimentation of geolipids obtained by saponification of lacustrine sediments.

Geochim. Cosmochim. Acta. 41, 1817~1823.

Horie, Shoji (1969)

Late Pleistocene limnetic history of Japanese ancient Lakes Biwa, Yogo, Suwa and Kizaki.

Mitt. Internat. Verein. Limnol. 17, 436~445.

前田 修 (1969)

湖水中でのデトリタス無機化比活性ならびに溶存有機物吸収速度の現場測定.

JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 1, 89~92.

林 秀剛 (1970)

水柱内における有機物収支について一無機化量と沈澱量の推定.

JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 2, 101~110.

富野孝生 (1970)

諏訪湖湖底泥中の炭素・窒素・磷に関する水中回帰量の測定.

JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 2, 153~162.

福原晴夫・田中哲次郎 (1978)

底泥からの栄養塩の溶出.

諏訪湖集水域生態系研究. 1, 47~50.

西村 肇・中島光敏 (1978)

底泥, 水塊界面における物質移動現象について.

諏訪湖集水域生態系研究. 1, 71~72.

中島光敏・西村 肇 (1979)

底泥, 水塊界面における物質移動について, 第2報.

諏訪湖集水域生態系研究. 3, 47~58.

市川 渡 (1954)

諏訪湖堆積物中の化石珪藻について.

石油技術協会誌. 19, (5), 168~175.

諏訪湖の水質汚濁と富栄養化 556.555:628.19

西沢節二・宮島 勲・武田洋一・川村 実・鈴木富雄 (1975)

諏訪湖富栄養化調査.

長野県公研調研報. 126, 1~109.

諏訪湖浄化対策研究特別委員会 (1966)

諏訪湖の汚濁に関する調査成績.

第1回中間報告. 1~62.

小泉清明 (1972)

長野県主要河川と湖の水質汚濁の過去と現状.

中部開発センター. 1~133.

小泉清明 (1978)

諏訪湖における富栄養化の過程.

陸水富栄養化の基礎的研究. 2, 1~3.

福原晴夫 (1978)

湖沼生態系と富栄養化現象.

新潟大教育学部・教育論文, 18, 1~12.

沖野外輝夫 (1979)

湖沼の富栄養化調査.

環境創造, 9, (2), 50~58.

日比野雅俊 (1974)

諏訪湖の周辺人文環境の変化からみた富栄養化.

人文地理. 26, (5), 547~560.

諏訪湖浄化対策委員会 (1968)

諏訪湖浄化に関する研究—湖沼汚染への挑戦—

諏訪湖浄化対策委員会 (長野県衛生部). 1~199.

沖野外輝夫・渡辺義人・古畑和五郎・倉沢秀夫 (1979)

富栄養化対策調査報告書 (諏訪湖地区), 1~164.

関東農政局.

長野県・自然環境容量調査研究会 (1978)

自然環境容量手法調査研究結果報告書. 1~75.

桜井善雄 (1979)

諏訪湖汚濁の特性と汚濁防止対策の経過.

諏訪湖集水域生態系研究. 3, 87~102.

沖野外輝夫・平塚茂雄 (1979)

諏訪湖の有機汚濁予測と処理システムの評価 (諏訪湖流域下水道三次処理調査委員会資料). 1~80. 長野県.

長野県水産指導所諏訪支所 (1980).

漁業生物による富栄養化防止試験.

昭和54年度赤潮対策技術開発試験報告書. 1~91.

桜井善雄・渡辺義人・沖野外輝夫 (1976)

よみがえれ信州の水

信州の陸水, 2, 1~44. 環境科学研究会

沖野外輝夫 (1979)

湖沼・河川の保護

自然保護の生態学. 215~243. 培風館.

倉沢秀夫・青山莞爾 (1969)

過去60年間における諏訪湖の水質と湖沼生物の変

遷.

JIBP-PF 陸水生物並びに陸水生物群集の保護の方法に関する研究. 3, 24~30.

倉沢秀夫・山岸 宏 (1971)

諏訪湖における産業と生物分布の変化.

バイオテク. 2, (4), 261~268.

倉沢秀夫・山岸 宏 (1971)

湖沼と地域開発.

地域開発. 77, 17~29.

小泉清明・桜井善雄・丸山泰男 (1968)

諏訪湖の都市沿岸部の汚濁と生物群集の構造, 分布並びに生産に関する研究.

JIBP-PF 陸水生物並びに陸水生物群集の保護の方法に関する研究. 2, 19~34.

倉沢秀夫・青山莞爾・沖野外輝夫 (1968)

諏訪湖並びに流入河川の水質汚濁と生物群集の遷移.

JIBP-PF 陸水生物並びに陸水生物群集の保護の方法に関する研究. 2, 34~44.

小泉清明・桜井善雄・丸山泰男 (1969)

諏訪湖の都市沿岸部の汚濁と生物群集の構造, 分布並びに生産に関する研究.

JIBP-PF 陸水生物並びに陸水生物群集の保護の方法に関する研究. 3, 18~23.

倉沢秀夫 (1979)

諏訪湖のプランクトン及び大型水生植物の優占種の経年変化と湖の富栄養化の関連.

信州の自然環境モニタリングと環境科学の総合化に関する研究. 1, 1~12. (文部省特定研究).

三浦泰蔵・鷹森英信 (1972)

富栄養化と魚類相の変化.

陸水富栄養化の基礎的研究. 1, 44~47.

倉沢秀夫 (1980)

諏訪湖の富栄養化と各種漁獲物の経年変化との関係.

信州の自然環境モニタリングと環境科学の総合化に関する研究. 2, 15~21.

Yamagishi, Hiroshi・Tokio, Okino (1967)

Dissolved oxygen, bloom of *Microcystis* and "Susu-mizu" of summer-autumn season in Lake Suwa.

Jour. Fac. Sci. Shinshu Univ. 2, (2), 139~148.

山岸 宏 (1971)

諏訪湖の夏の溶存酸素の分布と "スス水" 現象.

水温の研究. 15, 3~12.

沖野外輝夫 (1974)

Microcystis による「水の華」の発生と湖沼の汚染. 水温の研究. 18, (1), 2~9.

諏訪湖の水質公害 556.555:628.54

桜井善雄 (1969)

諏訪湖の公害問題—その経緯と現状.

日本の科学者. 3, (5), 1~6.

小泉清明・青木 舜 (1956)

長野県の工場廃水と漁業との関係.

長野県特産課. 1~19.

田中哲治郎・沖野外輝夫 (1978)

水域の富栄養化と人間活動 I. 合成洗剤の使用実態を中心にみた諏訪湖流域におけるリンの排出量. 用水と廃水. 20, (6), 44~53.

山本満寿夫・丸山泰男・矢木 博 (1969)

諏訪湖の無機環境. V. 諏訪湖周辺の工場排水の水質.

JIBP-PF 諏訪湖生物群集の生産力研究. 1, 111~112.

河野哲郎・保坂 悟・杉沢富夫 (1980)

諏訪地域での幾つかの食品工業の汚濁物発生原単位の評価.

諏訪湖集水域生態系研究. 5, 70~91.

沖野外輝夫・渡辺義人・田中哲治郎 (1978)

諏訪湖の富栄養化に及ぼす農地排水の影響—宮川流域からの窒素, リンの流出量と農地排水の寄与率.

諏訪湖集水域生態系研究. 1, 29~46.

小泉清明・井出嘉雄 (1954)

ハケ岳鉱害に関する意見書.

長野県出版物. 1~23.

諏訪湖の沿岸部変化 (土木) 556.557

諏訪湖の土木資料 556.557:624/628

長野県土木部 (1950)

諏訪湖の資料. 長野県諏訪建設事務所. 1~157.

長野県土木部 (1954)

諏訪湖の資料. 長野県諏訪建設事務所. 1~206.

長野県土木河川課 (1940)

諏訪湖治水利水資料.

長野県土木部 (1954)

諏訪湖の資料. 1~204.

長野県 (1953)

昭和28年度諏訪湖河川調査及改修計画書.

長野県 (1956)

諏訪湖地区、上部西天竜地区改良事業計画概要。

長野県 (1956)

諏訪湖治水計画書。第1部 雨量。第2部 流入流出量。第3部 計画案。第4部、第5部 追録。第6部 総括 (水理)。

長野県 (1958)

諏訪湖治水計画調査書。

長野県 (1959)

諏訪湖総合開発調査報告書 (総括)。

長野県水産指導所諏訪支所 (1954)

昭和28年～29年諏訪湖干潟調査関係。(1953～1954)

楠仙之助 (1941)

諏訪湖の埋没とその維持について。

土木学会雑誌。27, (7), 618～629。

水産庁調査研究部 (1950)

諏訪湖埋立に関する調査報告。

調査資料課。調査資料第26号。

諏訪湖と下水道 556.557 : 628.2

沖野外輝夫 (1979)

諏訪湖流域下水道の計画内容と進捗状況。

諏訪湖集水域生態系研究。3, 1～6。

諏訪湖と下水処理 556.557 : 628.3

小泉清明・矢木 博・山本満寿夫・上垣内郁夫・尾和三智子・丸山泰男・竹中伸也・浅野裕三 (1970)

諏訪湖周辺の有機性工場排水の下水道投入事前処理法に関する研究。

長野県委託研究出版物。1～21。

西沢節二 (1956)

諏訪市し尿消化そうについて。

長野県衛公研調研報。8, 1～8。

河野哲郎・保坂 悟 (1980)

活性汚泥法の浄化機能について。

諏訪湖集水域生態系研究 (資料2)。4, 107～115。

4-2. 諏訪湖集水域の地質学、陸上生物学

集水域の地質 556.51 : 551.1/.4

山本熊太郎 (1941)

新日本地誌中部地方。朝倉書店。

槇山次郎 (1950)

日本地方地質誌「中部部分」。朝倉書店。

長野県地学会 (1953)

長野県の地学 I. II. III. IV. 教育出版社。

長野県資源調査研究会 (1955)

地質調査報告書。

長野県資源調査研究会。1～295。

本間不二男 (1917)

信濃中部地質誌。

信濃教育会小県上田部会。1～209。

本間不二男 (1931)

信濃中部地質誌。古今書院。

長野県地学会 (1951)

信州の地形地質の概要。

長野県の地学。1, 9～14。

小林国夫 (1955)

日本アルプスの自然。1～258。築地書館。

山崎直方 (1904)

長野県諏訪郡地質誌。1～122。諏訪教育会。

山崎直方 (1905)

長野県諏訪郡地質誌。

地質学雑誌。12, 280～。

宮原清治 (1953)

諏訪盆地の地形地質の概観。

長野県の地学。II, 86～103。

諏訪の自然誌地質編集委員会 (1975)

諏訪の自然誌。地質編。1～531。諏訪教育会。

下諏訪町誌編集会 (1963)

下諏訪町誌 (上巻)。1～1140。

岡谷市 (1973)

岡谷市史 (上巻)。1～1059。岡谷市役所。

本間不二男 (1925)

諏訪盆地の地質構造に関する知識。

地球3, 275～279。

矢部長克 (1916)

天竜川下流地方の地質。

現代の科学。4, 15～17。

信州地学教育研究会 (1980)

長野県地学図鑑。1～300。信濃毎日新聞社。

長野県地学会 (1957)

20万分の1長野県地質図及び説明書。

内外地図株式会社。

沢村孝之助・大和次栄 (1953)

5万分の1地質図幅「諏訪」及び同説明書。

地質調査所。1～45。

小林国夫・山田哲雄・清水英樹・松島信幸 (1962)

10万分の1上伊那地質図。上伊那教育会。

集水域の古・中生代層 556.51 : 551. 731.76

諏訪地学委 (1971)

入笠山地域の地質調査 (第1報).

諏訪研究紀要. 8, 127~131.

前田四郎・川辺鉄哉 (1967)

赤石山地入笠地域の戸台層の地質構造.

早坂一郎先生喜寿祝賀記念文集. 307~314.

前田四郎・川辺鉄哉 (1967)

赤石山地入笠山地域の戸台層の層序と構造.

千葉大文理紀要. 4, (3), 323~332.

Maeda, Siro・Kenji, Kitamura (1964)

Lower Cretaceous Trigoroids from Todai Formation Central Taper

Fac L Art and Sci: Chiba Univ. 4, (2), 47~57.

杉山隆二 (1939)

所謂中央線に沿える地帯に分布せる諸岩類の研究 (第1報).

地質学雑誌. 46, 169~187.

渡辺 貫・石本己四雄 (1937)

中央構造線に関する問題.

地質学雑誌. 49, 23~34.

藤本丑雄・一木健二・亀井節夫・桂田 保・河内洋祐・宮崎 元・小沢昭三・佐藤芳治・徳岡隆夫・山田哲雄 (1965)

赤石山地北部の花崗岩類と糸魚川一静岡構造線. 赤石山地北部の地質 (その2).

地球科学. 76, 15~24.

山田哲雄 (1967)

中央構造線について.

第四紀. 11, 82~83.

諏訪地学委 (1970)

岡谷市北西部一川岸地域の地質調査 (第1報).

諏訪研究紀要. 7, 95~100.

斎藤保人 (1971)

岡谷市川岸地域の地質について (第1報).

川岸砂岩粘板岩層の調査とその考察.

信大教養科教報. 6, 7~10.

河内洋祐・山田哲雄・横田勇治 (1966)

諏訪湖北方, 横河川上流の結晶片岩 (横河川変成岩). 岩鉱. 56, (1), 21~29.

小林国夫・田中邦雄 (1953)

長野県の中生代層.

長野県の地学. 2, 159~169.

集水域の第三紀層 556.51 : 551.78

鹿間時夫 (1951)

南信の第三紀層.

長野県の地学. 1, 46~69.

本間不二男 (1926)

長野県中部地方の地質構造 (概報).

地質学雑誌. 34, (43), 132.

本間不二男 (1928)

信濃中部第三紀層の分類一.

地球. 9, (4), 265~277.

本間不二男 (1928)

信濃中部第三紀層の分類二.

地球. 9, (5), 341~350.

本間不二男 (1928)

信濃中部第三紀層の分類三.

地球. 9, (6), 423~432.

本間不二男 (1928)

信濃中部第三紀層の分類四.

地球. 10, (1), 40~53.

本間不二男 (1928)

信濃中部第三紀層の分類五.

地球. 10, (2), 97~103.

田中邦雄 (1968)

中信地域の第三紀層.

フォッサ・マグナ. 36~40.

稲葉 明・林 等 (1952)

長野県諏訪北方の地質.

教育大進論 (M・S).

山口良治 (1962)

諏訪湖北方の地質.

京大卒論 (M・S).

小林国夫 (1955)

諏訪湖西方鉢伏山付近の地質.

長野県地質調査報告書. 155~171.

諏訪地学委員会 (1968)

砥川付近の地質 (第1報).

諏訪研究紀要. 5, 101~122.

諏訪地学委員会 (1968)

砥川付近の地質 (第2報).

諏訪研究紀要. 6, 123~150.

諏訪地学委員会 (1970)

砥川付近の地質 (第3報).

諏訪研究紀要. 7, 67~82.

諏訪地学委員会 (1970)

砥川付近の地質 (第4報).

- 諏訪研究紀要. 7, 83~94.
 諏訪地学委員会 (1971)
 下諏訪町北部の地質調査 (第1報).
 諏訪研究紀要. 8, 120~126.
 小池春夫 (1959)
 守屋山付近の地質.
 信大教育卒論 (M・S).
 両角昭二 (1960)
 守屋山付近の地質 (第1報).
 信大教育科教報. 2, 109~117.
 両角昭二 (1961)
 守屋山付近の地質 (第2報).
 信大教育科教報. 3, 85~105.
 田中邦雄・両角昭二・小池春夫・波多腰忠行 (1961)
 守屋山付近の第三系.
 諏訪教育. 22, 53~63.
 田中邦雄・両角昭二・小池春夫・波多腰忠行 (1961)
 守屋山付近の地質 (演旨).
 地質学雑誌. 67, (790), 398~399.
 田中邦雄・両角昭二・小池春夫・波多腰忠行 (1962)
 守屋山付近の第三系 (第1報).
 地質学雑誌. 68, (806), 618~628.
 守屋層団地研究グループ (1963)
 守屋山付近の第三紀層.
 長野県地学. 4, 65~82.
 本間不二男 (1925)
 諏訪盆地の地質構造に関する知識.
 地球. 3, (2), 275~279.
 守屋層団地研究グループ (1963)
 守屋山付近の第三系 (その二) —礫岩の研究—.
 諏訪教育. 25, 38~46.
 守屋層団地研究グループ (1962)
 守屋山付近の第三系一片倉礫岩の問題—.
 太平洋. 4, 7~8.
 岡野 寛 (1936)
 長野県下諏訪町付近の御坂層変成岩について.
 博物学雑誌. 24, (59), 28~29.
 集水域の第三紀の化石 556.51 : 551.78 : 564
 Tanaka, Kunio (1959)
 Molluscan fossils from Central Shinano Nagano Prefecture, Japan (part 2) Family Naculanidae.
 Bull. Fac. Educ. Shinshu Univ. 10, 67~79.
 田中邦雄 (1962)
 軟体動物化石からみた北部フォッサマグナ地域の漸
 新中新統の境界問題.
 化石. 4, 20~25.
 Tanaka, Kunio (1961)
 Studies on the molluscan fossils from Central Shinano Nagano Prefecture, Japan (part 6) Molluscan fossils from the Moriya Formation.
 Bull. Fac. Educ. Shinshu Univ. 12, 239~275.
 田中邦雄・斎藤保人 (1965)
 守屋累層産軟体動物化石について.
 信濃教育. 944, 79~81.
 田中邦雄・他5名編 (1967)
 信濃の化石採集の旅.
 信濃教育会. 1~181.
 田中邦雄 (1961)
 守屋累層の化石 (英文).
 信大教育研論. 12, 239~275.
 田中邦雄 (1973)
 北部フォッサ・マグナ地域の軟体動物群の時代的変遷について. 信大教養紀要 (自然科学). 7, 35~47.
 集水域の第四紀層 556.51 : 551.79
 鹿間時夫 (1948)
 信州の第四紀に関する現在の知識.
 長野県地学会誌. 1, 19~24.
 矢野和男 (1964)
 八ヶ岳東部・南部地域の第四紀層の研究.
 県科学教育奨励. 130~133.
 甲府盆地第四紀研究グループ (1969)
 八ヶ岳南麓の地質.
 地質学雑誌. 75, (8), 401~416.
 河内晋平 (1965)
 八ヶ岳のゼノリス.
 あかいし. 6, 6~13.
 河内晋平 (1974)
 八ヶ岳のゼノリス (日本地質学会81年演旨).
 地質学雑誌. 80, 275.
 郷原保真 (1967)
 八ヶ岳南麓〜穴山台地.
 第四紀. 11, 27~38.
 河内晋平 (1974)
 地域地質研究報告「蓼科山」.
 地質調査所. 1~120.
 北沢和男・小林賢一 (1973)
 諏訪の第四紀地質 (その一) 八ヶ岳西麓の地質.
 諏訪研究紀要. 9, 11~38.

- 稲垣益次 (1953)
長野県富士見村付近の第四紀層ならびに地形について.
信大文理卒論 (H, S).
- 斎藤保人 (1972)
岡谷市川岸地域の地質について (第2報). 塩嶺累層の調査とその考察.
信大教養科教報. 7.
- 斎藤保人 (1973)
岡谷市川岸地域の地質について (第3報). 第四紀層及び地質構造の調査とその考察.
信大教養科教報. 8.
- 金井孝夫 (1973)
RI 検層による諏訪湖南盆地の浅層地盤の堆積状態・物理的性質・地盤沈下予測について.
地調月報. 24, (9), 441~459.
- 金井孝夫 (1973)
電気探査によって明らかにされた諏訪湖南盆地の浅層地下地質.
地調月報. 24, (8), 393~402.
- 百瀬寛一 (1955)
諏訪鉄平石の反転磁化と地球磁場の逆転.
科学. 25, (4), 257.
- Momose, Kanichi・Kumio, Kobayashi・Tetsuo, Yamada・Minoru, Ozima・Ichiro, Kaneoka. (1966)
Radiometric age of Lava flows of the Enrei formations in Central Japan. (1)
J. Fac. Sci Shinshu Univ. 1, 93~96.
- 野村 哲 (1967)
古地磁気からみた八ヶ岳.
第四紀. 11, 74.
- 飯田祥子 (1973)
八ヶ岳西麓における更新統上部の花粉分析.
第四紀研究要. 12, (1), 1~10.
- 集水域の第四紀の火山 556.51 : 551.79 : 551.21
- 八木健三 (1953)
信州の火山.
長野県の地学. 2, 5~32.
- 小林国夫・百瀬寛一 (1955)
信州における第四紀の火山活動.
地質学雑誌. 61, 322~.
- Honma, Fujio (1924)
Structural evolution of the volcanic district north of Lake Suwa.
- 日本地質学地理学輯報.
- 平賀文男 (不明)
八ヶ岳火山群.
- 山崎直方 (1898)
八ヶ岳火山彙地質調査報文.
震災予防調査会報告. 20, 13~70.
- 北沢和男 (1969)
八ヶ岳火山列末期の火山活動.
信州理科. 3.
- 河内晋平 (1961)
八ヶ岳火山列—I.
地球科学. 55, 1~8.
- 河内晋平 (1961)
八ヶ岳火山列—II.
地球科学. 56, 11~18.
- 河内晋平 (1970)
八ヶ岳における火山配列.
地団研 (24回総会資料集). 49~51.
- Kawachi, Shinpei (1972)
On the arrangements of volcanoes in the Yatsugatake Volcanic chain with special reference to the basement.
J. Fac. Sci Hokkaido Univ. IV, 15, (1~2), 139~156.
- 牛山伝造 (1924)
信濃国霧ヶ峰火山 (雑報).
地学雑誌. 36, (419), 60~.
- 北沢和男 (1973)
諏訪の第四紀地質 (その二) 霧ヶ峰火山の地質.
諏訪研究紀要. 9, 39~46.
- 佐藤 久 (1957)
八ヶ岳火山群の地形.
岳人. 113, 24~27.
- 飯島南海夫 (1963)
信州の火山の岩石学的特性.
長野県の地学. 4, 106~134.
- 河内晋平 (1957)
八ヶ岳火山の地形と岩石.
信大文理卒論 (M. S.)
- 河内晋平 (1961)
八ヶ岳火山列の火山構造と岩石の配列.
地質学雑誌. 67, (790), 415.
- 矢野和男 (1958)
霧ヶ峰火山の地質・岩石学的研究.
信大教育卒論 (M. S.).
- 竹淵修二 (1970)

- 和田峠火山群の岩石・地質学的研究.
信濃教育. 998, 66~73.
- 河内晋平・河内洋佑 (1963)
霧ヶ峰・荒船山地区における鮮新世火山活動 I.
フォッサ・マグナ帯中央部における瀬戸内区の延長
地球科学. 64, 1~7.
- 三沢勝衛 (1934)
八ヶ岳火山の亀甲池見聞記.
Tanida, Katsutoshi (1961)
A study of salic effusive rocks.
J. Fac. Sci. Tohoku Univ. 7, (1), 47~100.
- 小林国夫 (1963)
中部地方の洪積世火山灰層.
第四紀研究. 3, (1~2), 110~122.
- Kobayashi, Kunio・Koichi, Minagawa・Mizuo, Ma-
chida・Hideki, Shimizu・Kazuo, Kitazawa (1968)
The Ontake pumice-Fall deposit pm- I as a Late
Pleistocen.
Time-marker in Central Japan.
J. Fac. Sci. Shinshu Univ. 3, (2), 171~198.
- Kobayashi, Kunio (1969)
Methods of idertification of particular tephra
Layers (1). (1969, Paris) .
The 8 th INQUA. 981~984.
- 吉田俊夫 (1970)
八ヶ岳新期火山灰層中の軽石層.
軽石学雑誌. 3, 27~29.
- 中谷 進 (1970)
八ヶ岳東麓のテフラー特に八那池軽石流を覆うテフ
ラ層中の軽石.
軽石学雑誌. 3, 30~35.
- 河内晋平・大森 江・大森貞子・山崎哲良 (1972)
八ヶ岳とその周辺地域の溶岩の化学成分 (演旨).
三鉱学会連合講演会要旨集. 47.
- 北沢和男・河内晋平・吉田俊夫・小林賢一・久保田毅
(1972)
茅野市北東の火砕流堆積物の層序について (演旨).
第四紀研究. 11, (1), 44~.
- 吉越正勝 (1970)
八ヶ岳西麓の火砕流の層序と水理地質.
信大理卒論 (M, S).
- 集水域の第四紀構造地質 556.51 : 551.79 : 551.24
- 河内晋平・北沢和男・小林武彦 (1965)
八ヶ岳火山列・円頂丘形成期の火山活動 (予報) .
(演旨)
地質学雑誌. 71, (838), 368.
- 三沢勝衛 (1930)
諏訪盆地の地質構造に関する考察の一端.
諏訪郷友会報. 32, 8~13.
- 酒匂純俊・河内晋平・藤木忠美・小林国夫・稲垣益
次・千野光芳 (1958)
トムラウシ山のみごとな構造土をめぐって.
地球科学. 36, 1~4 .
自然委地学班 (1966)
霧ヶ峰の構造土.
諏訪教育. 30, 149~154.
- 諏訪地学委 (1969)
霧ヶ峰の構造土 (その二) 凍土現象について.
諏訪研究紀要. 6, 61~92.
- 小池春夫・武居 守・両角昭二・斎藤保人・立木省
二・北沢和男 (1972)
霧ヶ峰の構造土, 流土階段について.
第四紀研究. 11, (1), 4 .
- 淡路正三 (1938)
霧ヶ峰に見られる断層地形の一例.
地理学評論. 14, (1), 42~58.
- 有井琢磨 (1948)
信州富士見村付近における第四紀衝上運動.
地理学評論. 21, 306~307.
- 河内晋平・北沢和男 (1967)
八ヶ岳・大塩火砕流 (円頂丘形成期) の絶対年代.
日本の第四紀層の14C年代 X X X II.
地球科学. 21, (3), 21~22.
- 河内晋平・北沢和男・小林武彦 (1967)
八ヶ岳北西山麓の火砕流堆積物—八ヶ岳火山列・円
頂丘形成期の火山活動(1).
地質学雑誌. 13, (3), 139~150.
- 集水域の地形 556.51 : 551.79 : 551.4
- 岡山俊雄 (1930)
中央日本山地の切峰面及び区分.
地理学評論. 4, 477~499.
- 八木貞助 (1943)
30万分の1 長野県地図及び説明書.
長野県土木部.
- 辻村太郎 (1924)
天竜川流域の地形.
地質学雑誌. 31, 399~408.
- 辻村太郎 (1924)

- 天竜川流域の地形
地質学雑誌. 31, 460~468.
- 辻村太郎 (1924)
天竜川流域の地形
地質学雑誌. 31, 546~548.
- 小林房太郎 (1911)
諏訪平の雑感.
地質学雑誌. 18, 137~138.
- 杉山基範 (1928)
諏訪盆地の重力偏差分布について.
日本学術協会報告. 4, 326~331.
- 柳平千彦 (1959)
長野県諏訪市渋崎の地理的諸相.
信濃史学会, 11, (2), 37~41.
- 有井琢磨 (1952)
塩尻・葦崎付近の新期断層地形.
内田寛一記念論文集. 下. 235~255.
- Ishikawa, Toshio・Yoshio, Katsui (1959)
Some considerations on the relation between the chemical character and the geographical position of the volcanic zones in Japan.
J. Fac. Sci. Hokkaido Univ. IV, 10, (1), 163~183.
- 川崎逸郎・村田正敏 (1969)
南八ヶ岳火山硫黄岳一赤岳稜線西側にある凹地地形 (I).
千葉大教養研報. B-2, 41~47.
- 川崎逸郎・村田正敏 (1970)
南八ヶ岳硫黄岳一赤岳稜線西側にある凹地地形 (II).
千葉大教養研究. B-3, 23~33.
- 集水域の岩石 (第四紀) 556.51 : 551.79 : 552.2
- 竹淵修二 (1959)
和田峠付近の地質並びに岩石学的研究.
信大教育卒論 (M. S.).
- Yamazaki, Teigi (1965)
Petrography and petrochemistry of Kirigamine Volcano, Central Japan (I).
J. Jap. Assoc. Mineral, Petro. Econ. Geol. (岩鉱) 54, (2), 39~54.
- Yamazaki, Teiji (1965)
Petrography and petrochemistry of Kirigamine Volcano, Central Japan (II).
J. Jap. Assoc. Mineral, Petro, Econ. Geol. (岩鉱) 54, (3), 92~103.
- 鈴木正男 (1969)
フィッシュントラック法による黒曜石の噴出年代とウラン濃度の測定 (第 I 報). 石器時代黒曜石製石器の原産地推定に関する基礎的推定.
第四紀研究. 8, (4), 123~180.
- 集水域の火成岩 (第四紀) 556.51 : 551.79 : 552.3
- 河野義礼・植田良夫 (1964)
本邦産火成岩の K-A dating (I).
岩鉱. 51, (4), 127~148.
- 佐藤伝蔵 (1927)
信州諏訪盆地西側の火山岩について.
地質学雑誌. 34, 346~.
- 遠藤岸郎 (1929)
本邦産玻璃質火山岩の化学成分に就いて.
岩鉱. 2, (6), 281~284.
- 牛山伝造 (1925)
和田峠垂木岩 (雑報).
地質学雑誌. 37, 432~.
- Momose, Kanichi・Kumio, Kobayashi・Tetsuo, Yamada (1959)
Palaemagnetic and geologic researches for the volcanic rocks around Lake Suwa.
Palaeomagnetic reserches for the Pliocene volcanic rocks in Central Japan. (2).
地震研彙報. 37, 433~481.
- 集水域の堆積岩 (第四紀) 556.51 : 551.79 : 552.5
- 千野光茂 (1953)
諏訪郡川岸村山頂の河床礫.
信濃教育. 795.
- 集水域のローム層 556.51 : 551.79 : 552.524
- 小林国夫・郷原保真 (1958)
信州ロームの分帯・氷期・文化層との関係
地質学雑誌. 64, (759). 694.
- 小林国夫 (1959)
信州ロームをさぐる.
伊那路. 3, 7.
- Kobayashi, Kunio (1960)
Bearing of "Shinshu Loam" on the Pleistocene geology of Matsumoto Basin in Central Japan.
J. Fac. Lib. Art. Shinshu Univ. 2, 22~67.
- 小林国夫 (1961)

- いわゆる“信州ローム”（信州ロームの研究（その1））.
地質学雑誌. 67, (784). 32~47.
- 清水英樹・矢野和男・小林国夫（1964）
関東ローム断面に発見された信州ローム.
第四紀. 5, 57~60.
- 小林国夫（1965）
信州ローム層.
日本の考古学. 1, 88~100.
- 飯島南海夫（1967）
東北信州におけるローム層の問題点.
第四紀. 11, 39~49.
- 小林国夫（1967）
信州ロームと第四紀編年の現状.
第四紀. 11, 3~14.
- 小林国夫・清水英樹・北沢和男（1969）
信州ロームと第四紀後期編年.
日本の第四系.（第四紀総合研究論文集）224~233.
- 小林国夫（1958）
松本一諏訪付近の信州ローム層.
信州ローム. 4, 10~14.
- 北沢和男（1967）
諏訪・八ヶ岳周辺の信州ローム層.
第四紀. 11, 20~26.
- 矢野和男（1962）
八ヶ岳東部・南部のローム層（その1）.
諏訪教育. 24, 59~69.
- 矢野和男（1963）
八ヶ岳東部・南部のローム層（その2）.
諏訪教育. 26, 30~39.
- 矢野和男（1964）
八ヶ岳周辺のローム層.
信州文理科教報. 5, 1~19.
- 北沢和男（1965）
八ヶ岳周辺の信州ローム層.
諏訪教育. 29, 43~51.
- 北沢和男・河内晋平（1967）
八ヶ岳北西山麓のローム層.
地質学雑誌. 73, (4), 199~206.
- 児玉司農武（1960）
諏訪渋川遺跡のローム層中木炭末について.
信州ローム. 6, 18~19.
- 集水域の温泉地質（第四紀） 556.51 : 551.79 : 553.7
- 小林国夫（1960）
上諏訪温泉の地質.
上諏訪温泉報. 1~8
- 小林国夫（1960）
信州の温泉とその地質—特に諏訪付近の温泉.
温泉科学. 11, (1), 12~15.
- 長野県衛生部（1964）
上諏訪温泉地質調査報告書（第3号）（上諏訪）.
長野県衛生部. 1~28.
- 村井勇（1967）
長野県の地質.
温泉科学. 18, (2), 40~46.
- 飯島南海夫（1970）
長野県の温泉地質学的概要.
長野県企画部. 1~24.
- 三沢勝衛（1924）
上諏訪温泉の泉脈について.
地球. 2, 190~194.
- 小林国夫・稲垣益次・安斉 徹（1964）
長野県地質調査報告書（第2号）（上諏訪）.
長野県衛生部. 1~57.
- 中村久由・大和栄次郎（1952）
長野県下諏訪温泉地質調査.
地質月報. 3, 297~304.
- 小林儀一郎（1936）
上諏訪温泉湧出に対する地理学的影响.
温泉. 7, 7~.
- 集水域の化石（第四紀） 556.51 : 551.79 : 56
- 亀井節夫（1970）
八ヶ岳山麓の象化石
地団研（第24回総会資料等）. 76~77.
- 市川 渡（1954）
諏訪湖堆積物中の化石珪藻について.
石油技報. 19, (5), 168~175.
- 佐藤伝蔵（1924）
信州諏訪郡糸萱の埋木及自然木炭.
地質学雑誌. 31, 365~366.
- 芳沢喜久（1920）
八ヶ岳山麓の天然木炭（雑報）.
地質学雑誌. 27, 859.
- 鈴木敬治（1967）
信州南部地域の洪積統産植物化石群.
第四紀. 11, 50~52.
- 集水域の遺跡（第四紀） 556.51 : 551.79 : 571.1.9

- 鳥井竜蔵 (1924)
諏訪史. 第1部. 先始時代
諏訪教育会. 1~395.
- 鳥井竜蔵 (1924)
諏訪史. 第2部. 原始時代.
諏訪教育会. 1~210.
- 小松 虔 (1967)
八ガ岳周辺の遺跡.
第四紀. 11, 75~76.
- 松崎 一 (1968)
尖石一八ガ岳山麓に眠る縄文文化の謎をとく.
学生社. 208~.
- 宮坂英式・宮坂虎次 (1966)
蓼科
尖石考古館. 235~.
- 宮坂英式 (1964)
尖石遺跡.
諏訪教育会. 1~65.
- 金井典美・岩田英経 (1968)
長野県霧ガ峰高原の旧石器文化の環境と C¹⁴ 年代.
考古学ジャーナル. 23, 16~20.
- 岩塚守公・守屋以智雄 (1965)
霧ガ峰高原の無土器文化遺跡とそれに関連した古気
候地形学の問題.
地学雑誌. 75. 5.
- 児玉司農武 (1960)
諏訪渋川遺跡のローム層中木炭末について.
信州ローム. 6. 18~19.
- 集水域の第四紀の生物 556.51 : 551.79 : 577.472
- 那須孝悌 (1972)
第四紀の日本列島生物相.
生物科学. 24, 1~10.
- 鈴木敬治 (1970)
八ガ岳および周辺地域に孤立分布する針葉樹種.
第24回地団研総会討論資料集. 74~76.
- 集水域の土壌 556.51 : 551.79 : 631.4
- 岩佐 安 (1962)
諏訪湖岸平野の土壌について.
ペドロジスト. 17~22.
- 菅野一郎 (1962)
長野県霧ガ峰の土壌型
ペドロジスト. 58~65.
- 出口啓造 (1962)
諏訪湖周辺水田土壌の概観.
ペドロジスト. 23~40.
- 集水域の洪積世, 氷期, 堆積物 556.51 : 551.791/.795
- 八木貞助 (1928)
信州における洪積層の分布とその時代について.
地理. 35, 371~372.
- 小林国夫 (1953)
フォッサマグナ西部における洪積世侵食面群.
地理学評論. 26, 291~307.
- Ogawa. Takuji (1933)
On a type of glacial topography in the northern
foot-hills of Tateshina-yama.
Shinano Province.
Proc. Imp. Acad. 9, (5)211~214.
- Kobayashi, Kunic (1963)
Pre-Wurmian valley filling around the Japanese
Alps.(1961:Warsaw).
The 6th INQUA 3, 155~162.
- 郷原保真・酒井潤一・大野勝次・熊井久雄・谷岡建
則・吉越正勝・飯田祥子 (1970)
八ガ岳西麓の第四系. 一信州におけるウルム氷期(1).
第四紀研究. 9, (2), 83~.
- 田淵 洋 (1973)
周氷河地形による卓越風向の推定方法について一霧
ガ峰を例として.
法大気候学研究. 13, 51~57.
- 小泉秀雄 (1921)
日本南アルプス遺存寒地帯一植物地理学上によりみ
た日本氷河問題の解案.
史蹟名勝天然記念物調査報告第6集.
- 小林国夫・百瀬寛一・山田哲雄 (1959)
岩石磁気による諏訪湖周辺の鮮新世火山岩類の研
究.
地質学雑誌. 65, 453~.
- Kobayashi.Kunio (1965)
Problems of Late Pleistocene History of Central
Japan (1965 : Boulder, Colorado).
The 7th INQUA.367~391.
- 中島盛男 (1938)
立科山亀甲池の亀甲形の礫堆に就て.
地学雑誌. 358, 91~94.

集水域の岩石学 556.51 : 552

佐藤伝蔵 (1924)

信州諏訪の鳴鉢石.

地質学雑誌. 31, 263.

佐藤伝蔵 (1924)

下諏訪の六万石.

地質学雑誌. 31, 319.

益富寿之助 (1955)

原色岩石図鑑. 1 ~ 238. 保育社.

佐藤伝蔵 (1929)

諏訪の杏仁状空隙中の角閃石.

地質学雑誌. 36, 673.

集水域の鉱床学 556.51 : 553

国立公園協会 (1954)

日本鉱床誌.

八木貞助 (1923)

信濃鉱物誌. 古今書院.

鹿間時夫 (1951)

南信の鉱物.

長野県の地学. 1, 100~121.

武藤雄六 (1953)

諏訪の鉱物.

長野県の地学. 2, 119~128.

五味 篤 (1973)

諏訪地方の鉱産物.

清陵高校校友会誌. 96~112.

河野義礼 (1950)

本邦産玻璃質岩石の研究.

地調報告. 134, 29.

神津淑祐・竹内常産・大森啓一・加藤磐雄 (1940)

和田峠産柘榴石の研究 (I)

岩鉱. 24, (5), 201~228.

神津淑祐・河野義礼・八木健三 (1941)

和田峠産柘榴石の研究 (II)

岩鉱. 25, (1), 1~12.

八木貞助 (1946)

信濃の地下資源 信濃毎日新聞社.

佐藤伝蔵 (1925)

諏訪の鉄鉱.

地質学雑誌. 32, 258~263.

北原順一 (1949)

長野県諏訪鉄山鉱床の地球化学的研究.

岩鉱. 33, (1), 18~26.

菊地 徹 (1948)

長野県諏訪鉄山の含水磷酸鉄鉱床調査報告.

地調速報. 60, 1~12.

Morita. Y. (1955)

Distribution of copper and zinc in various phases of the earth materials.

J. Earth Sci. Nagoya Univ. 3, (1), 33~57.

集水域の天然ガス 556.51 : 553.981

不 明 (1917)

諏訪湖附近における天然瓦斯の利用.

地質学雑誌. 24, 849~ .

本島公司・他 (1955)

長野県岡谷市天然ガス試掘井調査報告.

Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daigaku C. 6, 425~432.

(東京文理科大学研究報告)

本島公司 (1958)

諏訪ガス田.

日本鉱産誌. 355~361.

本島公司 (1958)

長野県諏訪湖付近の天然ガス.

長野県の地学. 3, 153~167.

集水域の陸上生物 556.51 : 577.476

集水域の高層湿原と植物 556.51 : 551.312. 2 + 58

久保田柿村舎 (1906)

女子霧ヶ峰登山記.

山岳. 1, (1), 79~ .

河野齡蔵 (1934)

霧ヶ峰高層湿原.

史蹟名勝天然記念物調査報告(長野県). 15, 121~ .

中野治房 (1937)

霧ヶ峰湿原調査報告. 天然記念物調査報告.

植物の部 (文部省). 17, 63~ .

五味新平 (1953)

霧ヶ峰高層湿原について.

信濃教育. 804, 43~ .

小林茂樹 (1963)

下諏訪町の地誌「下諏訪町誌」, 上巻. 41~217. 甲陽書房.

信濃生物会 (1967)

霧ヶ峰.

信濃の自然シリーズ. 3. 信濃生物会.

- 牛山正雄 (1968)
霧ヶ峰の高層湿原.
日本の文化地理 静岡・山梨・長野. 1~315. 講談社.
- 林 一六 (1970)
霧ヶ峰湿原の保護について.
長野県自然保護の会ニュース. 2.
- 桜井善雄 (1973)
霧ヶ峰の高層湿原および池沼の保護の方策について.
霧ヶ峰の陸水. 39~44.
- 堀 正一 (1938)
信州八島ヶ原高層湿原の花粉分布の研究.
日本生物地理学会会報. 8, (9), 133~ .
- 堀 正一 (1940)
信州踊場湿原の花粉分析の研究.
植物及動物. 8, (5), 844~ .
- 堀 正一 (1973)
尾瀬の湿原をさぐる—そのおいたちと植物. 1~213. 築地書館.
- 桜井善雄
霧ヶ峰の高層湿原及陸水に関する文献目録.
霧ヶ峰の陸水. 93~96. 長野県.
- 清陵高等学校生物部 (1950)
霧ヶ峰八島ヶ原における動植物生態の研究.
児童生徒理科研究集録-(諏訪教育会), 1.
- 中野治房 (1919)
浮島の生態学的研究.
植物学雑誌. 33, (389), 87~ .
- 中野治房 (1919)
浮島の生態学的研究.
植物学雑誌. 33, (390), 119~ .
- 中野治房 (1919)
浮島の生態学的研究.
植物学雑誌. 33, (391), 147~ .
- 中野治房 (1911)
八島湿原の植物生態.
史蹟名勝天然記念物. 3, (9).
- 中野治房 (1939)
霧ヶ峰草原と高層湿原とに就て.
史蹟名勝天然記念物. 14, (6), 356~ .
- 中野治房 (1944)
草原の研究.
高層湿原群落. 57~66, 岩波書店.
- 宝月欣二・市村俊英・堀 正一・大島康行・笠永博美・小野 和・高田和男 (1954)
尾瀬ヶ原湿原の植物生態学的研究. 尾瀬ヶ原.
(尾瀬ヶ原総合学術調査団研究報告). 313~400.
日本学術振興会.
- 岩城英夫 (1971)
草原の生態. 1~172. 共立出版.
- 本田正次・飛田 広 (1941)
霧ヶ峰の植物. 1~296. 厚生閣
- 矢野悟道・布施みち子・鬼頭英子 (1971)
霧ヶ峰の植物. 第一部. 霧ヶ峰の植生. 1~59. 第二部. 霧ヶ峰の植物目録. 1~81. 諏訪市教育委員会.
- 飛田 広 (1934)
霧ヶ峰植物分類目録並に分布表に就き.
史蹟名勝天然記念物調査報告(長野県). 15, 121~ .
- 飛田 広 (1939)
霧ヶ峰植物分類目録並に分布表について.
長野県諏訪中学校校友会誌. 1939年.
- 松田行雄 (1961)
ミズゴケ属の植生.
信州大学教育学部松本分校科学教育研究報告. 13.
- 松田行雄 (1962)
長野県における Sphagnum の分布と湿原の植生.
長野県学校科学教育奨励基金レポート. 2.
- 鈴木兵二・松田行雄 (1962)
諏訪地方のミズゴケ相と湿原の比較. 植物地理. 20.
- 松田行雄 (1973)
長野県産ミズゴケ類 (Saginales) の分布並びに分類.
長野県植物研究誌会誌. 6, 53~ .
- 集水域の陸上植物 556.51:58
- 諏訪の自然誌編集委員会 (1981)
諏訪の自然誌, 植物編. 1~692. 諏訪教育会
- 諏訪教育委員会 (1980)
諏訪市の文化財. 1~224. 諏訪市教育委員会.
- 諏訪史談会 (1978)
諏訪史蹟要項. 全24巻 (1950~1978).
- 千野光茂 (1924)
長野県史蹟名勝天然記念物調査報告書. 第2集, 長野県.
- 小林寛義・市川健夫 (1976)
ふるさと地理誌. 風切. 1~140. 信濃毎日新聞社.
- 小林茂樹 (1977)
諏訪の風土と生活. 1~358. オノウエ印刷, 下諏訪町.

市川健夫 (1966)

高冷地の地理学. 風切, 1~145. 冷文社, 東京.
長野県史刊行会 (1975)

長野県史近世史料編, 第3巻. 諏訪地方, 長野県.

集水域の植物生態 556.51:581.5

渡辺弘之 (1979)

登山者のための生態学, 1~226. 山と溪谷社.

中野治房 (1933)

植物生理及生態学実験法, 1~208. 裳華房.

飛田 広 (1934)

官幣大社諏訪神社, 上社社叢.

信濃教育. 571. 36~62.

吉野みどり (1973)

亜高山帯における造林と局地気候.

法大気象研究. 13. 46~50.

只木良也 (1980)

諏訪湖集水域における葉量推定と葉量分布図.

諏訪湖集水域生態系研究. 5. 1~18.

佐治秀太郎 (1930)

八ヶ岳の天然生林に於ける観察.

御料林. 26. 10~22.

栗田 勲 (1963)

南アルプス山系の森林植物生態学的研究.

長野林友. 7月号

佐々木好之編 (1973)

植物社会学. 生態学講座. 第8巻, 1~143. 共立出版.

沼田 眞 (1972)

植物たちの生, 1~234. 岩波書店.

沼田 眞 (1977)

四季の森林. 地人書館.

沼田 眞 (1977)

植物生態学講座. 4. 朝倉書店.

集水域の縞枯現象 556.51:581. 526.42:581.149.

砂原英治・大久保寛一 (1932)

縞枯山について.

御料林. 55. 67~89.

五味新平・勝野安信・今井建樹 (1954)

八ヶ岳連峰における縞枯現象調査記.

採集と飼育. 18. 66~72.

大島康行・他 (1958)

縞枯山の植生についての生態学ならびに生理学的研

究 I. 縞枯山の植生の予備調査.

植物学雑誌. 71. 289~301.

岩城英夫・戸塚 績 (1959)

縞枯山の植生についての生態学ならびに生理学的研究 II. 八ヶ岳・秩父の半月形縞枯について.

植物学雑誌. 72. 255~260.

黒岩澄雄・他 (1959)

縞枯山の植生についての生態学ならびに生理学的研究 III.

植物学雑誌. 72. 413~420.

黒岩澄雄・他 (1960)

縞枯山の植生についての生態学ならびに生理学的研究 IV.

植物学雑誌. 73. 133~141.

黒岩澄雄・他 (1960)

縞枯山の植生についての生態学ならびに生理学的研究 V.

植物学雑誌. 73. 165~174.

木村 允・他 (1968)

縞枯山の植生についての生態学ならびに生理学的研究 VI.

植物学雑誌. 81. 287~296.

木村 允・他 (1969)

縞枯山の植生についての生態学ならびに生理学的研究 VII.

植物学雑誌. 82. 6~19.

島津 昭 (1959)

八ヶ岳亜高山樹林の縞枯の成因. 1. その分布と卓越風との関係.

お茶の水女子大学自然科学報告. 10. 69~63.

高橋基生 (1962)

縞枯現象の誘因を解明すべき実験生態学的モデル実験.

日本植物学会第27回研究発表記録. 126.

中原孫吉・岡田悠一 (1967)

北八ヶ岳地域の局地風特にしまがれ現象の考察.

千葉大学園芸学部学術報告. 15.

上田茂春 (1970)

北八ヶ岳の地形と縞枯れについて.

法大気候研究. 5. 42~44.

吉野みどり (1970)

日本の亜高山帯林におけるしまがれ現象の分布と成因について.

法政大学気候学研究. 5. 33~41.

甲斐啓子 (1971)

亜高山帯林の縞枯現象について.

- 法政大学文学部地理学科, 卒業論文.
 甲斐啓子 (1971)
 関東地方, 中部地方における亜高山帯林のしまがれ現象に関する若干の考察.
 地理学評論. 47, 709~716.
- 内藤峰夫 (1971)
 日本の亜高山帯林における縞枯現象の考察.
 法政大学昭和45年度卒業論文, 174.
- 沢井忠雄 (1973)
 縞枯成因に関する研究史.
 長野林支. 4月号.
- 吉野みどり (1974)
 日本の亜高山帯林におけるしまがれ現象の分布.
 今西錦司博士古稀記念論文集. 中央公論社.
- 集水域の草原, 森林の生態 556.51:581.526.42:581.149
- 甲斐啓子 (1977)
 偏形樹から推定した卓越風向による本州山地の地域区分.
 地理学評論. 50, 45~53.
- 長野県林務部 (1978)
 民有地適木調査. 第16報: 諏訪地区.
- 三沢勝衛 (1930)
 ハケ岳火山麓の防風林について.
 信濃山林会報. 46,
- 諏訪教育会 (1956)
 防風林.
 諏訪史. 4巻. 378~. 諏訪教育会. 諏訪.
- 吉野正敏 (1960)
 亜高山帯付近における風の気候景観とそれによる小気候調査.
 東京教育大学地理学研究報告. 4, 87~106.
- 浅田節夫・赤井龍男 (1963)
 亜高山帯の森林の取扱いについて一特にシラベの林分生産力と天然更新一.
 長野林友. 7月号.
- 柴田 治 (1980)
 ハケ岳亜高山帯草原の現存量.
 諏訪湖集水域生態系研究. 5, 17~20.
- 集水域の植生, 分布 556.51:581.9
- 宮脇 昭 編 (1977)
 日本の植生. 学習研究社.
- 信州植生研グループ (1968)
 長野県的主要自然植生.
 日本生態学会第15回大会講演集.
- 信州植生研グループ (1971)
 長野県の植生. 長野県.
- 横内 斎 (1971)
 長野県の植物. 信教出版.
- 信州植生研グループ (1972)
 長野県一郷土のみどりのようす. 長野県.
- 信州植生研グループ (1966)
 長野県における植生の研究.
 日本生態学会第13回大会講演集.
- 横内 斎 (1976)
 長野県植物分布の由来. 信教出版部.
- 三沢勝衛 (1929)
 ハケ岳火山麓の景観.
- 宮脇 昭 編 (1967)
 日本の植生.
 原色現代科学大事典. 3. 植物. 学研.
- 沼田 眞・岩瀬 徹 (1975)
 図説日本の植生. 朝倉書店.
- 倉田 悟・浜谷稔夫 (1976)
 日本産樹木分布図集.
- 長野県植生図作製調査団 (1973)
 長野県の植生図. 第1集. 長野県.
- 長野県植生図作製調査団 (1974)
 長野県の植生図. 第2集. 長野県.
- 長野県植生図作製調査団 (1975)
 長野県の植生図. 第3集. 長野県.
- 長野県植生図作製調査団 (1976)
 長野県の植生図. 第4集. 長野県.
- 長野県植生図作製調査団 (1979)
 長野県の現存植生. 長野県.
- 宮脇 昭 (1977)
 長野県の潜在自然植生図. 第1集. 長野県.
- 清水建美 (1971)
 石灰岩と植物.
 山と博物館. 16, (3), 2~4.
- 集水域の植物分類 556.51:582
- 大井次三郎 (1965)
 日本植物誌. 1~1664. 至文堂.
- 堀田 満 (1974)
 日本列島の植物. 保育社.
- 奥山春季 (1974)

- 日本植物ハンドブック, 八坂書房.
 矢沢米三郎・他 (1907)
 ハケ岳の植物.
 信濃博物学会誌. 26,
 横内 斎 (1955)
 ハケ岳火山帯の植物, 蓼科山の植物.
 局報24号, 長野林友. 11,
 上条行雄 (1961)
 釜無山の植物.
 長野林友. 12. 長野営林局.
 矢野悟道・他3名 (1971)
 霧ヶ峰の植物, 諏訪市教育委員会.
 山崎林治・他4名 (1967)
 霧ヶ峰, 信濃生物会.
 富士見町教育委員会 (1979)
 富士見町の植物, 富士見町.
 杉本順一 (1966)
 長野県の植物総目録全.
 長野林友.
 笠原安夫 (1975)
 日本雑草図説, 養賢堂.
 奥原弘人・田中豊雄 (1978)
 長野県野草図鑑 (上). 1~300. 信農毎日新聞社.
 奥原弘人・田中豊雄 (1978)
 長野県野草図鑑 (下). 1~300. 信濃毎日新聞社.
 佐野 泰・田中豊雄 (1980)
 長野県園芸植物図鑑 (草花編). 1~300. 信濃毎日新聞社.
 亀山 章・田中豊雄 (1980)
 長野県園芸植物図鑑 (庭木編). 1~300. 信濃毎日新聞社.
 林 弥栄 (1969)
 有用樹木図説, 誠文堂新光社.
 矢頭献一・岩田和治 (1966)
 図説樹木学落葉広葉樹篇, 朝倉書店.
 奥原弘人・田中豊雄 (1979)
 長野県樹木図鑑. 1~300. 信濃毎日新聞社.
 山と溪谷社 (1967)
 カラー山の花. I, 1~200.
 山と溪谷社 (1967)
 カラー山の花. II, 1~199.
 辺見金三郎 (1977)
 食べられる野草, 保育社.
 長沢 武・河原 勲・田中豊雄 (1979)
 長野県山菜・きのこ図鑑. 1~300. 信濃毎日新聞社.
 難波恒雄・久保道徳 (1972)
 薬になる植物, 保育社.
 信濃生薬研究会 (1979)
 信州の薬草. 1~256. 信濃毎日新聞社.
 武田久吉 (1961)
 日本高山植物図鑑. 1~262. 北隆館.
 清水建美 (1973)
 山の植物. I. 1~151. 保育社.
 清水建美 (1973)
 山の植物. II. 1~151. 保育社.
 今関六也・本郷次雄 (1968)
 原色日本菌類図鑑. 1~270. 保育社.
 清水大典 (1971)
 きのこ全科, 家の光協会.
 矢頭献一 (1964)
 図説樹木学針葉樹編, 朝倉書店.
 横内 斎・横内文人・飯沼冬彦 (1966)
 ヤツガタケトウヒの研究.
 長野林友. 20~30.
 鈴木貞雄 (1978)
 日本タケ科植物総目録, 学習研究社.
 前川文夫 (1971)
 原色日本のラン, 誠文堂新光社.
 浜 栄助 (1975)
 原色日本のスマイル, 誠文堂新光社.
- 集水域の陸上動物 556.51:59**
- 諏訪の自然誌編集委員会 (1978)
 諏訪の自然誌・動物編. 1~602. 諏訪教育会.
 北沢右三 (1961)
 動物生態学. II. 生態系の機能—その動的把握. 329~372. 朝倉書店.
 宮下和喜 (1977)
 帰化動物の生態学. 162~165. 講談社.
 斎藤 晋・寺田美奈子・藤山静雄 (1980)
 諏訪湖集水域のミズナラ林, カラマツ林およびオオシラビソ—シラビソ林における大型土壌動物の密度と現存量, 群集構成.
 諏訪湖集水域生態系研究. 5, 21~37.
 斎藤 晋・寺田美奈子・藤山静雄 (1980)
 森林における大型土壌動物の密度と現存量.
 諏訪湖集水域生態系研究. (資料2). 4, 116~155.
- 集水域の動物の分類と生態 556.51:592+591.5**
- 諏訪の自然誌, 動物編編集委員会 (1978)

諏訪地方動物目録.

諏訪の自然誌・動物編. 579~594. 諏訪教育会.

諏訪教育会動物委員会 (1970)

諏訪地方における無脊椎動物相について. 第1報.
7, 104~144.

澁のエゴ調査委員会 (1973)

澁のエゴ調査報告書. 87~129. 諏訪教育会.

諏訪教育会動物委員会 (1966)

諏訪地方における動物の生態および生物地理学的研究. 第1報. 霧ヶ峰における無脊椎動物相について.
諏訪教育会研究紀要, 6, 93~111.

集水域の貝類 556.51 : 594

波部忠重・小菅貞男 (1967)

貝. 保育社.

黒田徳米 (1963)

日本非海産貝類目録. 日本貝類学会.

吉良哲男 (1959)

原色日本貝類図鑑. 1~330. 保育社.

波部忠重 (1961)

原色日本貝類図鑑. 1~312. 保育社.

波部忠重 (1975)

学研中高生図鑑, 貝 II. 学習研究社.

丸山 彬 (1975)

長野県陸貝採集報告.

ちりぼたん. 8, (6), 130~131.

丸山 英 (1964)

長野県陸産貝類.

吉良竜夫 (1949)

日本におけるキセルガイの分布型.

夢蛤. 45.

ちりぼたん (1973)

雑録, キセルガイ各部の名称.

ちりぼたん. 7, (6).

前田和俊 (1972)

キセルガイ科資料(1).

やまきさご. 8~13.

集水域の扁形動物 556.51 : 595.12

赤羽啓栄・原田行雄・大島智夫 (1971)

肝蛭症の予防に関する研究.

寄生虫学雑誌. 20, (1), 72~80.

集水域のクモ類と生態 556.51 : 595.4 + 591.5

金子光司 (1918)

信州の蜘蛛類.

信濃教育. 384.

小松敏宏 (1936)

長野県産蜘蛛類の研究.

信濃教育. 596, 7~17.

新海栄一 (1967)

八ヶ岳の真正蜘蛛類.

ATYPUS. 44, 25~28. 東亜蜘蛛学会.

野戸 章 (1966)

八ヶ岳のクモ

ATYPUS. 41~42, 69~74. 東亜蜘蛛学会.

八木沼健夫 (1968)

原色日本蜘蛛類大図鑑 (増補改訂版). 1~280. 保育社.

新海栄一 (1976)

造網性クモ類の系統について.

ATYPUS. 66. 東亜蜘蛛学会.

大井良次 (1960)

Linyphiid Spiders of Japan.

大阪市立大学紀要. 11.

Komatsu, Tukasa (1961)

Cape spiders of Japan, their taxonomy, chrology and ecology.

Arachnological Society of East Asia.

千国安之輔・八木沼健夫 (1976)

オスクロハエトリとヤハズハエトリ.

ATYPUS. 67, 33~34. 東亜蜘蛛学会.

集水域の昆虫類と生態 556.51 : 595.7 + 591.5

小池 充 (1972)

皮膚炎の原因となる昆虫.

朝比奈正二郎・他 (1967)

原色昆虫大図鑑. I, II, III. 北隆館.

信州昆虫学会 (1980)

長野県昆虫図鑑 (上). 1~300. 信濃毎日新聞社.

信州昆虫学会 (1980)

長野県昆虫図鑑 (下). 1~300. 信濃毎日新聞社.

小林正明 (1966)

信州にすむ直翅目の生態学的研究(2).

長野県学校科学奨励金レポート. 6, 265~266.

小林正明 (1965)

諏訪地方直翅目とその食物についての研究.

長野県学校科学奨励金レポート. 5, 305~307.

- 小林正明 (1967)
八ヶ岳高山性直翅目.
長野県学校科学奨励金レポート. 7, 230~232.
- 小林正明 (1969)
ヤブキリ鳴音の変異について.
長野県学校科学奨励金レポート. 9, 205~206.
- 小林正明 (1970)
ヤブキリ鳴音変異.
ニューインセクト. 14, (3), 1~10.
- 小林正明 (1975)
長野県の秋に鳴く虫.
ニューインセクト. 19, (3), 21~30.
- 小林正明 (1964)
直翅目についての信州の方言.
ニューインセクト. 8, (20), 1~8.
- 信州昆虫学会 (1977)
長野県のトンボ. 信濃教育出版部.
- 両角徹郎 (1962)
北八ヶ岳におけるトンボ類の分布について.
諏訪教育会研究紀要. 6, 115~117.
- 曾根原今人 (1966)
白樺湖の蜻蛉類記録.
TOMBO. 10, (1~4), 10.
- 曾根原今人 (1967)
トラフトンボ属蜻蛉の生活史一特に八ヶ岳山系におけるオオトラフトンボについて一.
TOMBO. 10, 2~13.
- 石田昇三 (1969)
原色日本昆虫生態図鑑 (II トンボ編). 1~342. 保育社.
- 倉田 稔 (1971)
セミの生活を調べる.
長野県生物研究談話会. 6~10.
- 今福伸一・他 (1903)
長野県の鞘翅目 (甲虫). (1)~(5).
信州教育. 921~925.
- 鈴木邦雄 (1965)
霧ヶ峰のハムシ.
New Entomology. 14, (6), 1~6.
- 千野光茂 (1918)
テントウムシの変異に関する研究.
信濃教育. 384.
- 内川公人 (1967)
八ヶ岳におけるノミの生態学的研究. I. 亜高山帯森林帯の小哺乳類に見出されたノミについて.
日本生態学会誌. 17, (2), 43~49.
- 小池 充 (1976)
諏訪地方の蛾類.
諏訪教育会研究紀要. 11, 22~34.
- 依田俊幸 (1973)
麦草峠の蛾.
諏訪教育会研究紀要. 9, 95~97.
- 伊藤正陽・他 8 名 (1969)
蛾の研究.
諏訪清陵高校生物研究. 11, 11~23.
- 諏訪清陵高校生物クラブ (1966)
諏訪郡における蛾の分布.
生物研究. 21~73.
- 小池 充 (1962)
ドクガの研究.
採集と飼育. 7, 42~43.
- 小池 充 (1962)
ドクガの研究.
採集と飼育. 8, 32~33.
- 小池 充 (1963)
モンシロドクガの研究.
採集と飼育. 9, 32~37.
- 小池 充 (1967)
テングイラガに寄生するコマユバチに関する研究.
I. 形態および生態.
New Entomology. 16, 2~6.
- 集水域の蝶類と生態 556.51:595.789+591.5
- 新村太朗 (1940)
信濃の蝶
信濃教育. 649, 33~63.
- 諏訪蝶友会・松本むしの会 (1971)
長野県中部産蝶類の既知異常型目録 (第2報).
New Entomology. 20, 4~6.
- 金井汲治 (1892)
諏訪郡の蝶類及其の明治84年に於ける発生季節解説.
動物学雑誌. 4.
- 北沢右三・北沢冬来 (1935)
長野県諏訪郡における蝶類の研究.
諏訪中学校学友会誌. 2~4.
- 本田吉男・平出久夫・牧内 博 (1975)
諏訪における蝶相.
自然研究紀要. 11. 諏訪教育会.
- 本田吉男 (1973)
諏訪地方平坦地区 (四賀, 赤沼~飯島) の蝶相.

- 自然研究紀要. 10, 諏訪教育会.
 諏訪教育会動物委員会 (1973)
 I. 諏訪地方に於ける無脊椎動物相について. II.
 諏訪地方平坦地区の蝶相. III. 諏訪における生態.
 諏訪教育会研究紀要. 10, 45~52.
- 浜 栄一 (1950)
 諏訪郡内蝶類目録.
 信濃蝶類同好会会誌. 2, (2).
- 宮坂竜二 (1965)
 岡谷市付近の蝶.
 長野県学生科学賞作品展覧会報告. III.
- 細野 淳 (1933)
 下諏訪の蝶類.
 信濃教育. 6, 1~7.
- 三輪充武 (1962)
 蓼科高原の蝶類.
 諏訪. 3, 甲陽書房.
- 田中一男 (1971)
 富士見高原の蝶.
 自然研究紀要. 8, 63~70. 諏訪教育会.
- 浜 栄一 (1949)
 最近の諏訪郡内蝶類分布を見る.
 諏訪蝶類同好会誌. 1, (1), 1~6.
- 茅野 実 (1949)
 横河川上流の蝶類分布図.
 諏訪蝶類同好会会誌. 1, (2), 68~69.
- 本田吉雄 (1975)
 諏訪における蝶の生態.
 自然研究紀要. 8~11 (1971~1975) 諏訪教育会.
- 浜 栄一 (1958)
 常風向と蝶の移動は関係があるか.
 HASH 蝶類同好会誌. 2, (1), 4~13.
- 浜 栄一 (1966)
 南方系蝶類の越冬状態の調査に関連して, くもまつまき.
 信州昆虫学. 11, 1~5.
- 三石暉弥 (1976)
 ミヤマシロチョウの各生活期別生存率について.
 昆虫と自然. 11, (4), 16~18.
- 青沼宏深・他 9 名 (1973)
 ハケ岳に於けるミヤマシロチョウの生態.
 諏訪清陵高校生物研究. 15, 27~29.
- 信州昆虫学会 (1971)
 信濃の蝶. I. セセリチョウ科.
 信州昆虫学会.
 信州昆虫学会 (1973)
- 信濃の蝶. II. アゲハチョウ科, シロチョウ科.
 信州昆虫学会.
 信州昆虫学会 (1976)
 信濃の蝶. III. シジミチョウ科, ウラギンシジミ科.
 信州昆虫学会.
- 藤沢正平・木下睦美・北村文治・倉田 稔・水上英男 (1964)
 ギフチョウとヒメギフチョウ. 1~95. 信濃教育出版部.
- 小池 充 (1955)
 ヒメギフチョウの観察.
 採集と飼育. 11, 10~12.
- 小池 充 (1955)
 入笠山コヒオドシの観察.
 採集と飼育. 11, 337~338.
- 吉田充久・他 7 名 (1971)
 蝶に寄生する昆虫.
 諏訪清陵高校生物研究. 13, 39~42.
- 青沼宏深・片倉正文・中島 茂 (1972)
 蝶に寄生する昆虫.
 諏訪清陵高校生物研究. 14, 40~42.
- 集水域の両生類 556.51:597.8
- 岡田弥一郎 (1950)
 日本の動物. 両生類, 爬虫類. 日本出版社.
- 市川 衛 (1971)
 蛙学. 1~250, 装華房.
- 種村ひろし (1967)
 日本の蛙. 誠文堂新光社.
- 松井孝爾 (1976)
 カエルの世界. 平凡社.
- 諏訪教育会 (1973)
 渋のエゴ調査報告書. 107~109.
- 諏訪教育会 (1974)
 諏訪地方の両生類.
 自然研究紀要. 10, 54~57.
- 中村健児・上野俊一 (1963)
 原色日本両生爬虫図鑑. 1~268, 保育社.
- 種村ひろし (1974)
 カエルのたんじょう. あかね書房.
- 種村ひろし (1972)
 モリアオガエルの谷. 学習研究社.
- 宮下忠義 (1940)
 野底山を中心とするモリアオガエルの研究.
 信濃教育. 644.

- 宮尾嶽雄 (1956)
ハコネサンショウウオの Allometric Growth.
医学と生物学, 204~205.
- 集水域の鳥類分類 556.51 : 598.2
- 清棲幸保 (1970)
日本の野鳥(2). 山と溪谷社.
- 小平万栄 (1970)
しなの野鳥記, 72~73, 信濃路
- 諏訪教育会動物委員会 (1967)
諏訪地方における鳥類相について.
自然研究紀要, 4, 91~96.
- 諏訪教育会動物委員会 (1973)
村落地帯の鳥相について.
自然研究紀要, 10, 70~76.
- 諏訪教育会動物委員会 (1970)
上社における鳥相について.
自然研究紀要, 7, 145~146.
- 諏訪教育会動物委員会 (1970)
霧ヶ峰の鳥.
自然研究紀要, 8, 237~248.
- 小林桂助 (1956)
原色日本鳥類図鑑, 1~324, 保育社.
- 黒田長礼・内田清之助・中村健児・川村智治郎(1957)
原色動物大図鑑, 北隆館.
- 高野伸二監修 (1975)
学研中高生図鑑鳥類, 学習研究社.
- 信州鳥類生態研究グループ (1978)
長野県野鳥図鑑, 1~300.
信濃毎日新聞社.
- 日本鳥学会 (1974)
日本鳥類目録改訂第5版, 1~120.
- 中村登流 (1969)
北八ヶ岳森林の鳥
八ヶ岳団研究連絡紙, 1, 11~15.
- 諏訪教育会動物委員会 (1975)
諏訪地方における各種林相別の鳥類相について.
自然研究紀要, 11, 141~149.
- 諏訪教育会動物委員会 (1969)
北八ヶ岳森林帯の鳥相について.
研究紀要, 6, 130~132.
- Nakamura, Toru (1975)
Ecological glade of birds' community from coniferous to deciduous woods. II.
Bull. Inst. of Nature Educ. Shiga Hights, Shinshu Univ. 14, 29~50.
- 集水域の鳥類生態 556.51 : 598.2+591.5
- 浦本昌紀 (1966)
鳥類の生活, 紀伊国屋書店.
- 黒田長久 (1967)
鳥類の研究—生態—, 新思潮社.
- 鷺沢澄雄 (1975)
野鳥の生活, 築地書館.
- 諏訪教育会動物委員会 (1973)
本郷地区における鳥類群集の研究.
自然研究紀要, 10, 58~69.
- 木元新作 (1976)
動物群集研究法 I. 54~94, 共立出版.
- 信州鳥類生態研究グループ, 代表 羽田健三 (1977)
長野県の野鳥—繁殖期の鳥類群集について,
長野県林務部, 15~30.
- 中村登流 (1963)
繁殖期における山地草原性鳥類の群集構造について.
山階鳥研報, 3, (5), 334~357.
- 木内 清・松沢千年・野田興司・佐藤秀雄・細田文和・丸山 栄・田原 徹 (1970)
亜高山帯針葉樹林に棲息する鳥類の雛の食物. I.
食物リスト.
信大志賀自然教育研究施設研究業績, 9, 45~58.
- 諏訪教育会動物委員会 (1970)
北八ヶ岳における鳥の個体数について.
自然研究紀要, 7, 147~151.
- 集水域の各種鳥類の生態 556.51 : 598.21.8+591.5
- 諏訪教育会動物委員会 (1969)
上社社叢におけるサギ類の生態学的研究(その1).
研究紀要, 6, 118~129.
- 矢沢米三郎 (1929)
雷鳥, 岩波書店.
- 平林国男・三石 紘 (1969)
八ヶ岳のライチョウ生息確認調査ならびに古文書の考察.
信州大学志賀自然教育研究施設研究業績, 8, 32~48.
- 羽田健三・堀内俊子 (1970)
ヒガラの雛の食物および摂食量について.
信州大学志賀自然教育研究施設研究業績, 9, 31

- ～44.
 長野県野鳥研究グループ (1965)
 霧ヶ峰のコヨシキリ, 合宿報告・謄写刷.
 中川孝雄・木内忠一・青木サト子 (1965)
 コヨシキリの生活史に関する研究.
 信大教育学部卒論.
 羽田健三・寺西けさい (1968)
 オオヨシキリの生活史に関する研究・繁殖期.
 日本生態学会誌. 18, (3), 100～109.
 羽田健三・木内 清・佐藤秀男 (1972)
 キクイタダキの雛の食物.
 信州大学志賀自然教育研究施設研究業績. 11, 1
 ～5.
 羽田健三・大原 均 (1973)
 キクイタダキの生活史に関する研究・繁殖生活.
 信州大学志賀自然教育研究施設研究業績. 12, 17
 ～31.
 平林 浩 (1959)
 カラスの集団生活(-).
 信濃教育. 869, 68～74.
 Nakamura, Toru (1968)
Emberiza yessoënsis.
 EMBERIZA, 1, (4), 2～7.
 牛山英彦 (1972)
 ホオジロ属の生態学的研究——特に繁殖期のホオア
 カの行動圏について——.
 諏訪教育. 43, 57～62.
 牛山英彦 (1968)
 繁殖期のホオアカ *Emberiza fucata* の行動圏とテリ
 トリー
 日本生態学会第15回大会講演集.
 諏訪教育会動物委員会 (1970)
 霧ヶ峰山地草原におけるホオアカの1969年の状況に
 ついて.
 自然研究紀要. 8, 249～258.
 中村登流 (1962)
 霧ヶ峰でゴジュリン繁殖.
 野鳥. 27, 200～202.
 佐野昌男 (1974)
 雪国のスズメ. 1～236. 誠文堂新光社.
 諏訪教育会動物委員会 (1970)
 霧ヶ峰のビンズイについて.
 自然研究紀要. 8, 259～262.
 集水域哺乳類の分類 556.51:599
 今泉吉典・黒田長久・岡田弥一郎 (1950)
 日本の動物 脊椎動物篇.
 日本出版社.
 宮尾嶽雄 (1974)
 中部山岳の生物(3).
 遺伝. 28, (12), 70～.
 宮尾嶽雄 編 (1972)
 日本哺乳類雑記. 第1集.
 信州哺乳類研究会.
 宮尾嶽雄 編 (1973)
 日本哺乳類雑記. 第2集.
 信州哺乳類研究会.
 宮尾嶽雄 編 (1974)
 日本哺乳類雑記. 第3集.
 信州哺乳類研究会.
 宮尾嶽雄 編 (1977)
 日本哺乳類雑記. 第4集.
 信州哺乳類研究会.
 増井光子 (1976)
 日本の動物—哺乳類—.
 小学館.
 宮尾嶽雄・柘植達雄 (1974)
 中信高原の開発・破壊の実態ならびに哺乳動物相.
 49～80.
 諏訪教育会動物委員会 (1973)
 諏訪の哺乳類調査報告(1).
 自然研究紀要. 10, 77～94.
 諏訪教育会動物委員会 (1975)
 諏訪の小哺乳類の調査報告(1).
 自然研究紀要. 11.
 阿部余四男 (1955)
 日本哺乳動物相の由来.
 日本生物地理学会報. 16～19, 384～388.
 両角徹郎・両角源美 (1966)
 日本列島における小哺乳類の分布と変異(1).
 信州大学教養部科学教育研究室研究報告. 1.
 両角源美・両角徹郎 (1966)
 日本列島における小哺乳類の分布と変異(2).
 信州大学教養部科学教育研究室研究報告. 1.
 徳田御稔 (1969)
 生物地理学. 118～138. 築地書館.
 信州哺乳類研究会 (1978)
 長野県動物図鑑. 哺乳類, 爬虫類, 両生類. 1～20.
 信濃毎日新聞社.
 今泉吉典 (1949)
 日本哺乳動物図鑑. 1～276, 洋々書房.

今泉吉典 (1960)

原色日本哺乳類図鑑. 保育社.

宮尾嶽雄 (1969)

天然林の変更と小哺乳類ファウナ.

信州哺乳類研究会報. 1, 1~2.

両角源美 (1976)

小哺乳類の食物からみた物質経済(1).

哺乳動物学雑誌. 7, (1), 49. (講要)

四手井綱英・川村俊蔵 編 (1976)

追われる「けもの」たち. 166~193. 築地書館.

集水域の各種哺乳類の生態 556.51 : 599.32/.82 + 591.5

徳田御稔 (1950)

御岳と八ガ岳のネズミ類.

動物学雑誌. 59, 210~213.

両角源美・両角徹郎・他 (1961)

本州八ガ岳のネズミ類—硫黄岳, 天狗岳における垂直分布—.

信州大学教育学部(松本)生物研究会報告. 9.

両角徹郎・両角源美・花村 肇・佐藤信吉・赤羽啓栄・酒井秋男・宮尾嶽雄・他 6名 (1963)

本州八ガ岳のネズミおよび食虫類. 第1報. 亜高山森林帯のネズミおよび食虫類.

動物学雑誌. 72, 132~138.

宮尾嶽雄・他 6名 (1963)

本州八ガ岳ネズミおよび食虫類. 第2報. 亜高山森林帯におけるヒメネズミおよびチネズミの性比・体重組成および繁殖活動.

動物学雑誌. 74, (3), 76~81.

宮尾嶽雄・他 6名 (1964)

本州八ガ岳ネズミおよび食虫類. 第3報. 亜高山森林帯のスミスネズミ.

動物学雑誌. 73, (7), 189~195.

宮尾嶽雄・他 6名 (1965)

本州八ガ岳ネズミおよび食虫類. 第4報. 亜高山森林帯におけるヒメヒメズミおよびトガリネズミの体重組成および繁殖活動.

動物学雑誌. 74, (3), 76~81.

宮尾嶽雄・両角源美・両角徹郎 (1966)

本州八ガ岳のネズミおよび食虫類. 第6報. 低山帯草原におけるハタネズミの捕獲率, 性比, 体重組成および繁殖活動.

動物学雑誌. 75, (4), 98~102.

宮尾嶽雄・両角徹郎・両角源美 (1967)

本州八ガ岳のネズミおよび食虫類. 第7報. 低山帯森林におけるアカネズミの繁殖活動.

動物学雑誌. 76, 161~166.

宮尾嶽雄・他 (1972)

ハタネズミの食物嗜好性に関する小試験.

野ネズミ. 107, 3~16.

宮尾嶽雄・他 (1972)

ハタネズミの食物嗜好性に関する小試験.

野ネズミ. 108, 10~.

宮尾嶽雄 (1969)

本州八ガ岳のネズミおよび食虫類. 第9報. 亜高山森林帯におけるヤチネズミおよびヒメネズミの胎仔数.

信州哺乳類研究会報. 6, 1~15.

宮尾嶽雄・北沢徹郎・両角源美 (1960)

ネズミ類における腸の長さの比率.

動物学雑誌. 65, (5), 172~176.

藤原 仁 (1964)

アカネズミの繁殖習性.

比和科学博物館研究報告. 7, 11~14.

Imaizumi, Yoshinori (1957)

Taxonomic studies on the red-baked vole from Japan. Part I. Major divisions of the vole and descriptions of *Eothenomys* with a new species.

国立科学博物館研究報告. 40, 195~216.

行田哲夫 (1976)

シマリス. 信濃毎日新聞.

宮尾嶽雄・水野武雄 (1971)

長野県におけるノウサギの地方変異.

成長. 10, 104~106.

宮尾嶽雄・他 (1968)

八ガ岳でミズモグラ.

哺乳動物学雑誌. 4, 57~.

水野武雄 (1972)

シナノホオヒゲコウモリの新産地.

哺乳動物学雑誌. 5, (5), 169~.

今泉吉典・小原秀雄 (1970)

世界哺乳類図鑑・皮翼目, 食虫目, 新思潮社.

森下正明・村上興正 (1970)

ニホンカモシカの生態学的研究. 276~321. 白山の自然.

千葉彬司 (1972)

カモシカ日記. 158~168. 毎日新聞社.

竹田津実 (1975)

狐. 5~68. 平凡社季刊アニマ.

渡辺弘之 (1971)

ツキノワグマ—その保護と生態—.

動物と自然. 1, (1), 9~14.

高橋喜平 (1974)

ツキノワグマ物語. 71~74. 筑摩書房.

渡辺弘之 (1974)

ツキノワグマの話. 125~144. 日本放送出版協会.

白附憲之 (1972)

テンの糞を追って.

Nature study. 18, 9~.

大津正英 (1971)

イタチの冬期の食性とその保護.

日本応動昆. 15, (2), 87~88.

河合雅雄 (1964)

ニホンザルの生態. 河出書房.

5. 引用文献

小泉清明・大谷隼人 編 (1966)

諏訪湖沼学文献リスト.

諏訪湖浄化対策特別委員会. 1~20.

日本ドクメンテーション協会 編 (1974)

UDC国際十進分類法 (中間版分類表). 1~410.

日本ドクメンテーション協会 編 (1975)

UDC国際十進分類法 (中間版索引). 1~350.

桜井善雄 (1973)

霧ガ峰の高層湿原および陸水に関する文献目録. 霧
ヶ峰の陸水. 93~96. 長野県.

資源科学研究所 編 (1950)

日本湖沼学文献目録. II. (昭和18年~昭和29年迄)

(1943~1949). 1~20.

諏訪の自然誌編集委員会 編 (1975)

文献目録—諏訪地域の地質に関する文献目録 (1974
年現在まで).

諏訪の自然誌, 地質編. 487~511. 諏訪教育会.

諏訪の自然誌編集委員会 編 (1978)

引用文献目録. 動物編. 諏訪教育会.

諏訪の自然誌編集委員会 編 (1981)

引用文献目録. 植物編. 諏訪教育会.

諏訪臨湖実験所 編 (1972)

諏訪臨湖実験所業績目録 (1962~1971). No.1. 1~5.

諏訪臨湖実験所 編 (1976)

諏訪臨湖実験所業績目録 (1972~1975). No.2.

諏訪臨湖実験所報告. 1, 60~62.

諏訪臨湖実験所 編 (1980)

諏訪臨湖実験所業績目録 (1975~1979). No.3.

諏訪臨湖実験所報告. 3, 117~119.

吉村信吉 編 (1944)

日本湖沼学文献目録. I. (昭和17年迄) (1883
~1942).

陸水学雑誌. 別巻. 第一輯. 1~131.